

農業機械研究部門年報

令和6年度
(2024年度)

令和7年11月

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
農業機械研究部門

目 次

I 部門の活動

1. 総 括

[1] 機械化連携推進部.....	1
1) 農業機械技術クラスター事業.....	1
(1) 農業機械技術クラスター事業の会員.....	1
(2) 専門委員会.....	1
(3) 農業機械技術検討委員会.....	1
(4) クラスター総会.....	1
(5) クラスター課題.....	2
2) 研究成果等.....	2
(1) クラスター課題.....	2
(2) 農林水産データ管理・活用基盤強化事業.....	3
(3) スマート農機のデータ交換規格に関する国際標準化 (BRIDGE)	3
[2] 安全検査部.....	4
1) 検査	4
(1) 安全性検査.....	4
(2) 一般性能試験.....	10
(3) OECD テスト	11
(4) 農耕作業用自動車等機能確認.....	11
2) 研究	11
(1) 安全評価グループ.....	11
[3] 知能化農機研究領域.....	11
1) 国際標準・土地利用型作業グループ.....	11
2) 施設園芸生産システムグループ.....	12
[4] 無人化農作業研究領域.....	12
1) 小型電動ロボット技術グループ.....	12
2) 革新的作業機構開発グループ.....	13
[5] システム安全工学研究領域.....	13
1) 予防安全システムグループ.....	13
2) 協調安全システムグループ.....	14
2. 成果情報	
[1] 普及成果情報.....	15
[2] 研究成果情報.....	15
3. 附属農場	
[1] 土地利用.....	16
[2] 作物別の作付面積・収穫面積.....	16
[3] 研究・検査との関連.....	16
[4] 気象概況.....	17
[5] 作物の生育概況.....	17

[6] その他	17
4. 知的財産権	
[1] 登 録	18
[2] 公 開	24
5. 技術指導	25
6. 技術協力等	
[1] 受託研修生.....	26
[2] 技術講習生.....	26
[3] 派遣研修.....	26
[4] 依頼研究員.....	26
[5] 教育研究研修生.....	26
7. 海外との連携協力	
[1] 国際会議.....	28
[2] 外国機関との連携.....	29
[3] 海外技術調査.....	29
[4] JICA 研修.....	30
[5] 海外派遣.....	30
[6] 海外からの来訪者.....	30
8. 留学・研修・技術調査	
[1] 国内留学.....	31
[2] 国内研修.....	31
[3] 在外研究.....	34
9. 受 賞	34
10. 学位記	34
11. 研究成果の発表等	
[1] 研究報告・研究成績等.....	35
[2] 学会誌・機関誌.....	36
[3] 学会・シンポジウム等講演要旨.....	38
[4] 著書・資料・雑誌等.....	41
[5] 講師・講演.....	45
II 収集・刊行・広報・会議・検討会	
1. 収 集	
[1] 情報収集.....	50
[2] 図書資料.....	50

2. 刊行・広報	
[1] 刊行物	50
[2] イベント・展示会.....	51
[3] 見学案内.....	52
[4] 情報発信.....	53
3. 会議・検討会	
[1] 農業機械研究部門研究報告会.....	55
[2] 農業機械開発改良試験研究打合せ会議.....	55
[3] 営農・作業技術試験研究推進会議.....	55
[4] 情報・意見交換会.....	56
[5] 評価関係会議.....	56
[6] 安全性検査業務関係会議.....	57
[7] 農業機械技術クラスター関係会議.....	57
III 総務	
1. 組織図	58
2. 会計	59
3. 土地・建物	60
4. 表彰	60
IV 農業機械化促進業務勘定 出資・寄附者	
1. 出資者	
[1] 食料食品業界.....	61
[2] 農業界	61
[3] 農業機械業界.....	61
[4] 都道府県.....	62
[5] 個人	62
2. 寄附者	
[1] 一般財界.....	62
[2] 食料食品業界.....	62
[3] 農業界	63
[4] 農業機械業界.....	64
[5] 都道府県他.....	65
[6] 個人	65
V 主要諸規程	66

VI 農業機械研究部門職員録.....	72
VII 主要刊行物目録	
1. 農業機械化研究所	
[1] 研究所報告.....	75
[2] 鑑定.....	76
[3] 検査.....	80
[4] 年報・年次報告等.....	81
[5] 試験研究成績（研究成績）.....	84
[6] その他の資料.....	89
[7] 翻訳等.....	91
[8] 文献目録.....	92
[9] 機械化情報関係.....	93
2. 農業技術革新工学研究センター	
[1] 年報・年次報告等.....	94
[2] 試験研究成績.....	94
[3] 検査.....	94
3. 農業機械研究部門	
[1] 年報・年次報告等.....	94
[2] 検査.....	49
VIII 案内図（本所・つくば研究拠点・附属農場）.....	96

注)本文中では、以下のとおり組織名を略して記すことがある。

農業・食品産業技術総合研究機構→農研機構

農業機械研究部門→農機研

I 部門の活動

1. 総括

[1] 機械化連携推進部

農業構造の大きな変化の中で新たな農業機械・システム化に当たっては、競争力強化に役立つ先端技術開発、農業機械の低コスト化、農作業安全の一層の強化が求められている。これらの課題に着実に対応するため、平成30年4月に新たな農業機械化を推進するための幅広い産学官連携のプラットフォームとして農業機械技術クラスター事業（以下、クラスター事業）を立ち上げたところである。

クラスター事業では、農業現場で緊急的に解決すべき課題、将来の農業のあるべき姿を見据えて取り組むべき課題等の解決に向け、研究開発が必要な課題については、クラスター会員による課題解決に最適な研究実施体制を構築して実施するとともに、中長期的に検討が必要な課題については、クラスター会員による専門委員会を設け、検討を行うこととしている。

1) 農業機械技術クラスター事業

(1) 農業機械技術クラスター事業の会員

農業機械メーカーや関係団体、異業種メーカー、都道府県（農業試験場等）、生産者等が会員になっており、会員数は、令和7年3月末現在242名（175組織）である。

(2) 専門委員会

国際化も視野に入れた農業機械の標準化・共通化に向けた課題に対応するため、「標準化・共通化推進委員会」を設置している。

本年度は、農業機械等から得られるデータ連携を推進することを目的とした農林水産省の令和6年度事業「みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業費補助金等のうちスマート農業の総合推進対策のうち農林水産データ管理・活用基盤強化事業」を活用し、「オープンAPI等による機器間連携実証」について、農機メーカーやICTベンダー等で構成した農機API利活用コンソーシアムで協議した。本コンソーシアムでは、キックオフ会議として第1回事業検討委員会を令和6年6月27日、中間取りまとめとして第2回事業検討委員会を12月13日、最終取りまとめとして第3回事業検討委員会を令和7年2月28日に開催した。

(3) 農業機械技術検討委員会

クラスター事業への助言・指導、実施課題の評価及び新規課題への助言を行う機関として、「農業機械技術検討委員会」を設置している。委員会は、生産者団体、農業関係団体、流通加工業、農業法人、金融機関、大学、他独法、行政の各分野から10名の有識者で構成されている。

本年度は、令和7年1月15日に第8回農業機械技術検討委員会を対面（本館・第一会議室）及びオンラインで開催した。最初に所長の挨拶後、令和6年度の活動報告として、機械化連携推進室から標準化・共通化推進委員会の取組について説明した。次に、令和6年度に実施した11課題（完了5課題、継続6課題）の評価が行われ、完了課題については、4課題が終了、1課題が延長で、継続課題については、予定どおり継続が承認された。また、令和7年度の新規課題として2課題（ポット苗仕様両正条田植機と直交機械除草を核とした水稲有機栽培体系の実証、マット苗仕様両正条田植機の実用化モデル開発及び直交機械除草を核とする水稲有機栽培体系の実証）の検討が行われた。最後に、機械化連携推進室から令和7年度の活動計画（案）について説明した。

(4) クラスター総会

本年度は、令和7年3月7日に対面（研究交流センター・はなの木ホール）及びオンラインで開催した。最初に所長の挨拶後、機械化連携推進室から令和6年度の活動報告として、クラスター実施課題の概要、専門委員会活動、開催した会議の概要について説明するとともに、標準化・共通化推進委員会の活動（農機API）を説明した。次に、クラスター研究課題報告として、令和6年度に完了した4課題（①雑穀類対応コンバイン、②両正条田植機、③かんしょ茎葉処理機、④ヤマトイモ収穫機）について、それぞれの研究代表者から報告が行われた。また、会議終了後には、完了課題の4機種の見学と開発者からの説明が行われた。

(5) クラスター課題

本年度クラスター事業で実施した課題は以下のとおりである。カッコ内は研究期間。

【地域農業機械化支援タイプ】<地域の問題解決のための農業機械開発>

- ①雑穀類対応コンバインの開発（2021～2023～2024）—終了
- ②かんしょの作付け拡大を支援する高能率収穫体系の開発（2021～2023～2024）—終了
- ③ヤマトイモ収穫作業機械化体系の開発（2022～2024）—終了
- ④らっきょう収穫機の開発（2023～2025）

【革新コア技術実用化タイプ】<開発を一層加速化するための革新的な実用化技術開発>

- ⑤高湿材適応コンバインの開発（2023～2025）
- ⑥小型電動農業機械用バッテリー保持機構の開発（2024～2026）

【次世代革新基盤技術タイプ】<次世代の革新的な機械・装置の萌芽となる技術開発>

- ⑦両正条田植機の開発（2022～2024）—終了
- ⑧土塊・石礫除去装置付きポテトハーベスタの開発（2023～2025）

【新技術導入効果実証タイプ】<農作業安全の研究成果や開発機器の現場導入における効果を検証>

- ⑨現場改善による農作業安全の実証研究（2022～2024～2025）—延長
- ⑩ほ場栽培データと乾燥調製データを統合したデータ駆動型水稻作の実証（2023～2025）
- ⑪農作業安全を考慮した基盤整備事業におけるリスク低減効果の実証（2023～2026）

2) 研究成果等

(1) クラスター課題

①土地利用型の課題

雑穀類対応コンバインの開発では、試作1号機のヘッダ部、脱穀選別部に改良した試作部材を取り付けた試作2号機を供試し、アマランサス、エゴマ、タカキビの収穫作業への適応性及び経済性を評価した結果、標準機より穀粒損失を大幅に低減し、作業能率が1.2～3.3倍に向上することを確認するとともに、仮定の市販価格での試算では、上記穀物3品目のみでの使用の場合、負担可能面積は22.7ha、損益分岐点面積は合計で20.6haであった。

高湿材適応コンバインの開発では、新たな作業モード（車速制御）を実装した6条刈り収量コンバインを供試し、穀粒口流量、穀粒水分、排塵口損失、穀粒品質等について調査した結果、露が付着した水稻に対する適応性が明らかとなった。

両正条田植機の開発では、昨年度までに製作した試作1号機について、植付苗位置精度向上のための対策を行った結果、車速0.44m/sと0.84m/sの何れでも開発目標の $2\sigma \leq 3\text{cm}$ を達成した。また、植付姿勢評価試験を実施した結果、移植された苗の傾斜角度は4日間を経て直立に近い良好な状態になることを確認した。

ほ場栽培データと乾燥調製データを統合したデータ駆動型水稻作の実証では、今年度の各種データを収集・可視化するとともに、昨年度のデータを基に施肥法の改善を提案し栽培した「にじのきらめき」においては、施肥法・栽培法間の収量のばらつきが小さくなるとともに、低収のほ場が減り、改善提案を基に施肥法を変えたほ場ではほぼ全てで実収が増え、可視化を基にした改善の効果が認められたことを明らかにした。

②園芸分野の課題

かんしょの作付け拡大を支援する高能率収穫体系の開発では、製作した試作4号機を供試し、現地試験を実施した結果、しょ梗と塊根の分離は約10%で、人手によるつる刈作業が必要であったが、連続作業ができれば延作

業時間は目標の20%を削減できた。また、現地検討会を開催し、試作4号機による実演やアンケート調査を行った。

ヤマトイモ収穫作業機械化体系の開発では、改良した掘取機でヤマトイモを掘り上げた後、掘取刃を改良したイモ類収穫機で拾い上げる新たな収穫作業体系を構築し、その省力効果を検証した結果、慣行作業（掘り上げ：プラウ、掘り出し：人力、収容：運搬車利用）と比較し、作業時間を50%削減することができた。

らっきょう収穫機の開発では、昨年度試作したらっきょう収穫機を供試し、引き抜き部及び調製部における挙動や性能を確認し、課題を抽出した。また、慣行作業における調製状況を確認するため、らっきょう共同乾燥調製施設で調査を行い、茎長、根長については、機械開発を進める上での指標を得ることができた。

小型電動農業機械用バッテリー保持機構の開発では、電動二輪車用交換式バッテリー（MPP）の収納装置を搭載するため、MPP対応の電動野菜移植機及び電動運搬車を設計・試作し、消費電力量や振動等について調査し、課題を整理した。

土塊・石礫除去装置付きポテトハーベスタの開発では、AIコンピュータとカメラの変更、制御ソフトウェアの改修を行い、処理速度などシステム全体の性能向上を図った。現地ほ場で収穫試験を実施した結果、作業速度が1km/hであれば夾雑物除去率は8割を超え、塊茎の誤選別も1%以下と、目標値を達成した。

③農作業安全の課題

現場改善による農作業安全の実証研究では、リスクアセスメントに基づく標準作業手順書の作成方法について、座学と作成実習による研修を行った。対象とした作業はインシデントが発生したスライドモア作業とし、分析された原因と改善提案を参考にして案を作成し、モデル農場の職員とともに農機具庫から作業現場までの各場面での検証を重ね、作成した。

農作業安全を考慮した基盤整備事業におけるリスク低減効果の実証では、モデル地区において実施されるほ場整備において、農作業安全への意識向上に向けた対話型研修ワークショップを実施するとともに、ほ場整備事業において農作業安全を図るための実施設計案を策定した。また、事業前の草刈り作業、耕うん、田植え等の作業性と安全面の課題を調査した。

(2) 農林水産データ管理・活用基盤強化事業

様々な農業用デバイスから取得されるデータを安全かつ効率的に営農管理情報システムへ連携させるため、標準的なAPI仕様の策定等の環境整備に取り組むことを目的に、令和3～5年度に農機メーカー、ICTベンダー、業界団体等を構成員とした「農機API共通化コンソーシアム」において事業を実施した。令和6年度は、更なるデータの活用を進め、異なる種類・メーカーの機器やシステムから取得されるデータの連携実証を図るため、農機メーカーやICTベンダー等で構成員とした「農機API利活用コンソーシアム」において、事業を実施した。

本連携実証では、水稻作と施設園芸の2分野で取り組んだ。水稻作については、「稼働状況情報と経営情報の連携による作業や栽培計画の改善」及び「業務日誌を効率的に作成し、資材管理・労務管理を省力化する」の2つのユースケースの実現を目指し、前者のユースケースでは、プレハーベストとポストハーベストの統合管理機能、作業記録自動作成機能を構築し、後者のユースケースでは、作業記録の自動生成機能の精度・取扱性を評価した。また、施設園芸については、生育・収量予測を営農支援システムで提供する新たな営農サービス創出を行うとともに、自治体が提供する営農支援サービスでの農機APIの接続検証を行った。

(3) スマート農機のデータ交換規格に関する国際標準化（BRIDGE）

令和6年度内閣府の研究開発とSociety5.0との橋渡しプログラム（BRIDGE）標準活用加速化支援事業では最大5年延長が可能となり、本課題は3年間の計画で提案し、採択された。複数年継続するためには、年明けに実施されるステージゲート審査において了承される必要があり、年末から成果の取りまとめを行うこととなった。

令和6年度は、「①市場形成、ビジネス戦略、国際標準化戦略等の国内合意形成に関する活動、②国際標準化人材の育成（セミナー、OJT活動の支援）、③スマート農機に関する国際標準の開発、④ASEAN諸国との2国間連携によるスマート農業技術移転、⑤スマート施設園芸の国際標準化に関する戦略策定」の5本柱で実施することとし、そのうち機械化連携推進室は①及び④を担当した。その他の②は本部国際標準化推進室、③は知能化農機研究領域、⑤は野菜花き研究部門が担当し、特に③については、④ASEAN諸国との2国間連携によるスマート農業技術移転と連携して進

めることとした。①は機械化連携推進室と委託先の NRI シンガポールと(株)野村総合研究所が連携して進め、国内協議会の設立及び運営、競合国におけるスマート農業の標準化戦略、オープン・クローズ戦略等の調査・分析を行った。国内協議会設立、運営については国内ステークホルダー間で合意形成するため協議会として2つの分科会(「水稲作分科会」及び「施設園芸分科会」とし、水稲作分科会は令和6年12月19日に第1回、令和7年3月18日に第2回を開催し、施設園芸協議会は令和7年3月18日に第1回を開催した。調査・分析では、競合国として米国、欧州、中国、韓国、インドの5か国、活動対象となる ASEAN 地域の国はインドネシア、ベトナム、タイ、フィリピンの4か国について農業関係ビジネス進出動向、国際標準化戦略動向、知財動向、各国の法規制及び商慣習等を調査・分析した。④については委託先の ListenField(株)が主体として機械化連携推進室、NRI シンガポール、(株)野村総合研究所と連携して進め、タイ国内3カ所の実証地において、開発したワークオーダー/ワークレポート/ペイメントアプリ等を用いたデータ連携実証を行った。また、次年度実証予定のベトナムについて、実証地等の調査を ListenField(株)、NRI シンガポール、野村総合研究所が主となって行い、候補地をいくつか確保した。

[2] 安全検査部

安全検査部は、安全性検査をはじめ、一般性能試験、OECD テスト及び農耕作業用自動車等機能確認などの評価試験並びに認証業務に加え、これらに資する試験方法や計測技術、評価手法等の研究開発を行っている。

1) 検査

(1) 安全性検査

安全性検査は、安全装備検査、安全キャブ・フレーム検査及びロボット・自動化農機検査から構成される。このうち、安全装備検査では、初年度(2018年度)から適用している「2018年基準」と危険源からの防護をはじめとした安全基準を強化し、電気等の新たな動力源や電気・電子制御を用いた機械・施設にも適用可能な「2019年基準」があり、適用する基準を依頼者の任意選択としている。

また、安全性検査受検合格機は、一律に☆(星1個)を付与し基本ランクと定め、機種ごとに基本ランクよりも安全度の高い機能・装備を有したものに☆☆(星2個)を付与し、上位ランクと認定している。

①農業機械安全性検査実施規程に基づく令和6年度(令和6年4月～令和7年3月受付分)の安全性検査実施状況は、表1-1のとおり申込型式数が8機種109型式、合格型式数が7機種102型式であった。

表1-1 安全性検査実施一覧

機種名	申込型式	合格型式
農用トラクター(乗用型)	44	38
農用トラクター(歩行型)	3	3
田植機	15	15
野菜移植機	1	1
コンバイン(自脱型)	12	12
コンバイン(普通型)	5	5
乾燥機(穀物用循環型)	28	28
合計	109	102

(令和6年4月～令和7年3月受付分)

②令和6年度(令和6年4月～令和7年3月受付分)の安全性検査申込受付期日、検査期間、検査場所、成績通知期日、依頼者数及び型式数は、表1-2のとおりであった。

表1-2 申込受付期間等の一覧

申込受付 期 日	検査期間	検査場所	成績通知 期 日	依頼者数 及び型式数
令6.5.10 令6.5.10 令6.5.10 令6.5.13 令6.5.20 令6.5.21 令6.5.24 令6.5.24	令6.5.30-7.17 令6.6.4-7.17 令6.6.4-7.17 令6.6.10-7.17 令6.6.3-7.17 令6.6.11-7.17 令6.6.18-7.17 令6.6.17-7.17	企業内 農業機械研究部門 " 企業内 農業機械研究部門 企業内 " 農業機械研究部門	令6.8.21	4社32型式
令6.4.25 令6.4.22 令6.5.24 令6.6.20	令6.5.27-8.23 令6.6.27-8.23 令6.6.24-8.23 令6.7.11-8.23	農業機械研究部門 企業内 農業機械研究部門 企業内	令6.9.18	4社20型式
令6.7.2 令6.8.6	令6.8.9-10.7 令6.8.30-10.7	農業機械研究部門 "	令6.10.30	2社9型式
令6.8.29 令6.9.2 令6.9.6 令6.9.18	令6.9.30-11.20 令6.10.7-11.20 令6.10.15-11.20 令6.10.21-11.20	農業機械研究部門 " " "	令6.12.18	4社17型式
令6.10.11 令6.10.11 令6.10.31	令6.10.30-令7.1.22 令6.11.19-令7.1.22 令6.11.25-令7.1.22	農業機械研究部門 企業内 "	令7.2.18	3社4型式
令6.12.2	令7.1.17-令7.3.28	企業内	令7.5.7	1社5型式
令7.1.24 令7.1.31 令7.3.3 令7.3.11 令7.3.12	令7.2.25-令7.5.12 令7.3.3-令7.5.12 令7.3.24-令7.5.12 令7.3.28-令7.5.12 令7.4.3-令7.5.12	農業機械研究部門 " 企業内 農業機械研究部門 企業内	令7.6.11	4社15型式

(令和6年4月～令和7年3月受付分)

③令和6年度(令和6年4月～令和7年3月受付分)の検査基準・安全装備ランク別の安全性検査合格機の型式名、依頼者の名称及び合格番号は、次表のとおりであった。

2019年基準の上位ランク(☆☆星2個)に該当した農業機械は、農用トラクター(乗用型)の1機種であり、4社36型式であった(表1-3)。

表1-3 合格機一覧
(2019年基準・上位ランク☆☆)

型式名	依頼者の名称	合格番号
キセキ T2074	井関農機株式会社	NARO 24/001
キセキ T2074Z	"	NARO 24/002
キセキ T2084	"	NARO 24/003
キセキ T2084Z	"	NARO 24/004
キセキ T2094	"	NARO 24/005
キセキ T2094Z	"	NARO 24/006
キセキ T2104	"	NARO 24/007
キセキ T2104Z	"	NARO 24/008
キセキ T2074C	"	NARO 24/009
キセキ T2074CZ	"	NARO 24/010

キセキ T2084C	〃	NARO 24/011
キセキ T2084CZ	〃	NARO 24/012
キセキ T2094C	〃	NARO 24/013
キセキ T2094CZ	〃	NARO 24/014
キセキ T2104C	〃	NARO 24/015
キセキ T2104CZ	〃	NARO 24/016
MF8S 265EP	エム・エス・ケー農業機械株式会社	NARO 24/033
MF8S 245EP	〃	NARO 24/034
MF6S 145V	AGCO S. A.	NARO 24/062
キセキ T2114	井関農機株式会社	NARO 24/063
キセキ T2114Z	〃	NARO 24/064
キセキ T2114C	〃	NARO 24/065
キセキ T2114CZ	〃	NARO 24/066
キセキ T2124	〃	NARO 24/067
キセキ T2124Z	〃	NARO 24/068
キセキ T2134	〃	NARO 24/069
キセキ T2134Z	〃	NARO 24/070
キセキ T2134C	〃	NARO 24/071
キセキ T2134CZ	〃	NARO 24/072
キセキ T2144	〃	NARO 24/073
F211VARIO G3	エム・エス・ケー農業機械株式会社	NARO 24/088
ヤンマー T0311	ヤンマーアグリ株式会社	NARO 24/089
ヤンマー T0313	〃	NARO 24/090
ヤンマー T0310	〃	NARO 24/091
ヤンマー T0312	〃	NARO 24/092
ヤンマー T0309	〃	NARO 24/093

(令和6年4月～令和7年3月受付分)

2019年基準の基本ランク(☆星1個)に該当した農業機械はなかった。

2018年基準の上位ランク(☆☆星2個)に該当した農業機械は、農用トラクター(乗用型)、コンバイン(自脱型)及び乾燥機(穀物用循環型)の3機種であり、4社18型式であった(表1-4)。

表1-4 合格機一覧
(2018年基準・上位ランク☆☆)

型式名	依頼者の名称	合格番号
キセキ H115G	井関農機株式会社	NARO 24/019
キセキ H116G	〃	NARO 24/020
キセキ H117G	〃	NARO 24/021
ヤンマー C0023	ヤンマーアグリ株式会社	NARO 24/022
ヤンマー C0022	〃	NARO 24/023
ODR25G	株式会社サタケ	NARO 24/075
ODR45G	〃	NARO 24/076
ODR60G	〃	NARO 24/077
ODR45GS	〃	NARO 24/078
クボタ M125GE-AT	株式会社クボタ	NARO 24/079
NDR45F	株式会社サタケ	NARO 24/083
NDR60F	〃	NARO 24/084

NDR75F	〃	NARO 24/085
NDR90F	〃	NARO 24/086
NDR105F	〃	NARO 24/087
キセキ H115GZ	井関農機株式会社	NARO 24/098
キセキ H116GZ	〃	NARO 24/099
キセキ H117GZ	〃	NARO 24/100

(令和6年4月～令和7年3月受付分)

2018年基準の基本ランク(☆星1個)に該当した農業機械は、農用トラクター(乗用型)、農用トラクター(歩行型)、田植機、野菜移植機、乾燥機(穀物用循環型)、コンバイン(自脱型)及びコンバイン(普通型)の7機種であり、8社48型式であった(表1-5)。

表1-5 合格機一覧
(2018年基準・基本ランク☆)

型式名	依頼者の名称	合格番号
クボタ TME200	株式会社クボタ	NARO 24/017
クボタ TME150	〃	NARO 24/018
クボタ R2202GS	〃	NARO 24/024
クボタ R2305	〃	NARO 24/025
クボタ DRH1200A-OP	〃	NARO 24/026
クボタ DRH1200	〃	NARO 24/027
ヤンマー C0020	ヤンマーアグリ株式会社	NARO 24/028
ヤンマー C0019	〃	NARO 24/029
山本 HD-80VDR	株式会社山本製作所	NARO 24/030
山本 HD-70VDR	〃	NARO 24/031
山本 HD-60VDR	〃	NARO 24/032
VALTRA N135D	中西商事株式会社	NARO 24/035
クボタ V2312	株式会社クボタ	NARO 24/036
SDR3000XX	株式会社サタケ	NARO 24/037
SDR3500XX	〃	NARO 24/038
SDR4000XX	〃	NARO 24/039
SDR4500XX	〃	NARO 24/040
SDR5000XX	〃	NARO 24/041
SDR5500XX	〃	NARO 24/042
SDR6000XX	〃	NARO 24/043
SDR6500XX	〃	NARO 24/044
SDR3000XD	〃	NARO 24/045
SDR3500XD	〃	NARO 24/046
SDR4000XD	〃	NARO 24/047
SDR4500XD	〃	NARO 24/048
SDR5000XD	〃	NARO 24/049
SDR5500XD	〃	NARO 24/050
SDR6000XD	〃	NARO 24/051
SDR6500XD	〃	NARO 24/052
クボタ NW80SA-A	株式会社クボタ	NARO 24/053
クボタ NW80SA-OP	〃	NARO 24/054
クボタ NW80S-GS	〃	NARO 24/055
クボタ NW60S-GS	〃	NARO 24/056
クボタ NW60S	〃	NARO 24/057

三菱 P2401	三菱マヒンドラ農機株式会社	NARO 24/058
三菱 P2402	〃	NARO 24/059
三菱 P2403	〃	NARO 24/060
三菱 P2404	〃	NARO 24/061
クボタ DRH1200A-A	株式会社クボタ	NARO 24/074
クボタ TMS400	オカネツ工業株式会社	NARO 24/080
キセキ P0885A	井関農機株式会社	NARO 24/081
キセキ P0894A	〃	NARO 24/082
クボタ NW80N	株式会社クボタ	NARO 24/094
クボタ NW50S-GS	〃	NARO 24/095
クボタ NW60N	〃	NARO 24/096
クボタ NW50N	〃	NARO 24/097
クボタ R1801GS	〃	NARO 24/101
クボタ R1803GS	〃	NARO 24/102

(令和6年4月～令和7年3月受付分)

ロボット・自動化農機検査のうち自動化農機検査に適合した農業機械は、農用トラクター（乗用型）、田植機、野菜移植機、コンバイン（自脱型）及びコンバイン（普通型）の5機種であり、4社36型式（表1-6）、ロボット農機検査に適合した農業機械は、田植機、コンバイン（普通型）及び乾燥機（穀物用循環型）の遠隔監視装置の3機種であり、2社11型式であった（表1-7）。

表1-6 合格機一覧
(自動化農機)

型式名	依頼者の名称	合格番号
キセキ T2074Z	井関農機株式会社	NARO 24/002
キセキ T2084Z	〃	NARO 24/004
キセキ T2094Z	〃	NARO 24/006
キセキ T2104Z	〃	NARO 24/008
キセキ T2074CZ	〃	NARO 24/010
キセキ T2084CZ	〃	NARO 24/012
キセキ T2094CZ	〃	NARO 24/014
キセキ T2104CZ	〃	NARO 24/016
ヤンマー C0023	ヤンマーアグリ株式会社	NARO 24/022
ヤンマー C0022	〃	NARO 24/023
クボタ R2202GS	株式会社クボタ	NARO 24/024
クボタ DRH1200A-OP	〃	NARO 24/026
クボタ DRH1200	〃	NARO 24/027
ヤンマー C0020	ヤンマーアグリ株式会社	NARO 24/028
クボタ V2312	株式会社クボタ	NARO 24/036
クボタ NW80SA-OP	〃	NARO 24/054
クボタ NW80S-GS	〃	NARO 24/055
クボタ NW60S-GS	〃	NARO 24/056
三菱 P2402	三菱マヒンドラ農機株式会社	NARO 24/059
三菱 P2404	〃	NARO 24/061
キセキ T2114Z	井関農機株式会社	NARO 24/064
キセキ T2114CZ	〃	NARO 24/066
キセキ T2124Z	〃	NARO 24/068
キセキ T2134Z	〃	NARO 24/070
キセキ T2134CZ	〃	NARO 24/072

ヤンマー T0313	ヤンマーアグリ株式会社	NARO 24/089
ヤンマー T0312	〃	NARO 24/090
ヤンマー T0311	〃	NARO 24/091
ヤンマー T0310	〃	NARO 24/092
ヤンマー T0309	〃	NARO 24/093
クボタ NW50S-GS	株式会社クボタ	NARO 24/095
キセキ H115GZ	井関農機株式会社	NARO 24/098
キセキ H116GZ	〃	NARO 24/099
キセキ H117GZ	〃	NARO 24/100
クボタ R1801GS	株式会社クボタ	NARO 24/101
クボタ R1803GS	〃	NARO 24/102

(令和6年4月～令和7年3月受付分)

表1-7 合格機一覧
(ロボット農機)

型式名	依頼者の名称	合格番号
クボタ NW80SA-A	株式会社クボタ	NARO 24/053 NARO
クボタ DRH1200A-A	〃	24/074
ODR25G	株式会社サタケ	NARO 24/075
ODR45G	〃	NARO 24/076
ODR60G	〃	NARO 24/077
ODR45GS	〃	NARO 24/078
NDR45F	〃	NARO 24/083
NDR60F	〃	NARO 24/084
NDR75F	〃	NARO 24/085
NDR90F	〃	NARO 24/086
NDR105F	〃	NARO 24/087

(令和6年4月～令和7年3月受付分)

安全キャブ・フレーム検査に適合した農業機械は、4社11型式であった(表1-8)。

表1-8 合格機一覧
(安全キャブ・フレーム検査)

型式名	依頼者の名称	装着トラクター型式名 及び合格番号	
キセキ SC193	井関農機株式会社	キセキ T2074 NARO 24/001	
	〃	キセキ T2074Z NARO 24/002	
	〃	キセキ T2084 NARO 24/003	
	〃	キセキ T2084Z NARO 24/004	
	〃	キセキ T2094 NARO 24/005	
	〃	キセキ T2094Z NARO 24/006	
	〃	キセキ T2104 NARO 24/007	
	〃	キセキ T2104Z NARO 24/008	
	キセキ SC193C	〃	キセキ T2074C NARO 24/009
		〃	キセキ T2074CZ NARO 24/010
〃		キセキ T2084C NARO 24/011	
〃		キセキ T2084CZ NARO 24/012	

	〃 〃 〃 〃	キセキ T2094C NARO 24/013 キセキ T2094CZ NARO 24/014 キセキ T2104C NARO 24/015 キセキ T2104CZ NARO 24/016
AGCO MC100	エム・エス・ケー農業機械株式会社	MF8S 265EP NARO 24/033
	〃	MF8S 245EP NARO 24/034
VALTRA CS202SN	中西商事株式会社	VALTRA N135D NARO 24/035
キセキ SC192	井関農機株式会社	キセキ T2114 NARO 24/063
	〃	キセキ T2114Z NARO 24/064
	〃	キセキ T2124 NARO 24/067
	〃	キセキ T2124Z NARO 24/068
	〃	キセキ T2134 NARO 24/069
	〃	キセキ T2134Z NARO 24/070
キセキ SC192C	〃	キセキ T2114C NARO 24/065
	〃	キセキ T2114CZ NARO 24/066
	〃	キセキ T2134C NARO 24/071
	〃	キセキ T2134CZ NARO 24/072
キセキ SC191	〃	キセキ T2144 NARO 24/073
キセキ SF728	〃	キセキ T2114 NARO 24/063
	〃	キセキ T2114Z NARO 24/064
	〃	キセキ T2124 NARO 24/067
	〃	キセキ T2124Z NARO 24/068
	〃	キセキ T2134 NARO 24/069
	〃	キセキ T2134Z NARO 24/070
キセキ SF727	〃	キセキ T2144 NARO 24/073
クボタ IC125GE-AT	株式会社クボタ	クボタ M125GE-AT NARO 24/079
FENDT S1-20P_M25	エム・エス・ケー農業機械株式会社	F211VARIO G3 NARO 24/088

(令和6年4月～令和7年3月受付分)

④概評

合格機は、合計10社7機種102型式であった。その内訳は、安全装備検査が10社102型式、ロボット・自動化農機検査が5社47型式、安全キャブ・フレーム検査が4社11型式であった。

(2) 一般性能試験

農業機械一般性能試験実施規程に基づく令和6年度（令和6年4月～令和7年3月受付分）の一般性能試験の実施状況は、表1-9のとおり合計6型式であった。

表1-9 一般性能試験実施一覧

機 種	型式数	担 当
農用トラクター(乗用型)用安全フレーム	4	安全評価グループ
刈払機刈刃	1	安全評価グループ
乗用フロントモア用ROPS	1	安全評価グループ
合 計	6	

(令和6年4月～令和7年3月受付分)

(3) OECDテスト

OECDテスト実施規程に基づくOECDテストは、今年度実施しなかった。

(4) 農耕作業用自動車等機能確認

農耕作業用自動車等機能確認実施規程に基づく令和6年度（令和6年4月～令和7年3月受付分）の機能確認の実施状況は、表1-10のとおり農耕トラクター1社2型式（4類別）、刈取脱穀作業車2社3型式（6類別）であり、合計3社5型式（10類別）であった。

表1-10 機能確認実施一覧

機種	依頼者名	報告年月日	型式数 ()は類別数
農耕トラクター	エム・エス・ケー農業機械株式会社	令6.9.5	1(2)
		令和7.5.15	1(2)
刈取脱穀作業車	井関農機株式会社 株式会社クボタ	令6.7.26	2(5)
		令6.7.29	1(1)
合計			5(10)

(令和6年4月～令和7年3月受付分)

2) 研究

(1) 安全評価グループ

農林水産省の「令和6年度農業機械の安全性能アセスメント委託事業」において、農用高所作業機を対象とした安全性能に関する試験手法の作成を行った。供試機については、各社のカタログデータ等により昇降方式（垂直昇降型、ブーム型）や機体規格等の仕様を確認して分類を行い9型式の選定を行った。機械の転落・転倒に対する安全性の試験手法については、運転者や荷物を作業台に乗せた状態で上昇させた時の安定性が特に重要であることから、通常の間車時に加えて作業台積載かつ上昇状態での静的転倒角も測定して評価対象にし、挟まれ・ひかれに対する安全性の試験手法については、機械が後進速度けん制装置を備えているかどうか、また緊急停止装置、挟圧防止装置、デッドマン式クラッチ等の安全装置を備えているかどうか、それらが作動してから実際に機械が停止するまでの距離はどれぐらいか、挟圧防止装置については作動時に発生する力がどれぐらいか等について把握することとした。さらに供試機の構造が安全装備検査基準に適合しているか否かについての確認も行うこととし、令和7年度にこれらの試験手法に基づいて実際に供試機の安全性を評価する予定である。

[3] 知能化農機研究領域

知能化農機研究領域では、労働時間の大幅削減に向け、スマート農機間のデータ交換技術の開発と仕様の策定に基づく国際標準化の推進、知能化農機及び農作業システムの開発、データ駆動型施設園芸における作業・管理システムの開発等を行っている。今年度は各研究グループにおいて以下の研究開発を実施した。

1) 国際標準・土地利用型作業グループ

データ交換仕様の国際標準化と知能化農作業システム構築のために、以下の3つの実施項目に取組んだ。①国際標準化に向けたデータ互換性と知能化農機運用、②土地利用型農作業の知能化モデルの構築、③ほ場間移動を可能とする遠隔監視型ロボットの開発

①では、データ交換技術のアジア地域の水田作への適応を目指し、国際的な業界団体であるAgGatewayが提唱するADM（ADAPT Data Model）の拡張を提案し、採用の見込みを得た。また、ISOBUSを用いてトラクタの制御を行うTIMサーバECUを開発し、ロボ研が開発する砕土率センサと連携して車速制御耕耘が可能であることを確認した。②では、開発したほ場凹凸マップと均平ガイダンス装置の利用により、均平作業の作業時間を約2割削減可能であることを確認した。作業機自動着脱技術の開発では、早期社会実装のため運転手が搭乗した状態で作業機の装着をアシストする装置を試作し、GNSSを利用したアシストで100%の装着成功率を達成した。③では、遠隔監視型ロボット農機で安全性を確保したほ場間

移動を実現するため、ロボットに搭載したセンサ等で認識した障害物や道幅等の制約条件を考慮して回避経路を生成し、障害物を自動的に回避して走行する技術を開発した。また、人工・自然ランドマークの混在環境で両者を同時に認識することで高精度な相対位置計測を実現する技術を開発した。さらに、農機・自動車メーカーや地方自治体等が参加する協議会において、遠隔監視プラットフォームや農機用デジタルマップの機能や仕様を協調領域技術として提案するとともに、会合参加者の経験や問題意識の共有により協調領域の議論を継続する環境を醸成した。

2) 施設園芸生産システムグループ

施設園芸における労務管理の最適化や自動化された作業管理体系の構築を実現するため、以下の2つの実施項目に取組んだ。①果菜類生育情報診断システムによる労務管理の最適化、②果菜類の作業・管理ロボットシステムの開発

①では、果菜類生育情報診断システムを搭載する自動走行台車に、軽量化やパイプレールのズレへの適応性の向上を図る改良を加えた。また、果実検出アルゴリズムの改良により検出精度AP=80%以上を達成し、検出精度が収量予測誤差へ及ぼす影響を明らかにするとともに、計測列数と収量予測誤差の統計的な関係を実証試験により解明した。作業情報収集システムの開発では、機種間差を解消するキャリブレーション手法と低所作業に特化した判断アルゴリズムを導入し、スマートフォンの機種に依らない正確な作業推定と低所作業への対応を実現した。②では、大玉トマトを対象とし、切断作業部と自動走行台車から構成される下葉処理ロボットシステムを構築し、6軸力覚センサを用いた切込み制御の高度化や主茎を保護するバンパ装着等の改良により、主茎の損傷は0%、下葉切断成功率は70~100%であることを確認した。また、接ぎ木装置の開発では、メーカーと連携して樹脂テープ張力の制御や苗の切断方法に改良を加えた市販化を前提とした試作2号機を設計・製作し、農機研内における導入前試験で90%以上の活着率が得られることを確認した。

[4] 無人化農作業研究領域

無人化農作業研究領域では、小型電動ロボットを核とする無人化農業の実現に向けた農業機械の開発研究を下記の2グループの体制で実施した。全体としての研究方向性としては、主にみどりの食料システム戦略の目標達成に資する技術開発として両正条田植機や両正条植え水稻ほ場における除草技術のほか、小型農機の電動化技術、耐天候性の高い収穫技術の開発を進めた。両正条田植機の開発では、次年度（令和7年度）以降の実用化研究を見据えて企業との連携を強化し、実用機開発と現地実証に向けた体制整備を進めた。また、小型農機電動化技術に関しては、他産業分野で規格化された交換式バッテリーを利用する小型農機の見通しを得ており、実用化に向けた技術的基盤を確立しつつある。さらに、農業におけるカーボンニュートラル実現に大きく貢献する技術として籾殻燃焼装置を利用する穀物乾燥システムの開発と化石燃料使用量削減効果については現地実証試験で有効性の検証を継続した。

1) 小型電動ロボット技術グループ

小型電動農業機械用バッテリー保持機構の開発では、他産業で共通利用が進んでいる交換式バッテリーを搭載した電動の野菜移植機・電動農業用運搬車を試作し、その性能試験を検討し、課題の整理を行った。

送風受粉等の施設内省力的栽培管理技術の研究開発では、送風受粉や新葉観測・葉面積計測に適するドローンの飛行方法を検討するとともに、生産現場での実証実験に向けた準備を行った。

同一果実の開花から成熟までの追跡による促成栽培イチゴの収量予測と的確な摘花の提案では、撮影条件への適用性が高い栽培列のパノラマ画像合成手法の基礎技術を確立するとともに、生育データに基づく的確な摘花法の検討を開始した。

施設園芸の脱炭素化に資するゼロエネルギーグリーンハウス（ZEG）の開発・実証では、施設園芸内での汎用小型電動ロボットの汎用利用について、振動計測を行い、防振機構を試作した。また、走行しながら環境計測を行う手法を考案し評価した。

JA 西三河いちご部会における生産から販売のデータ駆動一貫体系の実証では、イチゴ施設内での汎用小型電動ロボットについて、温室環境計測のため定刻に自動的に決められた経路を走行し、走行終了後、充電装置にて自動充電できることを確認した。

小型電動ロボットの複数台同時運用システムの開発では、小型電動ロボットの無線通信装置と複数台の小型電動ロボットと通信し、状態を監視するソフトウェアを試作した。

栽培管理の省力化と効率化につながる生体観測技術の開発では、生産現場で簡易にバンカーの状態を数値化することが可能な観測技術の開発を目的とし画像処理による複数微小対象の計数要件の解明およびバンカー観測プロトコル及び処理システムの考案を行った。

農業用自律作業台車等に搭載するAIを利用したスポット散布システムの開発では、作物と雑草を自動検出し、ノズルの動きを精密に制御するAIシステムを開発した。

2) 革新的作業機構開発グループ

革新的作業機構開発グループでは、収穫・出荷・流通工程のスマート化技術と耐天候性の高い革新的作業機構、現場ニーズに対応した機械の開発を行っている。

収穫・出荷・流通工程のスマート化では、籾殻燃焼装置を活用した灯油削減効果や、籾殻燃焼灰の保管・運搬、ほ場施用時の粉じん飛散対策、土壌に戻した場合のCO₂貯留量、燃焼条件と燃焼灰の物性の関係等について検討し、循環型生産体系確立のための基礎データを得た。

耐天候性の高い革新的作業機構については、夜露等の影響を受けた高水分穀物の収穫に関して高い適応性を備えた高湿材適応コンバインの開発を進め、現地試験を通じてその有用性を確認した。

現場ニーズ対応機械開発では、雑穀類対応コンバインの開発を進め、アマランサス・エゴマ・タカキビ等で従来機より穀粒損失を大幅に低減、作業能率を2割～3.3倍向上させた。乳牛BCS推定技術では、画像解析や3Dデータを活用した新たな推定手法を構築し、一定の精度で推定できる可能性を得た。ヤマトイモ収穫作業機械化体系の開発では、専用掘取機と収穫機を用いた新たな体系を構築し、慣行作業と比較して50%の省力化を実現した。さらに、らっきょう収穫機の試作・改良や、越冬ハクサイ頭部結束機のバッテリー駆動化、高精度位置制御播種技術の開発、飼料収穫機用破碎機の改良など、現場課題に対応した多様な機械開発を進めた。

[5] システム安全工学研究領域

農作業安全については、総件数は減少傾向にあるもの、従事者数当たりの死亡事故が全産業平均の約10倍に及んでおり、極めて深刻な状況にある。当領域では、このような状況を改善するために、スマート農業技術を活用した新たな安全システムを構築し、生産性と安全性をともに向上させる技術開発に取り組んでいる。予防安全システムグループでは、地域の営農を支える取り組みの一端として、データやIT、シミュレーション技術を活用し、農作業現場の事故を未然に防止する能力・機能を高めるための評価・啓発手法の開発に取り組んでいる。また、協調安全システムグループでは、農業機械のスマート化の一端として、人や環境の状態に応じて柔軟に動作することで作業性と安全性の両立を可能にする協調安全システムの開発に取り組んでいる。

1) 予防安全システムグループ

予防安全システムグループでは、農作業事故を未然に防止するための効果的な啓発・研修手法や農業機械の新たな安全性評価技術の開発に取り組んでいる。

令和6年度は、道県と連携して実施した農作業事故の詳細調査に基づき、農作業事故検索システムに23件の事故事例を追加した。研究成果に基づき、農作業安全指導者向け各種研修を通じて、各地域の指導担当者延べ約2,100名に研究成果に基づいた情報を周知するなど、研究成果の農業現場への普及を推進した。

VRを活用した危険体感型農作業安全教育手法について、研修担当者向けマニュアル『農作業事故体験VRを活用した学習プログラムの手引き』、「VR研修運営用tips」及び「虎の巻」を開発・公開した。また、これらを活用した自律的な研修の開催が行われ、円滑に運営されていることが確認されるなど、都道府県における導入が着実に推進された。

乗用型農用トラクタ用安全キャブ・フレームの強度試験シミュレーションに関する研究については、これまで小型トラクタ用安全フレームを対象に開発されてきたシミュレーション手法の適用範囲を中型トラクタ用安全フレーム及びキャブに拡大するため、材料試験を実施するとともに精度に影響の大きいマウント部の単体での精度検証方法の開発に取り組んだ。

農用トラクタの転倒・転落につながる危険挙動の再現技術については、シミュレーションと実機試験の整合性を向上させた。さらに、これらの研究成果を農業者への安全啓発に活用するため、実機動画及びシミュレーション動画に解説

を付与した安全啓発コンテンツを作成し、ウェブサイト「農作業安全情報センター」で公開した。

2) 協調安全システムグループ

協調安全システムグループでは、他産業で実用化が進行している「協調安全」の考え方を農業機械にも導入し、人と協働しながら作業環境に応じて動作する機能を有する新たな安全装置・安全システムの開発を行っている。

協調安全に基づくリスクアセスメント手法と安全システムの開発については、遠隔監視を行うロボット農機を対象に、監視者1名が複数のロボット農機を遠隔監視しながら運用する作業体系を対象に、他産業における安全規格等の調査及び現地実証試験の結果に基づき、リスク低減手段を明らかにした。

協調安全に基づく安全システムの開発については、補助者等の接近によるリスク事象を検出し、運転者に対して警告を発するシステムを開発し、ほ場試験において基本性能を把握した。また、ポテトハーベスタでの機上選別作業中の巻き込まれに対し、危険部位への手腕の進入を検知するシステムを開発し、ほ場試験により基本性能を把握した。

農業用アシストスーツの身体負荷軽減効果の評価手法に関しては、ISO/TC299/WG2にて行われているISO13482（サービスロボットの安全）の改訂に際し、エキスパートとして参画し、国内企業及び業界団体と密接に連携しながら研究成果に基づいた改正提案を行い、その一部が採用された。近日中にFDISとして公開される見込みである。

2. 成果情報

令和6年度（2024年度）に選定された成果情報は、下表のとおりである。

[1] 普及成果情報

成果情報名	要約	担当部署
国際標準化されたロボット農機の安全性に関する検査の主要な実施方法と基準	ロボット農機の安全性に関する国際規格であるISO18497:2024に、農研機構が開発・運用しているロボット・自動化農機検査の主要な実施方法と基準（ロボットトラクター用、ロボット田植機用）が附属文書として掲載されている。	安全検査部・安全評価グループ、システム安全工学研究領域・協調安全システムグループ
過熱水蒸気を利用した高温高湿度空気による環境保全型水稻種子消毒装置	過熱水蒸気を利用して水稻種子を高温短時間で熱消毒した後、冷却・乾燥まで連続処理する装置。種子消毒の処理能力は約500kg/hで、ばか苗病への防除効果は温湯消毒(60℃-10分)と同等である。種子1kgの処理に要する光熱水費は5.4円である。	機械化連携推進部・機械化連携推進室
ロボットコンバインの安全性に関する検査の主要な実施方法と基準	ほ場内やほ場周辺にいる使用者が目視で監視することにより無人で収穫作業を行うコンバインに対応する安全性検査の主要な実施方法及び基準である。人・障害物検出試験の検出対象に国際規格準拠の人間型検出体を新たに加えることで、AIカメラを搭載したロボットコンバインにも対応できる。	安全検査部・安全評価グループ

[2] 研究成果情報

成果情報名	要約	担当部署
農道における自動運転のためのロバストな自己位置推定技術	トラクタや運搬車等の農用車両の農道における自動運転のためのロバストな自己位置推定技術である。GNSS、AIによる走行路認識、ポールをランドマークとして用いる方法など、複数の自己位置推定法を信頼度に基づいて統合することで、道路インフラが未整備の多様な農道環境に対応する。	知能化農機研究領域・国際標準・土地利用型作業グループ
繰り返し作業におけるアシストスーツの腰部疲労軽減効果の評価手法	アシストスーツのアシストトルク(N・m)を三次元生体力学モデルと関節-筋疲労モデルに適用することで、農業での繰り返し作業(持ち上げ)における腰部疲労軽減効果の経時変化を推定する手法である。	システム安全工学研究領域・協調安全システムグループ

3. 附属農場

令和6年度の附属農場の利用状況は、以下のとおりである。

[1] 土地利用

水田：1,281a、 畑：88a、 宅地・道水路敷・その他：226a

[2] 作物別の作付面積・収穫面積

土地区分	作物・品種		作付面積[a]	収穫面積[a]	備考	
水田	水稲	彩のかがやき	810	810		
		彩のきずな	140	140		
		コシヒカリ	162	162		
		大地の風	146	146		
	麦類	小麦	113	113		
		〃	108	108		
	(裸地)		146	—	ロボットトラクタ等試験用	
畑	麦類	大麦	10	—	すき込み	
		〃	10	—	すき込み	
	豆類	大豆	30	30		
		葉菜類	キャベツ	2	2	
			ブロッコリ	1	1	
		ハクサイ	3.5	3.5		
	いも類	ジャガイモ	8	8		
	その他	ダイコン	1	1		

[3] 研究・検査との関連

作物	実験項目	使用面積[a]	担当部・領域
水稲	両正条田植機の開発	200	無人化農作業研究領域
	両正条植水稲ほ場の高能率水田除草試験	222	〃
	耐天候性コンバイン試験	300	〃
	コンバイン後部データ取得試験	100	システム安全工学研究領域
	乾田直播水稲栽培試験	45	知能化農機研究領域
	自動均平作業試験	260	〃
麦	耕耘、収穫作業時の粉塵測定	113	システム安全工学研究領域
	コンバイン後部データ取得試験	108	〃
大豆	コンバイン後部データ取得試験	30	〃
ハクサイ	ハクサイ頭部結束機の開発	3.5	機械化連携推進室
キャベツ ブロッコリ ダイコン	作業姿勢調査	4	システム安全工学研究領域

作物	実験項目	使用面積[a]	担当部・領域
ジャガイモ	人・機械協調安全確認試験	8	システム安全工学研究領域
(ほ場利用等)	FCトラクタの騒音、振動測定	186	〃

[4] 気象概況

令和6年度の夏作期間（5月～10月）の気温は、昨年同様、平年に比べ高温・高日照で、特に7月下旬から9月は日最高気温 35℃以上の猛暑日となった日が多かった。月間日照時間は全ての月で平年より多かったが、特に5月下旬・7・8月下旬の日照は多かった。降水量は、8月下旬に突出した降雨があったが、その後の9月上・中・下旬は平年を大きく下回り、総量としては平年並であった。7月下旬から9月上旬は高気圧に覆われて晴れた日が多くなったが、台風や低気圧、湿った空気、気圧の谷の影響で、曇りや雨、雷雨となった日もあった。平年よりも14日遅い6月21日頃に梅雨入りし、平年並の7月18日ごろに梅雨明けしたとみられている。

[5] 作物の生育概況

1) 水 稲

令和6年度の水稲作は、直播と移植の両方を行った。直播は4月23日、移植は視察や試験日程の都合により一部ほ場で田植日を通常より遅らせたため、田植え作業は5月27日から6月28日まで行われた。6月上旬から9月下旬にかけて特に高温・高日照で、昨年のように補助金が出るほどの高温障害はなかったが、9月のカメ虫害による着色や、試験に伴う刈り遅れ等により、4品種とも3等となった。籾反収は平均423kg/10aで、平年収量比71.5%程度であった。これは記録が残っている昭和61年以降最低で、全国的に冷夏となった平成3年の平均反収も大きく下回った。今年も複数の台風が日本に上陸したが、当场では若干の冠水があったものの大きな被害には至らなかった。両正条田植機及び除草機試験、耐天候性コンバイン試験、難取扱性穀物ハンドリング試験、障害物センサ環境対応試験、ヒト・機械協調安全確認試験、ロボトラ播種試験、穀物高速乾燥試験等に供した。

2) 畑作物

麦類は、小麦を水田に、大麦を畑に播種しどちらも順調に生育した。令和6年産麦も同様に11月中旬に水田に小麦を、畑に大麦を播種し順調に生育している。野菜類では、ジャガイモの定植を2月と9月に、大豆播種を6月に、ハクサイ・キャベツ・ブロッコリ・ジャガイモの定植ならびにダイコンの播種を9月に行った。キャベツは籾殻燃焼灰の施用効果確認試験、ハクサイはハクサイ頭部結束機に、ジャガイモ・麦・ブロッコリ・大豆はヒト機械協調安全試験にそれぞれ供した。

[6] その他

- ・5月20日に衆議院農林水産委員会による視察があった。
- ・6月に職員1名が「安全・効率的なフレコン吊り作業補助具の考案」により、埼玉県創意工夫発明者表彰を受賞した。
- ・12月4日に開催された埼玉県農業機械実演展示会で実演会場として利用された。
- ・12月18日にNHKのTV番組サイエンスゼロ（2025年2月9日放送）の取材で自動運転田植機のデモを行った。

4. 知的財産権

[1] 登録

存続中の特許権等知的財産権は以下のとおりである。(令7.3.31現在)

● は、農業機械等緊急開発事業関連

▲ は、農業機械技術クラスター事業関連

No.	発明名称	出願日	出願番号	登録日	登録番号	共有者
【特許】						
1	植物の生育度測定装置	2005/5/10	2005-137906	2010/10/8	4599590	
2	洗浄装置による洗浄方法●	2007/2/23	2007-43481	2011/1/7	4658978	オリオン機械(株)
3	動力作業機●	2007/11/1	2007-284843	2011/4/22	4724819	(株)丸山製作所
4	中耕除草機	2006/3/29	2006-92073	2011/7/29	4791869	小橋工業(株)
5	粒状肥料等の散布制御装置●	2007/3/8	2007-58545	2011/8/12	4801803	(有)東製作所、井関農機(株)
6	脱穀装置及びコンバイン	2006/2/27	2006-49797	2011/9/2	4811761	
7	洗浄装置●	2007/2/23	2007-43482	2011/9/22	4827767	オリオン機械(株)
8	乳頭洗浄装置●	2008/2/22	2008-41244	2011/12/2	4875638	オリオン機械(株)
9	水分計●	2006/3/30	2006-94268	2011/12/22	4887862	静岡製機(株)
10	洗浄装置●	2007/2/23	2007-43480	2012/1/27	4914242	オリオン機械(株)
11	米の品質測定方法及び米の品質測定装置	2006/2/28	2006-53402	2012/6/1	5002980	(株)山本製作所、山形県
12	繫留牛舎の乳牛飼養管理システム●	2007/11/2	2007-285910	2012/6/29	5028223	オリオン機械(株)
13	繫留牛舎の乳牛飼養管理方法●	2007/11/2	2007-285911	2012/6/29	5028224	オリオン機械(株)
14	ディスク式中耕除草機●	2008/6/25	2008-165735	2012/8/10	5057087	小橋工業(株)
15	二方向噴射ノズルを用いた液体噴霧方法および走行式噴霧装置●	2007/3/27	2007-80712	2012/9/28	5096773	ヤマホ工業(株)
16	堆肥化施設における堆肥の部分攪拌制御方法及び部分攪拌制御装置●	2005/6/1	2005-161832	2012/12/14	5156179	クボタ環境エンジニアリング(株)
17	野菜類の皮剥ぎ処理機	2011/2/4	2011-22265	2012/12/21	5158996	(株)マツモト
18	乳頭洗浄装置●	2009/3/10	2009-56572	2012/12/28	5164171	オリオン機械(株)
19	乳頭洗浄システム●	2009/3/10	2009-56573	2013/1/25	5182948	オリオン機械(株)
20	洗浄ブラシ及び乳頭洗浄装置●	2009/3/10	2009-56574	2013/3/22	5224534	オリオン機械(株)
21	長葱の皮剥ぎ処理機	2009/8/24	2009-193699	2013/3/29	5229967	(株)マツモト
22	アジュバント組成物、それを含む農業散布液およびそれを用いた防除方法	2008/3/6	2009-504006	2013/4/5	5237932	日本化薬(株)
23	乳頭洗浄装置●	2009/3/10	2009-56571	2013/4/12	5240612	オリオン機械(株)
24	移動栽培装置	2008/9/5	2008-228475	2013/5/31	5277379	(株)誠和、宮城県
25	脱穀装置	2009/2/10	2009-28296	2013/7/12	5311307	三菱マヒンドラ農機(株)
26	中耕除草機及び中耕培土作業方法●	2008/7/7	2008-176766	2013/8/9	5331969	井関農機(株)、鋤柄農機(株)、小橋工業(株)
27	中耕除草機●	2010/3/15	2010-57043	2014/2/14	5470553	井関農機(株)、鋤柄農機(株)、小橋工業(株)
28	脱臭材及び脱臭装置	2010/4/13	2011-528674	2014/4/18	5525533	パナソニック環境エンジニアリング(株)

No.	発明名称	出願日	出願番号	登録日	登録番号	共有者
29	薬液散布車●	2010/3/30	2010-77736	2014/6/27	5568355	(株)丸山製作所、ヤマホ工業(株)
30	中耕除草機●	2009/2/25	2009-42154	2014/8/22	5598808	井関農機(株)、鋤柄農機(株)、小橋工業(株)
31	接木苗処理用切断装置●	2009/12/28	2009-296900	2014/9/19	5613940	井関農機(株)
32	種子の消毒装置	2010/9/10	2010-203165	2014/10/3	5621085	(株)山本製作所、公立大学法人大阪
33	脱穀装置	2011/2/7	2011-24326	2014/12/5	5656225	三菱マヒンドラ農機(株)
34	コンバインの穀粒排出装置●	2011/3/29	2011-71449	2015/2/13	5691055	三菱マヒンドラ農機(株)
35	コンバインの穀粒排出装置●	2011/3/29	2011-71450	2015/2/13	5691056	三菱マヒンドラ農機(株)
36	粒状物の分配装置	2010/3/23	2010-65913	2015/4/24	5732733	
37	脱穀装置	2010/9/24	2010-213131	2015/5/22	5747203	三菱マヒンドラ農機(株)
38	乳牛の健康状態管理方法及び管理システム	2011/3/30	2011-74604	2015/6/12	5756967	オリオン機械(株)
39	石礫除去機	2011/3/22	2011-62635	2015/7/24	5780386	東洋農機(株)
40	施肥装置●	2010/12/6	2010-271490	2016/2/12	5881033	(株)IIHアグリテック
41	液散布機●	2011/10/25	2011-234452	2016/3/4	5892484	(株)丸山製作所、ヤマホ工業(株)
42	農作業車の旋回開始位置設定装置及び旋回開始位置設定方法●	2010/11/25	2010-262818	2016/3/25	5904570	(株)IIHアグリテック、(株)ササキコーポレーション
43	害虫防除装置	2011/9/5	2011-192588	2016/4/28	5924470	徳島県、ニューデルタ工業(株)、国立大学法人山口大学
44	切断器具	2012/3/15	2012-58802	2016/7/22	5971627	
45	果実集積装置	2012/3/21	2012-64432	2016/7/22	5971749	ヤンマーパワーテクノロジー(株)
46	腕支持器具	2013/12/2	2013-249642	2016/7/22	5973980	
47	被覆資材の巻取展開装置●	2013/5/15	2013-102668	2016/10/28	6030500	カワサキ機工(株)
48	結球野菜収穫機	2012/7/12	2012-156362	2016/12/22	6063158	ヤンマーパワーテクノロジー(株)、オサダ農機(株)
49	農作業機●	2012/11/15	2012-251429	2017/3/31	6115984	松山(株)
50	農作業機●	2012/12/14	2012-273592	2017/3/31	6115985	松山(株)
51	切断器具	2013/4/15	2013-84786	2017/4/7	6120275	
52	田植機	2013/3/12	2013-49540	2017/6/2	6150223	
53	溝開け機構および播種機	2013/2/4	2013-19486	2017/7/21	6178081	アグリテックノサーチ(株)
54	除草機●	2013/12/26	2013-270581	2017/11/17	6240957	みのる産業(株)、島根県
55	水田用除草装置●	2014/1/15	2014-4801	2018/1/26	6278351	みのる産業(株)
56	青果物吸着保持具●	2014/2/20	2014-30879	2018/3/16	6305099	ヤンマーパワーテクノロジー(株)
57	作業機	2015/2/5	2015-21612	2018/5/25	6342344	
58	圃園管理装置における作業支障回避構造●	2014/7/31	2014-156762	2018/7/20	6371628	カワサキ機工(株)
59	圃園管理装置における被覆資材の回収案内機構●	2014/7/31	2014-156849	2018/8/3	6376880	カワサキ機工(株)
60	取水装置および発電装置	2015/2/10	2015-23747	2018/8/24	6388263	国立大学法人信州大学、日本エンヂニヤ(株)
61	水田用除草装置●	2014/9/16	2014-187429	2018/9/21	6403318	みのる産業(株)

No.	発明名称	出願日	出願番号	登録日	登録番号	共有者
62	除草装置●	2014/9/16	2014-187430	2018/9/21	6403319	みのる産業(株)
63	播種機	2017/7/12	2017-136384	2018/11/22	6435489	アグリテクノサーチ(株)
64	走行制御装置●	2015/2/6	2015-22555	2019/3/22	6497546	三菱マヒンドラ農機(株)
65	圃園管理装置における巻取済被覆資材の取外し機構●	2014/7/31	2014-156882	2019/3/29	6501056	カワサキ機工(株)
66	操舵制御装置および旋回状態推定方法●	2015/3/16	2015-52148	2019/9/20	6587172	三菱マヒンドラ農機(株)
67	農業用音波照射システム及び植物育成方法	2016/2/15	2016-26268	2019/10/4	6592798	
68	粒状物の分配装置	2016/3/31	2016-71053	2020/5/26	6708899	アグリテクノサーチ(株)
69	移動車両の走行制御装置	2016/5/27	2016-105835	2020/5/27	6709559	三菱マヒンドラ農機(株)
70	畝立て機構および播種機	2016/3/31	2016-73133	2020/7/2	6726851	アグリテクノサーチ(株)、小橋工業(株)
71	収量分布算出装置及び収量分布算出プログラム	2016/11/15	2016-222525	2020/7/29	6741251	ヤンマーパワーテクノロジー(株)
72	籾殻燃焼装置、穀物乾燥システム	2020/3/5	2020-504527	2020/8/4	6744602	静岡製機(株)
73	接ぎ木方法	2015/3/19	2015-56453	2020/8/11	6747637	
74	接ぎ木方法(PCT→韓国)	2017/9/18	10-2017-7026190	2019/4/12	10-1970424	
75	接ぎ木方法(PCT→アメリカ)	2017/9/13	15/557,917	2019/12/31	10,517,223	
76	接ぎ木方法(PCT→中国)	2015/10/14	201580077970.4	2020/11/17	ZL201580077970.4	
77	接ぎ木方法(PCT→EPC→オランダ)	2015/10/14	15885550.2	2022/12/28	3272206	
78	接ぎ木方法(PCT→EPC→スペイン)	2015/10/14	15885550.2	2022/12/28	3272206	
79	接ぎ木装置	2017/3/31	2018-509700	2020/8/20	6751948	
80	接ぎ木装置(PCT→EPC→オランダ)	2017/3/31	17775605.3	2020/5/13	3437459	
81	接ぎ木装置(PCT→EPC→スペイン)	2017/3/31	17775605.3	2020/5/13	3437459	
82	接ぎ木装置(PCT→韓国)	2018/9/21	10-2018-7027603	2020/6/26	10-2129346	
83	接ぎ木装置(PCT→中国)	2017/3/31	201780021487.3	2020/9/8	ZL201780021487.3	
84	接ぎ木装置(PCT→アメリカ)	2017/3/31	16/089,010	2023/1/17	11553652	
85	種子消毒装置●	2014/11/13	2014-230803	2020/10/23	6782882	公立大学法人大阪、(株)山本製作所
86	車載カメラの取付方向パラメータ算出装置および取付方向パラメータ算出方法	2017/3/9	2017-44792	2020/10/23	6782895	三菱マヒンドラ農機(株)
87	葉菜の搬送装置および葉菜の根切り装置	2017/3/31	2017-72088	2020/11/25	6799291	(株)クボタ、(株)斎藤農機製作所
88	歩行型作業車両用の刃圧安全装置	2017/9/6	2017-171249	2021/1/5	6818354	
89	ブレードを備えた作物調製機	2017/11/6	2017-214224	2021/2/2	6831518	(株)クボタ、(株)斎藤農機製作所
90	葉菜の姿勢変換装置および葉菜の調製装置	2017/3/31	2017-72095	2021/3/23	6856898	(株)クボタ、(株)斎藤農機製作所
91	歩行型作業車両用の危険挙動検出装置	2017/8/10	2017-155282	2021/4/9	6865966	
92	根の切断支持体を備えた作物調製機	2017/11/6	2017-214221	2021/5/7	6879510	(株)クボタ、(株)斎藤農機製作所

No.	発明名称	出願日	出願番号	登録日	登録番号	共有者
93	収量分布算出装置及び収量分布算出プログラム	2016/11/15	2016-222521	2021/5/13	6883974	ヤンマーパワーテクノロジー(株)
94	葉除去機構を備えた作物調製機	2017/11/6	2017-214223	2021/7/13	6912775	(株)クボタ、 (株)斎藤農機製作所
95	幅調整自在な搬送部を備えた作物調製機	2017/11/6	2017-214220	2021/7/20	6916487	(株)クボタ、(株)斎藤農機製作所
96	苗切断装置及び接ぎ木システム	2017/8/23	2017-160550	2021/8/26	6934661	
97	穀粒の生育状況の分布算出装置及び穀粒の生育状況の分布算出プログラム	2020/7/16	2020-122254	2021/9/28	6950880	ヤンマーパワーテクノロジー(株)
98	作業支援システム	2018/2/8	2018-20723	2021/10/20	6963763	ヤンマーパワーテクノロジー(株)
99	作業支援システム及び茎数の算出方法	2018/2/8	2018-20724	2021/12/22	6998016	ヤンマーパワーテクノロジー(株)
100	圃場作業車両の走行経路設定装置、圃場作業車両、圃場作業車両の走行経路設定方法および走行経路設定用プログラム	2018/3/16	2018-49297	2022/2/4	7019179	
101	自走式作業機の制御方法及び制御装置●	2019/6/21	2019-115190	2022/2/9	7022409	(株)ササキコーポレーション
102	粒状物の分配装置	2017/12/26	2017-249104	2022/2/25	7030304	アグリテクノサーチ(株)
103	自走式作業機●	2018/3/30	2018-67734	2022/3/1	7032757	(株)ササキコーポレーション
104	自走式作業機●	2018/2/27	2018-33917	2022/3/16	7041919	(株)ササキコーポレーション
105	草刈機の刈取り部構造●	2017/7/11	2017-135310	2022/4/13	7057932	(株)ササキコーポレーション
106	自動走行制御装置、自動走行制御方法および自動走行制御用プログラム	2018/11/15	2018-214670	2022/7/5	7100358	
107	苗移植装置	2018/6/19	2018-116134	2022/8/3	7116992	
108	台車	2018/11/12	2018-212430	2022/9/28	7148966	
109	液体噴霧システム	2018/12/4	2018-226994	2022/10/19	7161755	
110	歩行型作業車両用の挟圧安全機構	2019/2/8	2019-21254	2023/1/4	7203418	
111	農作物用土壌環境予測システム、農作物用土壌環境予測装置、及び農作物用土壌環境予測方法	2019/2/27	2019-33776	2023/2/22	7232515	
112	非結球性葉菜類の刈取装置	2019/8/21	2019-151303	2023/3/7	7239925	カワサキ機工(株)
113	作業車両の遠隔制御システム、遠隔操作装置および遠隔制御方法	2019/8/30	2019-159022	2023/4/17	7264395	(株)クボタ
114	農作物の除泥装置	2020/3/4	2020-036839	2023/5/8	7274218	
115	圃場作業車両の走行経路設定装置、走行経路設定方法および走行経路設定用プログラム	2020/3/31	2020-063765	2023/5/22	7283754	
116	農業用アシストスーツ	2020/3/16	2020-045480	2023/8/7	7327807	
117	歩行型作業機	2020/3/5	2020-037901	2023/9/1	7341488	
118	圃場作業車両の走行経路設定装置、走行経路設定方法および走行経路設定用プログラム	2020/3/31	2020-063764	2023/9/13	7349147	
119	歩行型作業車両用の挟圧安全機構	2020/2/6	2020-018577	2023/10/19	7370054	

No.	発明名称	出願日	出願番号	登録日	登録番号	共有者
120	列間移替装置およびレール敷設システム	2019/12/18	2019-228320	2023/12/4	7396575	(有)吉岡鐵工
121	圃場作業車両の走行経路設定装置、走行経路設定方法および走行経路設定用プログラム	2021/3/26	2021-054017	2024/1/9	7416437	
122	自動走行制御装置、自動走行制御方法および自動走行制御用プログラム	2021/3/26	2021-054018	2024/2/29	7445984	
123	作物搬送装置	2020/3/26	2020-056744	2024/3/19	7457349	
124	農作業用膝補助装着具	2020/3/19	2020-049597	2024/3/26	7461026	
125	圃場作業車両の走行経路設定装置、走行経路設定方法および走行経路設定用プログラム	2021/2/19	2021-025588	2024/4/4	7466201	
126	装着式動作補助装置の性能評価装置	2020/3/31	2020-063190	2024/4/22	7477145	
127	作物搬送装置	2020/3/4	2020-037137	2024/4/30	7480460	
128	作業車用安全制御装置	2021/2/25	2021-028461	2024/5/29	7496136	
129	作物モニタリング装置及び作物モニタリング方法	2020/10/21	2020-176903	2024/6/5	7498955	
130	歩行型作業機	2021/3/16	2021-042257	2024/6/6	7499512	
131	作業車両の遠隔制御システム、遠隔操作装置および遠隔制御方法	2021/3/25	2021-052104	2024/6/13	7503844	
132	剥離ユニット、剥離装置及び落葉収集機▲	2020/10/9	2020-171048	2024/6/13	7503838	
133	ピッキングシステム	2021/2/1	2021-014060	2024/6/17	7505674	
134	ピッキング方法及びピッキングシステム	2021/3/4	2021-034478	2024/6/17	7505675	
135	ピッキング方法及びピッキングシステム	2021/3/4	2021-034480	2024/6/17	7505676	
136	ピッキング方法及びピッキングシステム	2021/3/4	2021-034482	2024/6/17	7505677	
137	移動体の速度導出装置、作業管理装置および移動体の速度導出方法	2021/2/17	2021-023438	2024/6/17	7505763	
138	草刈機	2020/12/11	2020-205785	2024/7/1	7513264	
139	選別機	2021/3/17	2021-043617	2024/7/1	7513271	
140	脱穀装置	2021/3/25	2021-051456	2024/7/1	7513272	
141	牛の評価装置および牛の評価方法▲	2021/10/28	2021-176475	2024/7/9	7518541	
142	植物体撮像装置	2020/12/23	2020-213755	2024/7/25	7527005	
143	除草装置	2021/3/23	2021-049018	2024/7/25	7527009	
144	植物体撮像装置、及び植物体撮像方法	2020/4/22	2021-516151	2024/7/25	7527017	
145	脚立及び脚立用開脚制限装置	2021/2/3	2021-015858	2024/7/31	7530603	
146	脱穀装置	2021/2/19	2021-024887	2024/7/31	7530643	
147	作業車用安全制御装置	2021/2/25	2021-028460	2024/8/30	7546915	
148	走行体	2021/3/16	2021-042567	2024/8/30	7546917	
149	農作業用膝補助器具	2021/3/8	2021-036587	2024/9/9	7553023	
150	畦畔走行装置	2021/3/9	2021-037074	2024/9/9	7553024	

No.	発明名称	出願日	出願番号	登録日	登録番号	共有者
151	牛の評価装置及び牛の評価方法▲	2021/3/15	2021-041342	2024/9/27	7562143	
152	葉面積算出方法及び収穫量予測方法【優先権主張出願】	2021/3/17	2021-043548	2024/10/2	7565081	
153	自動走行作業車両の制御システムおよび車両制御装置	2021/3/25	2021-051513	2024/10/21	7575063	
154	作業車両の遠隔制御システム、遠隔操作装置および遠隔制御方法	2021/3/26	2021-054016	2024/10/21	7575065	
155	自動走行作業車両の制御システム、遠隔操作装置および車両制御装置	2021/3/30	2021-057037	2024/10/21	7575066	
156	車両制御システムおよび車両制御方法	2021/2/5	2021-017106	2024/10/23	7576266	(株)丸山製作所
157	イチゴの株の葉面積算出システム	2021/8/31	2021-140856	2025/1/8	7616656	
158	鳥威嚇システム	2021/1/8	2021-002184	2025/1/14	7619545	岩手県
159	農作業支援システム	2020/10/13	2020-172411	2025/3/4	7644472	
160	牛の評価装置および牛の評価方法▲	2021/10/27	2021-175643	2025/3/10	7648149	
161	牛の評価装置および牛の評価方法▲	2022/2/7	2022-017235	2025/3/10	7648157	
162	牛の評価装置および牛の評価方法▲	2022/2/7	2022-017236	2025/3/10	7648158	
163	牛の評価装置および牛の評価方法▲	2022/2/7	2022-017237	2025/3/10	7648159	
164	牛の評価装置および牛の評価方法▲	2022/2/7	2022-017238	2025/3/10	7648160	
165	牛の評価装置及び牛の評価方法▲	2022/2/16	2022-021948	2025/3/10	7648161	
166	牛の評価装置及び牛の評価方法▲	2022/2/21	2022-024879	2025/3/10	7648165	
167	収穫機▲	2024/2/28	2024-028894	2025/3/28	7657435	三菱マヒンドラ農機(株)、岩手県
【意匠】						
168	乳頭洗浄機用ブラシユニット●	2007/11/26	2007-32316	2009/1/23	1351854	オリオン機械(株)
169	長葱の皮剥ぎ処理機	2009/8/24	2009-19350	2010/3/26	1386336	(株)マツモト
170	農薬散布車●	2010/1/21	2010-1292	2010/7/30	1396024	(株)丸山製作所
171	肥料物性測定器●	2010/12/6	2010-29028	2011/8/26	1423887	(株)IIアグリテック、(株)ササキコーポレーション
【商標】						
172	IAMマーク及び農業機械化研究所	1986/9/24	S61-100338	1989/8/31	2166299	



農業機械化研究所

Institute of Agricultural Machinery

図 商標登録 (IAM マーク及び農業機械化研究所)

[2] 公開

令和6年度に公開となった特許は、次のとおりである。(令7.3.31現在)

▲ は、農業機械技術クラスター事業関連

No.	発明名称	出願日	出願番号	公開日	公開番号	共同出願人
【特許】						
1	イチゴの成熟予測方法及び成熟予測プログラム	2022/9/26	2022-152877	2024/4/5	2024-047323	
2	作業車両制御装置および作業車両制御方法	2022/10/12	2022-163932	2024/4/24	2024-57293	
3	コンバイン及びコンバインの制御方法	2022/10/20	2022-168111	2024/5/7	2024-060694	国立大学法人宮崎大学
4	植物栽培管理装置	2022/11/29	2022-190740	2024/6/10	2024-078291	
5	制御装置、植物処置装置および植物処置装置の制御方法	2022/12/6	2022-194710	2024/6/18	2024-81238	
6	情報処理装置および作業期間推定方法	2022/12/7	2022-195399	2024/6/19	2024-81874	
7	植物栽培設備	2022/12/7	2022-195569	2024/6/19	2024-81954	
8	無人飛行体システム	2022/12/20	2022-203229	2024/7/2	2024-088178	(株)アラヤ
9	収穫情報予測方法、収穫情報予測プログラム及び収穫情報予測システム	2022/12/27	2022-210172	2024/7/9	2024-093654	
10	作物体識別システム及び作物体識別プログラム	2023/3/28	2023-051197	2024/10/10	2024-140177	
11	制御装置、作業用車両および情報処理方法	2023/6/2	2023-091472	2024/12/12	2024-173213	
12	追肥量出力プログラム、追肥量出力方法及び追肥量出力装置	2023/7/24	2023-119828	2025/2/5	2025-016976	
13	農作物収穫機▲	2023/9/6	2023-144504	2025/3/18	2025-037527	東洋精機(株)
14	農作物収穫機▲	2023/9/6	2023-144505	2025/3/18	2025-037528	東洋精機(株)
15	走行車両用除草部	2023/9/8	2023-146088	2025/3/21	2025-039186	みのる産業(株)

5. 技術指導

令和6年度に実施した技術指導は下表のとおりである。

表6 技術指導一覧

依頼者名	内容	担当部署	期間
民間企業	農用トラクター(歩行型)の安全装備検査に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令6.4.9-10
民間企業	コンバイン(自脱型)の令和7年度施行新基準での安全性検査基準適合に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令6.4.16-17
民間企業	田植機の安全装備検査、自動化農機検査及びロボット農機検査に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令6.4.16-17
民間企業	乗用リールモアの安全装備に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令6.4.18-19
民間企業	大型乾燥施設の安全装備検査に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令6.5.24-25
民間企業	コンバイン(普通型)の安全装備に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令6.5.31
民間企業	コンバイン(自脱型)の令和7年度施行新基準での安全性検査基準適合に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令6.6.6
民間企業	コンバイン(普通型)のロボット農機検査に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令6.6.6-7
民間企業	乗用ロータリーモアの安全装備に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令6.6.12-14
民間企業	農用トラクター(乗用型)の安全装備に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令6.6.21
民間企業	コンバイン(自脱型)の令和7年度施行新基準での安全性検査基準適合に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令6.7.3-5
民間企業	オフセット作業機の安全性に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令6.7.22
民間企業	コンバイン(自脱型)の安全装備検査及び自動化農機検査基準に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令6.8.7-8
民間企業	農用トラクター(乗用型)の安全装備検査及び自動化農機検査基準に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令6.8.9
民間企業	農用トラクター(乗用型)の自動化農機検査基準に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令6.8.9
民間企業	農耕トラクタの機能確認に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令6.9.3-4
民間企業	田植機の令和7年度施行新基準での安全性検査基準適合に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令6.9.12-13
民間企業	農用トラクタ(乗用型)の安全装備に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令6.9.17
民間企業	ミニショベルの騒音計測に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令6.9.19-20
民間企業	無人乗用リールモアの安全装備に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令6.10.22-24
民間企業	自動運転田植機に関する技術指導	無人化農作業研究領域 革新的作業機構開発グループ	令6.11.14-令8.9.30

依頼者名	内 容	担当部署	期 間
民間企業	両正条田植機の開発改良のための設計、試作、並びに試験に関する技術指導	無人化農作業研究領域 革新的作業機構開発グループ	令 6. 12. 9-令 7. 5. 31
民間企業	農業機械安全装備検査 2018 年基準及び自動化農機検査基準に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令 6. 12. 23
民間企業	農業機械安全装備検査 2018 年基準及び自動化農機検査基準に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令 7. 2. 13-14
民間企業	オフセット作業機の安全性に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令 7. 2. 18
民間企業	農用トラクター(乗用型)の自動化農機に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令 7. 2. 28
民間企業	乗用芝刈機の安全フレーム及び安全要件に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令 7. 3. 13-14
民間企業	コンバイン(自脱型)の安全装備に関する技術指導	安全検査部 安全評価グループ	令 7. 3. 25

6. 技術協力等

[1] 受託研修生

令和6年度に受託研修生の受け入れはなかった。

[2] 技術講習生

令和6年度に受け入れた技術講習生は、下表のとおりである。

表7-1 技術講習生一覧

所属	講習内容	受入部署	期間
宇都宮大学（1名）	インターンシップ（協調安全に基づく農業機械の安全システムに関する研究）	システム安全工学研究領域 協調安全システムグループ	令6.8.19-30
新潟大学（1名）	インターンシップ（車両系ロボット農機および施設園芸スマート化技術）	知能化農機研究領域 国際標準・土地利用型作業グループ	令6.9.17-20
東京電機大学（1名）	インターンシップ（ドローンの操縦練習およびドローンの空撮による3Dモデル作成と画像解析）	無人化農作業研究領域 小型電動ロボット技術グループ	令6.9.25

[3] 派遣研修

令和6年度に派遣研修の受け入れはなかった。

[4] 依頼研究員

令和6年度に受け入れた依頼研究員は、下表のとおりである。

表7-2 依頼研究員一覧

所属	講習内容	受入部署	期間
宮城県農業・園芸総合研究所	施設園芸における人工知能技術を活用したセンシング技術の習得	知能化農機研究領域 施設園芸システムグループ	令6.11.25-12.6 令7.2.3-3.14

[5] 教育研究研修生

令和6年度は教育研究研修生の受け入れはなかった。

7. 海外との連携協力

[1] 国際会議

令和6年度に参加した国際会議は下表のとおりである。

参加者名	開催方式	国際標準もしくは主催機関	内容	参加日
田中正浩	オンライン	ISO/TC299/WG2	60th meeting (アシストスーツ)	令6.4.8
川瀬芳順	オンライン	ISO TC23/SC19/WG8	WG 会合	令6.4.9-10
田中正浩	オンライン	ISO/TC299/WG2	61th meeting (アシストスーツ)	令6.4.22
田中正浩	オンライン	ISO/TC299/WG2	62th meeting (アシストスーツ)	令6.5.7
川瀬芳順	オンライン	OECD トラクタテストコード	SWG 会合	令6.5.16
Pham Thi Quynh Anh	対面 (韓国)	CIGR	6th CIGR International Conference 2024	令6.5.18-24
田中慶 竹崎あかね	対面 (アメリカ)	AgGateway	AgGateway 2024 Mid-Year Meeting	令6.6.9-14
田中正浩	オンライン	ISO/TC299/WG2	64th meeting (アシストスーツ)	令6.6.10
川瀬芳順 原田一郎	対面 (スロバキア)	OECD トラクタテストコード	TWG 会合	令6.6.22-27
川瀬芳順	対面 (韓国)	国立農業科学院	スマート農業国際標準化セミナーでの講演	令6.7.1-5
田中正浩	対面 (ドイツ)	ISO/TC299/WG2	65th meeting (アシストスーツ)	令6.9.7-13
志藤博克 山崎裕文	対面 (韓国)	国立農業科学院	2024 国際農作業安全セミナーでの講演	令6.9.9-13
川瀬芳順	対面 (フランス)	OECD トラクタテストコード	TWG 会合	令6.11.2-7
田中慶 竹崎あかね	対面 (アメリカ)	AgGateway	年次総会	令6.11.10-15
紺屋秀之 川瀬芳順	オンライン	OECD トラクタテストコード	SWG 会合	令6.11.20
田中正浩	オンライン	ISO/TC299/WG2	66th meeting (アシストスーツ)	令6.11.21
川瀬芳順	対面 (ネパール)	ANTAM	年次会合	令6.12.1-7
田中正浩	オンライン	ISO/TC299/WG2	67th meeting (アシストスーツ)	令6.12.5
川瀬芳順	オンライン	OECD トラクタテストコード	SWG 会合	令6.12.11
田中正浩	オンライン	ISO/TC299/WG2	68th meeting (アシストスーツ)	令6.12.19
田中正浩	オンライン	ISO/TC299/WG2	69th meeting (アシストスーツ)	令7.1.2
田中正浩	オンライン	ISO/TC299/WG2	70th meeting (アシストスーツ)	令7.1.16
田中慶 土川寛崇	対面 (ドイツ)	AEF	AEF Tech Week 2025	令7.1.19-25
田中正浩	オンライン	ISO/TC299/WG2	71th meeting (アシストスーツ)	令7.1.29
川瀬芳順 藤井桃子	オンライン	OECD トラクタテストコード	SWG 会合	令7.2.5-6
田中正浩	オンライン	ISO/TC299/WG2	72th meeting (アシストスーツ)	令7.2.17

参加者名	開催方式	国際標準もしくは 主催機関	内容	参加日
田中正浩	オンライン	ISO/TC299/WG2	73th meeting (アシストスーツ)	令 7. 2. 25
竹崎あかね	対面 (ドイツ)	ISO/TC347	年次総会	令 7. 3. 10-13
川瀬芳順 滝元弘樹 松本将大	対面 (フランス)	OECD トラクタテストコード	年次会合	令 7. 3. 11-15
田中正浩	オンライン	ISO/TC299/WG2	76th meeting (アシストスーツ)	令 7. 3. 19

TC299：ロボティクス専門委員会

WG2：安全部会

TC23：農林業用トラクタ及び機械を扱う専門委員会

SC19：農業エレクトロニクス分科委員会

WG8：農業機械の安全性とセキュリティに関する国際規格を審議する部会、対象規格（ISO18497, ISO25119, ISO10975）

SWG：サブワーキンググループ

TWG：テクニカルワーキンググループ

CIGR：国際農業工学会

AgGateway：アメリカの非営利団体で、スマート農業の国際標準化の促進を目指す組織

ANTAM：Asian and Pacific Network for Testing of Agricultural Machinery

AEF：国際農業電子財団

AEF Tech Week：AEF が実施し、規格や仕様の検討を行うための各プロジェクトの最新情報が報告される場

TC347：データ駆動型アグリフードシステムに関する専門委員会

[2] 外国機関との連携

令和 6 年度に海外機関と MOU の締結等の連携は行っていない。

[3] 海外技術調査

令和 6 年度に行った海外技術調査は下表のとおりである。

出張者	課題名	派遣国	期間
Pham Thi Quynh Anh	第 6 回 CIGR 国際会議 2024 への参加	韓国	令 6. 5. 18-24
田中慶 竹崎あかね	AgGateway 2024 Mid-Year-Meeting への参加	アメリカ	令 6. 6. 9-14
下元耕太	オランダ園芸業界と出会う VIP プログラムへの参加	オランダ	令 6. 6. 9-14
川瀬芳順 原田一郎	OECD テクニカルワーキング会合への参加	スロバキア	令 6. 6. 22-27
川瀬芳順	韓国の National Institute of Agricultural Science (NAS) が開催するスマート農業国際標準化セミナーでの講演	韓国	令 6. 7. 1-5
Oyebode Oyelayo Olukorede	2024 Canadian Society for Bioengineering (CSBE) 学会への参加	カナダ	令 6. 7. 6-12
向霄涵	22nd Triennial Congress of the International Ergonomics Association (IEA2024) への参加・発表	韓国	令 6. 8. 24-30
田中正浩	第 65 回 ISO/TC299/WG2 会合への参加	ドイツ	令 6. 9. 7-13
志藤博克 山崎裕文	韓国農村振興庁国立農業科学院 (RDA) が開催する 2024 国際農作業安全セミナーでの講演	韓国	令 6. 9. 9-13

出張者	課題名	派遣国	期間
深津時広 檜野雅和 太田望 下元耕太	国際学会 (ISMAB2024) への参加・発表	インドネシア	令 6. 9. 26-30
下元耕太	Gadjah Mada University での研究交流	インドネシア	令 6. 10. 1-2
田中慶 竹崎あかね	AgGateway 年次総会への参加	アメリカ	令 6. 11. 10-15
川瀬芳順	OECD テクニカルワーキンググループ会合への出席	フランス	令 6. 11. 3-7
川瀬芳順	ANTAM 年次会合への参加	ネパール	令 6. 12. 1-7
田中慶 土川寛崇	AEF Tech Week 2025 への参加	ドイツ	令 7. 1. 19-25
古山隆司 臼井善彦 竹崎あかね	BRIDGE スマ農タイ実証に係る調査	タイ	令 7. 2. 17-20
趙元在	INRAE・TSCF (クレルモン・フェラン地点) の訪問(打合・意見交換)	フランス	令 7. 3. 3-15
竹崎あかね	ISO/TC347 プレナリーミーティング参加	ドイツ	令 7. 3. 9-15
川瀬芳順 滝元弘樹 松本将大	OECD トラクタテストコード年次会合出席	フランス	令 7. 3. 11-15

[4] JICA 研修

令和6年度に JICA 研修は行わなかった。

[5] 海外派遣

令和6年度に海外派遣は行わなかった。

[6] 海外からの来訪者

令和6年度の海外からの来訪者は下表のとおりである。

国名	所属等	人数	来訪日
中国	株式会社 NYI	14	令 6. 5. 9
コートジボワール、エチオピア、ケニア、ザンビア	JICA 筑波研修/IFPaT	11	令 6. 6. 12
中国	ファーストヘルス株式会社	14	令 6. 6. 13
韓国	国立忠南大学	6	令 6. 6. 19
中国	中国農業大学	2	令 6. 10. 7
中国	麗徳文成国際ビジネスサポート	23	令 6. 10. 10
韓国	韓国 RDA	4	令 6. 10. 30

国名	所属等	人数	来訪日
アメリカ	AgrAbility	2	令 6. 11. 6
台湾	台湾農業研究所	2	令 6. 11. 21

8. 留学・研修・技術調査

[1] 国内留学

令和6年度に国内留学を行った職員はいなかった。

[2] 国内研修

令和6年度に国内研修に参加した職員は下表のとおりである。

表9 令和6年度国内研修一覧

氏名	研修名	主催	期間
藤田侑希	農研機構新規採用職員研修	農研機構	令 6. 4. 3-5、4. 8-9、 5. 13-14
川名未紗	農研機構新規採用職員研修	農研機構	令 6. 4. 3-5、4. 8-9、 5. 13-14
関 隼人	農研機構新規採用職員研修	農研機構	令 6. 4. 3-5、4. 8-9、 5. 13-14
太田薫平	中型自動車免許取得教習	(有) ワイズ	令 6. 4. 5-28
松本将大	大型特殊自動車免許取得教習	(有) ワイズ	令 6. 4. 10-18
深井智子	大型特殊自動車免許取得教習	(有) ワイズ	令 6. 4. 10-25
杉野直輝	大型特殊自動車免許取得教習	(有) ワイズ	令 6. 4. 15-29
高沢俊幸	有機溶剤業務従事者特別教育	農研機構	令 6. 4. 16
三本圭二	有機溶剤業務従事者特別教育	農研機構	令 6. 4. 16
関 隼人	有機溶剤業務従事者特別教育	農研機構	令 6. 4. 16
田中正浩	中型自動車免許取得教習	(有) ワイズ	令 6. 4. 18-5. 27
Oyebode Oyetayo 0	玉掛け技能講習	(株)NKC 能力開発センター	令 6. 5. 8-10
向 霄涵	フォークリフト運転技能講習	(公社)ボイラ・クレーン安全協会	令 6. 5. 9、11、18-19
Oyebode Oyetayo 0	クレーン(5t未満)特別教育	(株)NKC 能力開発センター	令 6. 5. 11-12
長崎裕司	農研機構全職種管理職員研修	農研機構	令 6. 5. 21、6. 17
石川貞紀	農研機構全職種管理職員研修	農研機構	令 6. 5. 21、6. 17
鈴木一志	農研機構全職種管理職員研修	農研機構	令 6. 5. 21、6. 17
赤石 忍	公文書管理研修 I	国立公文書館	令 6. 5. 22
Oyebode Oyetayo 0	小型移動式クレーン運転技能講習	(株)NKC 能力開発センター	令 6. 5. 23-25
富田宗樹	農研機構全職種管理職員研修	農研機構	令 6. 5. 24、6. 17
齋藤 繁	農研機構全職種管理職員研修	農研機構	令 6. 5. 24、6. 17
西川 純	有機溶剤業務従事者特別教育	農研機構	令 6. 5. 27
Oyebode Oyetayo 0	フォークリフト運転技能講習	(株)NKC 能力開発センター	令 6. 5. 27-30
片岡宏征	会計事務職員契約管理研修	財務省会計センター	令 6. 5. 27、6. 4、6、17
栗原英治	農研機構人材育成担当者研修	農研機構	令 6. 5. 29-30

氏名	研修名	主催	期間
林 和信	農研機構人材育成担当者研修	農研機構	令 6. 5. 29-30
深山大介	農研機構人材育成担当者研修	農研機構	令 6. 5. 29-30
井上利明	第一種衛生管理者受験準備講習	(一社)埼玉労働基準協会連合会	令 6. 6. 4-6
後藤 裕	第一種衛生管理者受験準備講習	(一社)埼玉労働基準協会連合会	令 6. 6. 4-6
大森弘美	第一種衛生管理者受験準備講習	(一社)埼玉労働基準協会連合会	令 6. 6. 4-6
小林一善	チーム長等研修	農研機構	令 6. 6. 5-6
梅田直円	農研機構全職種管理職員研修	農研機構	令 6. 6. 17
塚本茂善	農研機構全職種管理職員研修	農研機構	令 6. 6. 17
太田孝弘	農研機構全職種管理職員研修	農研機構	令 6. 6. 17
大森弘美	農研機構全職種管理職員研修	農研機構	令 6. 6. 17
志藤博克	農研機構全職種管理職員研修	農研機構	令 6. 6. 17
深山大介	農研機構全職種管理職員研修	農研機構	令 6. 6. 17
齋藤 繁	安全運転管理者等講習	埼玉県公安委員会	令 6. 6. 17
石川大蔵	安全運転管理者等講習	埼玉県公安委員会	令 6. 6. 17
関 隼人	大型特殊自動車免許取得教習	(有)ワイズ	令 6. 6. 21-7. 7
井上利明	テールゲートリフターの操作業務特別教育	コマツ教習所(株)	令 6. 6. 29
小山貴晟	テールゲートリフターの操作業務特別教育	コマツ教習所(株)	令 6. 6. 29
濱田重彦	テールゲートリフターの操作業務特別教育	コマツ教習所(株)	令 6. 6. 29
堀尾光広	テールゲートリフターの操作業務特別教育	コマツ教習所(株)	令 6. 6. 29
藤井桃子	テールゲートリフターの操作業務特別教育	コマツ教習所(株)	令 6. 6. 30
井上利明	化学物質管理者講習	農研機構	令 6. 7. 10
菊池 豊	化学物質管理者講習	農研機構	令 6. 7. 10
川出哲生	化学物質管理者講習	農研機構	令 6. 7. 10
石川大蔵	化学物質管理者講習	農研機構	令 6. 7. 16
吉田隆延	化学物質管理者講習	農研機構	令 6. 7. 16
吉永慶太	化学物質管理者講習	農研機構	令 6. 7. 16
荒井圭介	化学物質管理者講習	農研機構	令 6. 7. 22
山田祐一	化学物質管理者講習	農研機構	令 6. 7. 22
藤井桃子	はい作業主任者技能講習	キャタピラー教習所(株)	令 6. 7. 22
藤田耕一	はい作業主任者技能講習	キャタピラー教習所(株)	令 6. 7. 22
堀尾光広	はい作業主任者技能講習	キャタピラー教習所(株)	令 6. 7. 22
真仁田豊	はい作業主任者技能講習	キャタピラー教習所(株)	令 6. 7. 22
嘉瀬井祥太	普通旋盤作業3級機械加工技能士	埼玉県職業能力開発協会	令 6. 7. 27
手島 司	化学物質管理者講習	農研機構	令 6. 7. 30
紺屋秀之	化学物質管理者講習	農研機構	令 6. 7. 30
土師 健	化学物質管理者講習	農研機構	令 6. 7. 30
梅田直円	評価者研修	農研機構	令 6. 7. 31
太田孝弘	評価者研修	農研機構	令 6. 7. 31
大森弘美	評価者研修	農研機構	令 6. 7. 31
深山大介	評価者研修	農研機構	令 6. 7. 31
林 和信	評価者研修	農研機構	令 6. 8. 1
富田宗樹	評価者研修	農研機構	令 6. 8. 1
塚本茂善	評価者研修	農研機構	令 6. 8. 1、2
志藤博克	評価者研修	農研機構	令 6. 8. 1、2
石川貞紀	評価者研修	農研機構	令 6. 8. 2
鈴木一志	評価者研修	農研機構	令 6. 8. 2
齋藤 繁	評価者研修	農研機構	令 6. 8. 2
藤井桃子	評価者研修	農研機構	令 6. 8. 2

氏名	研修名	主催	期間
馬場政広	化学物質管理者講習	農研機構	令 6. 8. 9
藤田耕一	化学物質管理者講習	農研機構	令 6. 8. 9
千葉大基	化学物質管理者講習	農研機構	令 6. 8. 9
藤井桃子	化学物質管理者講習	農研機構	令 6. 8. 21
津田直人	玉掛け技能講習	(公社)ボイラ・クレーン安全協会	令 6. 9. 25-26、29
藤井桃子	酸素欠乏危険作業特別教育 (2種)	キャタピラー教習所(株)	令 6. 9. 27
井上利明	酸素欠乏危険作業特別教育 (2種)	キャタピラー教習所(株)	令 6. 9. 27
小山貴晟	酸素欠乏危険作業特別教育 (2種)	キャタピラー教習所(株)	令 6. 9. 27
藤田耕一	酸素欠乏危険作業特別教育 (2種)	キャタピラー教習所(株)	令 6. 9. 27
濱田重彦	酸素欠乏危険作業特別教育 (2種)	キャタピラー教習所(株)	令 6. 9. 27
堀尾光広	酸素欠乏危険作業特別教育 (2種)	キャタピラー教習所(株)	令 6. 9. 27
真仁田豊	酸素欠乏危険作業特別教育 (2種)	キャタピラー教習所(株)	令 6. 9. 27
富田宗樹	第一種衛生管理者受験準備講習	(一社)埼玉労働基準協会連合会	令 6. 10. 1-3
津田直人	フォークリフト運転技能講習	(公社)ボイラ・クレーン安全協会	令 6. 10. 2、5、12-13
大根田一馬	玉掛け技能講習	(公社)ボイラ・クレーン安全協会	令 6. 10. 16-17、20
井上秀彦	床上操作式クレーン運転技能講習	(公社)ボイラ・クレーン安全協会	令 6. 10. 22-23、26
杉野直輝	床上操作式クレーン運転技能講習	(公社)ボイラ・クレーン安全協会	令 6. 10. 22-23、26
津田直人	有機溶剤業務従事者特別教育	農研機構	令 6. 10. 30
赤石 忍	公文書管理研修Ⅱ	国立公文書館	令 6. 11. 6-7
高山敏之	有機溶剤業務従事者特別教育	農研機構	令 6. 11. 7
高山敏之	化学物質管理者講習	農研機構	令 6. 11. 11
坂上 仁	化学物質管理者講習	農研機構	令 6. 11. 11
片岡宏征	主査等Ⅰ研修	農研機構	令 6. 11. 11-12
坂田遼太	床上操作式クレーン運転技能講習	(公社)ボイラ・クレーン安全協会	令 6. 11. 19-20、24
津田直人	床上操作式クレーン運転技能講習	(公社)ボイラ・クレーン安全協会	令 6. 11. 19-20、24
齋藤 繁	独法会計研修 (映像研修)	農研機構	令 6. 11. 20-12. 6
林 寛	独法会計研修 (映像研修)	農研機構	令 6. 11. 20-12. 6
佐藤純子	独法会計研修 (映像研修)	農研機構	令 6. 11. 20-12. 6
中田馨月	独法会計研修 (映像研修)	農研機構	令 6. 11. 20-12. 6
坂田遼太	小型移動式クレーン運転技能講習	(有)ワイズ	令 6. 12. 7-9
千葉大基	二等無人航空機操縦士経験者講習	(株)モビリティテクノ	令 6. 12. 9-10
Oyebode Oyetayo O	大型特殊自動車免許取得教習	(株)所沢自動車学校	令 7. 1. 11-25
津田直人	大型特殊自動車免許取得教習	(有)ワイズ	令 7. 1. 12-19
水野雄介	玉掛け技能講習	(公社)ボイラ・クレーン安全協会	令 7. 1. 15-16、19
Tran Thuy Thuy	玉掛け技能講習	(公社)ボイラ・クレーン安全協会	令 7. 1. 15-16、19
坂田遼太	大型特殊自動車免許取得教習	(有)ワイズ	令 7. 1. 22-24
津田直人	二等無人航空機操縦士講習	(株)モビリティテクノ	令 7. 1. 23
岡田 守弘	農研機構上級研究員研修	農研機構	令 7. 1. 30
黒崎 秀仁	農研機構上級研究員研修	農研機構	令 7. 1. 30
濱田重彦	危険物取扱者保安講習 (乙種4類)	(一社)埼玉労働基準協会連合会	令 7. 1. 30
水野雄介	床上操作式クレーン運転技能講習	(公社)ボイラ・クレーン安全協会	令 7. 2. 18-19、22
Tran Thu Thuy	床上操作式クレーン運転技能講習	(公社)ボイラ・クレーン安全協会	令 7. 2. 18-19、22
深津時広	研究マネジメントのためのキャリアアップ研修	農研機構	令 7. 2. 19
吉田隆延	研究マネジメントのためのキャリアアップ研修	農研機構	令 7. 2. 19
田中正浩	大型特殊自動車免許取得教習	(有)ワイズ	令 7. 2. 19-25
吉田颯汰	新規採用職員フォロー研修	農研機構	令 7. 2. 25
水野雄介	新規採用職員フォロー研修	農研機構	令 7. 2. 25
赤石 忍	主査等Ⅱ研修	農研機構	令 7. 2. 25-27

氏名	研修名	主催	期間
藤田耕一	主査等Ⅱ研修	農研機構	令7.2.25-27
坂田遼太	SolidWorks 基礎研修	(株)大塚商会	令7.2.25-28
大根田一馬	SolidWorks 基礎研修	(株)大塚商会	令7.2.25-28
水野雄介	SolidWorks 基礎研修	(株)大塚商会	令7.2.25-28
蕪木孝弘	SolidWorks 基礎研修	(株)大塚商会	令7.2.25-28
杉野直輝	SolidWorks 基礎研修	(株)大塚商会	令7.2.25-28
水野雄介	フォークリフト運転技能講習	(公社)ボイラ・クレーン安全協会	令7.3.4、8、15-16
Tran Thu Thuy	フォークリフト運転技能講習	(公社)ボイラ・クレーン安全協会	令7.3.4、8、15-16
大根田一馬	フォークリフト運転技能講習	(公社)ボイラ・クレーン安全協会	令7.3.4、8、15-16
菊池 豊	小型車両系建設機械（整地等3 t未満） 運転の特別教育	コマツ教習所(株)	令7.3.13-14

[3] 在外研究

令和6年度に在外研究を行った職員はいなかった。

9. 受賞

令和6年度の受賞は次のとおりである。

[1] 日本農業工学会フェロー（令和6年5月12日）

深津時広

[2] 農業情報学会フェロー（令和6年5月24日）

深津時広

[3] 一般社団法人農業食料工学会 森技術賞（令和6年9月8日）

「高能率ハウレンソウ調製機の開発に関する研究」

小林有一（現 ロボ研）、山本聡史（現 秋田県立大）、中山夏希、坪田将吾、大森弘美、(株)クボタ

[4] 日本農作業学会 学術奨励賞（令和7年3月27日）

「ポテトハーベスタで発生した挟まれおよび巻き込まれ事故の原因分析」

小林慶彦

10. 学位記

令和6年度に学位を取得した職員はいなかった。

11. 研究成果の発表等

[1] 研究報告・研究業績等

1) 農研機構研究報告

- (1) 2025巻第20号 (令7.3)
 - ①千葉大基：畝立同時二段局所施肥機の性能と肥料節減効果、P43-52
- (2) 2025巻第21号 (令7.3)
 - ①岡紀邦(中農研)、佐野智人(農環研)、千葉大基、深山大介、関正裕(中農研)：畝立て同時二段局所施肥機によるキャベツの減肥栽培、P9-19

2) 令和5年度事業報告(農機研; 令6.4)

- (1) 漬物用タカナ収穫機の開発、P4-5
- (2) 果樹園のスマート化に資する自動運転スピードスプレーヤーの開発、P6-7
- (3) 農業分野でのスマート農機等のデータ連携に係る国際標準化、P12-13
- (4) 生育モニタリングデータの補正技術の開発—ドローンによる作物の近接観測技術の開発、P16-17
- (5) AIを活用したスマート除草システムの開発【有機栽培野菜向け自律型除草ロボットの開発】—機械的選択除草装置の開発、P18-19
- (6) AIを活用したスマート除草システムの開発【有機栽培野菜向け自律型除草ロボットの開発】—除草ロボット走行部の開発とほ場状態認識機器及び除草装置の搭載、P20-21
- (7) 農作業事故の未然防止行動事例を活用した安全啓発手法に関する研究、P24-25
- (8) VRを活用した危険体感型農作業安全教育手法の開発、P26-27
- (9) トラクタの転倒・転落による重大事故抑止のためのシミュレーション技術の開発、P28-29

3) 令和6年度農業機械研究部門研究報告会資料(令7.3)

- (1) 志藤博克：トピックス；令和7年度開始の新たな安全性検査制度、P1-10
- (2) 重松健太、山田祐一、吉田隆延、津田直人、千葉大基：トピックス；両正条田植機と直交機械除草技術の開発動向、P11-22
- (3) 土師健：穀類燃焼装置を核としたCO2ゼロエミッション化への取組、P23-41
- (4) 坪田将吾、深津時広、嘉瀬井祥太、西川純、吉永慶太、坂田遼太、関隼人、小林研、吉田隆延：ドローンを活用するイチゴの生育観測手法、P43-51
- (5) 紺屋秀之、松本将大、菊池豊、西川純、田中正浩、小林慶彦、向霄涵、川瀬芳順：ロボット農機の安全性に関する研究・検査・国際標準化活動の紹介、P53-67
- (6) 田中正浩、向霄涵、菊池豊：アシストスーツに関する世界動向と評価・設計手法の開発、P69-80

4) 2024年度普及成果情報(農研機構; 令7.10)

- (1) 深井智子、紺屋秀之、原田泰弘、川瀬芳順、松本将大、小林慶彦、清水一史、志藤博克：ロボットコンバインの安全性に関する検査の主要な実施方法と基準
- (2) 紺屋秀之、川瀬芳順、塚本茂善、山崎裕文：国際標準化されたロボット農機の安全性に関する検査の主要な実施方法と基準
- (3) 野田崇啓、土師健、中岡清典((株)サタケ)、福本亮((株)サタケ)、楠木克((株)サタケ)、宮野法近(元宮城古川農試)、狐塚慶子(宮城古川農試)：過熱水蒸気を利用した高温高湿度空気による環境保全型水稻種子消毒装置

5) 2024年度研究成果情報 (農研機構)

- (1) 倉鋪圭太、深尾隆則 (東京大)、植月悠記 (スズキ(株)) : 農道における自動運転のためのロバストな自己位置推定技術
- (2) 岡紀邦(中農研)、佐野智人(農環研)、千葉大基、深山大介、関正裕(中農研) : 畝立て同時二段局所施肥機によるキャベツの減肥栽培
- (3) 田中正浩、向霄涵、菊池豊、紺屋秀之、西川純、松本将大、小林慶彦 : 繰り返し作業におけるアシストスーツの腰部疲労軽減効果の評価手法

[2] 学会誌・機関誌

1) 農業食料工学会誌

- (1) 第86巻第4号 (令6.7)
 - ①梅野覚、富田宗樹、田中正浩、菊池豊、松井正実(宇都宮大) : 歩行用トラクタの挟まれ時に発生する力学的作用の測定—作業者がループ式ハンドルで拘束された状態を想定した挟まれメカニズムの解明—、P221-230
 - ②千葉大基 : 速報 ; 横溝ロール式肥料散布機の有機質資材散布特性、P245-247
- (2) 第86巻第5号 (令6.9)
 - ①荒井圭介、栗原英治 : グレンコンテナの高水分穀粒への適応性拡大に関する基礎的研究、86(5)、289-295

2) 農作業研究

- (1) 菊池豊、小林慶彦、梅野覚、田中正浩、向霄涵、松本将大、紺屋秀之、高橋弘行 : カタログ調査による農業機械仕様の最近の傾向 (第1報) —乗用トラクタ、59(1)、P33-42 (令6.3)
- (2) 菊池豊、小林慶彦、梅野覚、田中正浩、向霄涵、松本将大、紺屋秀之、高橋弘行 : カタログ調査による農業機械仕様の最近の傾向 (第2報) —乗用トラクタ作業機 (ロータリ、代かき機) —、59(2)、P79-90 (令6.6)
- (3) 菊池豊、小林慶彦、梅野覚、田中正浩、向霄涵、松本将大、紺屋秀之、高橋弘行 : カタログ調査による農業機械仕様の最近の傾向 (第3報) —乗用トラクタ作業機 (はつ土板プラウ、畦塗り機) 、59(3)、P137-147 (令6.9)
- (4) 梅野覚、西川純、菊池豊 : 乗用型農業機械の周囲における低視認性及び視認性改善装備に関するアンケート調査、60(1)、P13-24 (令7.3)

3) 育種学研究

- (1) 池永幸子(東北研)、谷口義則(東北研)、伊藤裕之(東北研)、中丸観子(東北研)、高山敏之、中村俊樹(東北研)、氷見英子(吉備国際大)、石川吾郎(作物研)、池田達哉(西農研)、中村和弘(機構本部)、平将人(九沖研)、前島秀和(長野農試)、伊藤美環子(西農研)、齋藤美香(東北研)、吉川亮(東北研) : コムギ縞萎縮病に抵抗性で麺の色相が優れる寒冷地向けコムギ新品種「ナンブキラリ」の育成、26(1)、P23-30 (令6.6)

4) JARQ: Japan Agricultural Research Quarterly (国際農研)

- (1) vol. 58no. 3 (令6.7)
 - ①Hideyuki KONYA, Yutaka KIKUCHI : Risk analysis, safety assurance requirements, and safety evaluation test for robotic agricultural machinery、P141-150
- (2) vol. 59 no. 1 (令7.1)
 - ①Mitsuru Hachiya : Advanced Operation and Social Acceptability of Robotic Agricultural Machinery for

(3) Advance online publication (令7.1)

- ①Van Nang NGUYEN, Wonjae CHO, Kei TANAKA :Performance evaluation of YOLOv5 for object detection in agricultural implement changeover、https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jarq/advpub/0/_contents/-char/en
- ②Masahiro TANAKA, Xiaohan XIANG :review-article ; Evaluation methods for assist suit and agricultural applications、https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jarq/advpub/0/_contents/-char/en

5) Applied Engineering in Agriculture (ASABE)

- (1) Nang Van Nguyen, Cho Wonjae, Kenichi Tokuda :Performance Evaluation of Fiducial Marker-Based Pose Estimation for Relative Localization of Agricultural Tractor and Implement、40(2)、P225-231 (令6.4)

6) New Frontiers in Regional Science: Asian Perspectives (SPRINGER)

(1) vol.77 (令6.5)

- ①Kazi Faiz Alam (Univ. of Tsukuba), Md Shamsuzzoha (Univ. of Tsukuba), Sara Tokhi Arab, Ivana Joy Pauline Pangaribuan (Univ. of Tsukuba), Tofael Ahamed (Univ. of Tsukuba) :Application of Remote Sensing in the Analysis of Climate Extremes Due to Global Climate Change、P1-21
- ②Sara Tokhi Arab, Tofael Ahamed (Univ. of Tsukuba) :Land Suitability Analysis for Potential Vineyards Extension Using a Fuzzy Expert System and Remote Sensing Datasets at a Regional Scale、P179-204
- ③Aung Myint Htun (Univ. of Tsukuba), Sara Tokhi Arab, Tofael Ahamed (Univ. of Tsukuba) :Drought Monitoring and Rice Yield Loss Assessment using Drought Indices and SPI through an Integrated Approach of AHP in the Central Dry Zone of Myanmar、P295-320

7) AgriEngineering (MDPI)

- (1) Hiroki Naito(Univ. of Tokyo), Kota Shimomoto, Tokihiro Fukatsu, Fumiki Hosoi(Univ. of Tokyo), Tomohiko Ota(RCAR/NARO) : Interoperability Analysis of Tomato Fruit Detection Models for Images Taken at Different Facilities, Cultivation Methods, and Times of the Day、6(2)、P1827-1846 (令6.6)

8) Foods (MDPI)

- (1) Seki Hayato, Haruko Murakami(Nagoya Univ.), Te Mai(Nagoya Univ.), Satoru Tsuchikawa(Nagoya Univ.), Tetsuya Inagakii(Nagoya Univ.) :Evaluating Soluble Solids in White Strawberries: A Comparative Analysis of Vis-NIR and NIR Spectroscopy、13(14)、<https://doi.org/10.3390/foods13142274> (令6.7)

9) Frontiers in Bioengineering and Biotechnology (frontiers)

- (1) Xiaohan Xiang, Masahiro Tanaka, Satoru Umeno, Yutaka Kikuchi, Yoshihiko Kobayashi :Fatigue assessment for back-support exoskeletons during repetitive lifting tasks、vol.12、P1-11 (令6.9)

10) Agriculture (MDPI)

- (1) Hiroki Naito(Univ. of Tokyo), Kota Shimomoto, Tokihiro Fukatsu, Fumiki Hosoi(Univ. of Tokyo), Tomohiko Ota(RCAR/NARO) : Accuracy Assessment of Tomato Harvest Working Time Predictions from Panoramic Cultivation Images、14(12)、 <https://doi.org/10.3390/agriculture14122257> (令6.12)

11) Journal of Robotics and Mechatronics(FUJI Technology Press)

- (1) Keita Kurashiki, Kazuki Kono(Ritsumeikan Univ.), Takanori Fukaoi(Univ. of Tokyo) :LiDAR Based Road Detection and Control for Agricultural Vehicles、(36)6、P1516-1526 (令6.12)

12) Applied Stochastic Models in Business and Industry (WILEY)

- (1) Haifeng Zhang(Zhanjiang Univ. of Science and Technology), Mitsuru Hachiya, Hideo Noda(Tokyo univ. of science), Koki Kyo(Gifu Shotoku Gakuen Univ.) : Enhancing Predictive Modeling of Chinese Yam Shape Through Bayesian Linear Modeling and Key Diameter Modification、41(1)、P1-8 (令7.1)

[3] 学会・シンポジウム等講演要旨

1) 農業情報学会2024年度年次大会 (令6.5)

- (1) 深津時広、坪田将吾、安場健一郎(岡山大)、岡本浩行(阿南高専)、村井恒治(徳島農林水産総技セ)、中野卓(NTTコム)、加藤文彦((株)NTTドコモ) :イチゴ栽培における作業管理の効率化・省力化に向けたドローン活用の可能性について、P120-121
- (2) 黒崎秀仁、総田幸司(サンテック(株))、安場健一郎(岡山大) : UECS実装用ミドルウェアUARDECSのマルチプラットフォーム化の推進、P29-30
- (3) 太田望、深津時広、檜野雅和 : リアルタイムセグメンテーションに向けたトマト主茎の深層学習手法の比較、P110-111

2) 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会2024 (令6.5)

- (1) 金子智亮(東工大)、高橋秀治(東工大)、深津時広、山浦弘(東工大) : トマト下葉処理エンドエフェクタにおける回転切断機構の開発、2P1-A04

3) 2024年度農業施設学会大会 (令6.6)

- (1) 野田崇啓、松谷俊弘((株)山本製作所)、須田勲((株)山本製作所)、斉藤勝彦((株)山本製作所)、池田信義((株)サタケ)、坪江直樹((株)サタケ) : 農機OpenAPIを用いた穀物循環式乾燥機とのデータ連携、P17-18

4) CSBE-SCGAB Technical Conferences (令6.7)

- (1) Oyeboode, O. O., Tsubota, S., & Yoshinaga, K. : Machine vision models for identifying seedbeds region and orientation beneath growing strawberry crops in greenhouses、Proceedings of the CSBE/SCGAB 2024 Annual Conference、Paper No. CSBE24117、<https://library.csbe-scgab.ca/all-publications/6150:machine-vision-models-for-identifying-seedbeds-region-and-orientation-beneath-growing-strawberry-crops-in-greenhouses>

5) 22nd Triennial Congress of the International Ergonomics Association (IEA) (令6.8)

- (1) Xiaohan Xiang, Masahiro Tanaka, Satoru Umeno, Yutaka Kikuchi : Effect of Assist Device on Lumbar Fatigue in Flexion Task、https://www.iea2024.com/program/05.html?dateIdx=&sch_txt=EFFECT+OF+ASSIST+DEVICE+ON+LUMBAR+FATIGUE+IN+FLEXI

6) 第82回農業食料工学会年次大会 (令6.9)

- (1) 千葉大基、Oyebode oyetayo、柳澤勇介(滋賀県)、横井隆志(滋賀農技セ)、片山寿人(滋賀農技セ)、中川寛之(滋賀農技セ) : 機械学習を用いた水稻栽培における追肥量の決定方法、P45
- (2) 坪田将吾、難波和彦(岡山大)、嘉瀬井祥太、深津時広 : 上方から撮影した動画を用いたイチゴの株単位での生育記録、P46
- (3) 関隼人、川出哲生、李斌(名古屋大)、馬特(名古屋大)、稲垣哲也(名古屋大) : 近赤外ハイパースペクトラルイメージング(NIR-HSI)による長ネギの非破壊Brix推定技術の開発、P10
- (4) 積栄、皆川啓子(農水省)、紺屋朋子、大西明日見(機構本部) : 農作業事故の未然防止行動事例に着目した実態把握と啓発手法(第2報)、P51
- (5) 紺屋朋子、大西明日見(機構本部)、積栄、皆川啓子(農水省) : VRを活用した危険体感型農作業安全教育手法(第4報)ー現地研修における活用方法の提案ー、P52
- (6) 井上秀彦、滝元弘樹、原田一郎、杉野直輝、酒井憲司(農工大) : 農用トラクタの脱輪時における転倒挙動の解析、P59
- (7) 酒井憲司(農工大)、中島正裕(農工大)、渡辺将央(農工大)、帖佐直(農工大)、山下恵(農工大)、松井正実(宇都宮大)、田村孝浩(宇都宮大)、青柳悠也(琉球大)、風間恵介(日本大)、井上秀彦、滝元弘樹、原田一郎、手島司 : トラクタ非線形動力学の社会実装ーアクティブ安全に向けたトラクタ転倒転落インシデントの理解と把握ー、P61
- (8) 原田一郎、杉野直輝、井上秀彦、滝元弘樹、手島司 : 農用乗用型トラクタ用安全キャブ・フレームの強度試験シミュレーションに関する研究ー小型トラクタ用2柱式安全フレームのシミュレーションへのマウント詳細モデル適用ー、P54
- (9) 滝元弘樹、井上秀彦、原田一郎、杉野直輝、渡辺将央(農工大)、酒井憲司(農工大) : 変位データに基づく農用トラクタのバウンシング挙動解析、P57
- (10) 梅野覚、西川純、菊池豊 : 乗用型農業機械における視認性に関する問題の要因分析、P53
- (11) 西川純、川出哲生、平田晃、志藤博克、西川達也(NOSAI岡山)、若槻拓司(道総研酪農試) : 2次元画像による乳牛の採食程度の数値化、P36
- (12) 松本将大、紺屋秀之、菊池豊 : 人・障害物センサに影響を与える環境要因の解明に関する研究(第2報)、P98
- (13) 小林慶彦、菊池豊、梅野覚、西川純 : ポテトハーベスタにおける選別動作の解析、P55

7) the 11th International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering (ISMAB 2024) (令6.9)

- (1) Tokihiro FUKATSU, Shogo Tsubota, Kenichiro YASUBA(Okayama Univ.), Hiroyuki OKAMOTO(Anan KOSEN), Kouji MURAKI(Tokushima Pref.), Taku NAKANO(NTT Com.), Fumihiko KATO(NTT docomo) : EXPLORING THE POTENTIAL AND FEASIBILITY OF A DRONE-BASED APPROACH TO SMART STRAWBERRY CULTIVATION MANAGEMENT、PA-R22
- (2) T. Kaneko(Tokyo Tech.), T. Fukatsu, H. Yamamura(Tokyo Tech.), H. Takahashi(Tokyo Tech.) : DEVELOPMENT AND PERFORMANCE EVALUATION OF ROTATIONAL CUTTING MECHANISM ON END-EFFECTOR FOR TOMATO DE-LEAFING、BR-R24
- (3) Kota Shimomoto, Mitsuyoshi Shimazu, Hiroki Naito(Univ. of Tokyo), Tomohiko Ota(RCAR/NARO), Tokihiro Fukatsu : DEVELOPMENT OF A RAIL-GUIDED VEHICLE AND PLATFORM FOR MONITORING MULTIPLE PLANTING ROWS IN GREENHOUSES、BR-R20
- (4) Masakazu Kashino, Tokihiro Fukatsu, Nozomu Ohta, Hideto Kurosaki : Force control strategy for a tomato

pruning task by a manipulator equipped with a hedge trimmer、BR-R23

- (5) Nozomu Ohta, Kota Shimomoto, Mitsuyoshi Shimazu, Tokihiro Fukatsu : Updating Deep Learning Segmentation for Paprika Yield Prediction in Large-Scale Greenhouses、PA-R50

8) 2024年度日本草地学会帯広大会 (令6.9)

- (1) 川出哲生、志藤博克、小林優史((株)タカキタ)、岡嶋弘((株)タカキタ)、吉田雅規(徳島農林水産総技セ) : 完熟期イアコーンの破碎率向上、P28

9) 農業食料工学会ITメカトロ部会セミナー (令6.10)

- (1) 田中正浩 : IS013482のサービスロボットの安全に関する国際動向、<https://j-sam.org/archives/3232>

10) 関西農業食料工学会第152回例会 (令6.10)

- (1) 柏木大輝(岡山大)、徳留英明(岡山大)、坪田将吾、難波和彦(岡山大)、門田充司(岡山大) : パノラマ画像による促成栽培イチゴの果実数計測、関西農業食料工学会会報 (137) 、P50-51

11) 園芸学会令和6年度秋季大会 (令6.11)

- (1) 栗原桜子(徳島農林水産総技セ)、植松菜月(徳島農林水産総技セ)、村井恒治(徳島農林水産総技セ)、坪田将吾、吉永慶太、西川純、深津時広 : イチゴにおけるドローンのダウンウォッシュを利用した受粉の効果検証、23 (2) 、P194

12) 14th International Conference of Asia-Pacific Federation for Information Technology in Agriculture (APFITA2024) (令6.11)

- (1) 本多周平(ListenField)、Malte Grosse(ListenField)、渡部岬大(ListenField)、Potchara Wongyai(ListenField)、本多潔(ListenField)、Rassarain Chinnachodteeranun(ListenField)、濱田安之((株)農業情報設計社)、臼井善彦、古山隆司、白石勇太郎(NRI) : Data Linkage of Agriculture Machines and FMIS using Standard Data Model and API in Thai Rice Farming Communities、Q-7
- (2) Akane Takezaki, Kei Tanaka, Yoshihiko Usui, Takashi Furuyama, Kazunobu Hayashi : Standardizing data model for paddy-field operations in the ASEAN region、0-9
- (3) T. Fukatsu, M. Kashino, H. Takahashi(Tokyo Tech.), T. Kaneko(Tokyo Tech.) : Feasibility and Challenges of a Tomato De-leafing Robot Using a Main Stem-based Approach、A-10

13) 令和6年度計測自動制御学会四国支部学術講演会 (令6.11)

- (1) 岡本浩行(阿南高専)、Anil Raj(Singapore Republic Polytechnic)、深津時広、坪田将吾、安場健一郎(岡山大)、栗原桜子(徳島農林水産総技セ)、中野卓(NTTコミュニケーションズ(株))、加藤文彦((株)NTTドコモ) : ドローンのダウンウォッシュにより振動するイチゴ花房の振動特性解析、P39-41

14) 園芸学会 イチゴフォーラム (令7.3)

- (1) 坪田将吾 : ドローンのダウンウォッシュを用いたイチゴの生体観測技術

15) 日本農作業学会2025年度春季大会（令7.3）

- (1) 山下貴史、田中惣士（東北農研）：ほ場凹凸マップ提示による水田均平作業省力効果の検証、P72-73
- (2) 土川寛崇：ISOBUS機能の実装のためのオープンソースライブラリの活用、P54-55
- (3) 菊池豊、梅野覚、小林慶彦、田中正浩、紺屋秀之、松本将大、向霄涵、西川純：カタログ調査による農業機械仕様の最近の傾向ー乗用トラクタ用作業機（はつ土板プラウ、畦塗り機、ブロードキャスタ、ブームスプレーヤ）、P88-89

[4] 著書・資料・雑誌等

1) 標準作業手順書（農研機構）

- (1) 千葉大基：野菜用高速局所施肥機を活用した畝内二段施肥法標準作業手順書（令6.5）
- (2) 重松健太、大野智史（中農研）：大豆用高速畝立て播種機を活用した大豆栽培体系標準作業手順書（令6.6）
- (3) 野田崇啓：過熱水蒸気を利用した高温高湿度空気による水稻種子の熱消毒技術標準作業手順書（令6.7）

2) 令和5年度（2023年度）海外技術調査報告（農機研；令6.10）

- (1) 紺屋秀之、川瀬芳順：ISO/TC23/SC19/WG8会合への参加（5/21-27、フランス）（10/17-21、ドイツ）、P1-2
- (2) 川瀬芳順、原田一郎：OECDトラクタコードテクニカルワーキンググループ・サブワーキンググループ会合、テストエンジニア会合・年次会合への参加（6/5-9、フランス）（9/23-30、トルコ）（3/10-14、フランス）、P3-6
- (3) 川瀬芳順、高橋弘行：ANTAM研修実施と年次会合への参加（6/12-16、9/3-10、タイ）（12/5-9、韓国）、P7-12
- (4) 田中正浩、向霄涵：ISO/TC299/WG2における農業用アシストスーツに関連した国際標準化活動（6/20-24、韓国）（9/12-17、ドイツ）（1/21-25、米国）、P13-16
- (5) 深津時広、嶋津光辰、下元耕太、櫻野雅和：International Symposium on new Technologies for Sustainable Greenhouse Systems（Green-sys2023）への参加・発表（10/21-29、メキシコ）、P17-18
- (6) Nguyen Van Nang：LANDTECHNIK2023学会参加およびAGRITECHNICA2023視察（11/9-15、ドイツ）、P19-26
- (7) 中山夏希：2023韓国施設園芸現地研修ツアーへの参加（11/14-18、韓国）、P27-35
- (8) Nguyen Van Nang、趙元在、倉鋪圭太：ロボット農機の安全ガイダンスシステムの開発及び性能評価（JLC2023）（11/19-26、フランス）、P36-41
- (9) 太田孝弘、古山隆司、臼井善彦、田中慶、土川寛崇：令和5年度BRIDGEタイ実証試験調査（1/23-27、2/26-3/1、タイ）、P42-50
- (10) 川瀬芳順、田中慶：FIRA2024への参加（2/5-10、フランス）、P51-52
- (11) 志藤博克：Next Generation Agricultural Mechanization Development Conferenceでの招待講演（3/11-13、台湾）、P53-56

3) その他の著書・資料・雑誌等

- (1) 大森弘美：作業姿勢が改善できる「越冬ハクサイ頭部結束機」、技術の窓（日本政策金融公庫）、No. 2686（令6.12）
- (2) 臼井善彦：主要機種の開発改良動向ー果樹栽培用機械、機械化農業（新農林社）、3276、P23-24（令6.7）
- (3) 手島司：コンバイン（自脱型）の安全装備検査及び自動化農機検査に関する技術指導、技術指導報告書（農機研）、1件（令6.8）
- (4) 志藤博克：車両系農業機械の特別教育が検討されています、農作業安全コラム（農機研）、<https://www.naro.affrc.go.jp/org/brain//anzenweb/column/R6/7.html>（令6.7）
- (5) 志藤博克：農業機械の分類、農業機械の安全指導(6)～(7)、農業機械の関係法規、農業機械整備技能検定受検の手引（全農機商連）、P32-40、P46-52（令6.10）

- (6) 清水一史：農用の単軌条運搬機（モノレール）について、農作業安全コラム(農機研)、<https://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/anzenweb/column/R6/11.html>（令6.11）
- (7) 手島司：農用トラクター（乗用型）の安全装備検査及び自動化農機検査に関する技術指導、技術指導報告書(農機研)、1件（令6.8）
- (8) 手島司：ミニショベルの騒音計測に関する技術指導、技術指導報告書(農機研)、1件（令6.9）
- (9) 原田泰弘、手島司、深井智子：一般性能試験－鋼線刈刃、一般性能試験成績書(農機研)、1型式（令6.11）
- (10) 山崎裕文、手島司、井上秀彦、原田一郎、滝元弘樹、杉野直輝：農耕作業用自動車等機能確認－刈取脱穀作業車、機能確認報告書(農機研)、6型式（9類別）（令6.5-令6.8）
- (11) 山崎裕文：農作業事故を防ぐ #27清掃・点検整備、ニューカントリー(北海道協同組合通信社)、843、P60-61
- (12) 山崎裕文：労働者に対する安全対策の一例紹介①、農作業安全コラム(農機研)、<https://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/anzenweb/column/R6/8.html>（令6.8）
- (13) 山崎裕文：他人事ではない！農作業事故4 ポテトハーベスター、農業共済新聞北海道営農版、3517、P7（令6.8）
- (14) Hirofumi Yamasaki: Efforts to Improve Agricultural Safety Inspections in Japan, 2024 International Agricultural Safety Seminar、韓国農村振興庁国立農業科学院、P42-55（令6.9）
- (15) 山崎裕文：他人事ではない！農作業事故6 トラックからの転落、農業共済新聞北海道営農版、3525、P7（令6.10）
- (16) 山崎裕文：農作業事故を防ぐ #32道路走行時、ニューカントリー(北海道協同組合通信社)、848、P60-61（令6.11）
- (17) 山崎裕文：他人事ではない！農作業事故8 点検整備時の巻き込まれを防ぐ、農業共済新聞北海道営農版、3536、P7（令7.1）
- (18) 山崎裕文：農作業事故を防ぐ #35 パレットからの転落、ニューカントリー(北海道協同組合通信社)、851、P58-59（令7.2）
- (19) 深井智子、紺屋秀之、松本将大：田植機の安全装備検査（2018年基準）、ロボット農機検査及び自動化農機検査に関する技術指導、技術指導報告書(農機研)、1件（令6.4）
- (20) 深井智子、原田泰弘、紺屋秀之、松本将大、小林慶彦、清水一史：ロボット農機検査：田植機、コンバイン（普通型）、乾燥機の遠隔監視装置、安全性検査結果報告書(農機研)、1型式、1型式、13型式（令6.5-令7.3）
- (21) 深井智子：自動化農機検査の対象機種が追加されました、農作業安全コラム(農機研)、<https://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/anzenweb/column/R6/5.html>（令6.5）
- (22) 深井智子、紺屋秀之：コンバイン（普通型）のロボット農機検査に関する技術指導、技術指導報告書(農機研)、1件（令6.6）
- (23) 深井智子、紺屋秀之：農用トラクター（乗用型）の安全装備に関する技術指導、技術指導報告書(農機研)、1件（令6.9）
- (24) 八谷満：ロボットを用いた省力化農業、電気通信(電気書院)、92(5)、P25-32（令6.5）
- (25) 八谷満：＜こどもサイエンス＞無人機械で効率良く、福島民報、5/27付け、P11（令6.5）
- (26) 八谷満：＜発言＞ロボット農機の高度運用に期待、毎日新聞、第53547号、P9（令6.11）
- (27) 黒崎秀仁：農業にピッタリのCO2センサS-300ト、ランジスタ技術(CQ出版社)、2024年10月号、P86-89（令6.10）
- (28) 中山夏希：接ぎ木装置に関する研究、東海漬物(株)HP、<https://kyuchan.co.jp/contributions/agriculture/grafting.html>（令6.4）
- (29) 坪田将吾、深津時広：ドローンを活用するイチゴの生育観測手法を開発－ 生長点の時系列観測により生育診断を高度化－、プレスリリース(農研機構)、https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/iam/164020.html（令6.7）
- (30) 関隼人：白イチゴの糖度を可視・近赤外光で“見える化”～果皮の色によらない選別と熟度判定の技術確立に寄与～、プレスリリース(名古屋大・農研機構)、<https://www.nagoya-u.ac.jp/researchinfo/result/2024/11/post-752.html>（令6.11）
- (31) 関隼人：近赤外ハイパースペクトルイメージング（NIR-HSI）を用いた果実糖度分布推定方法、青果物のおいしさの科学(NTS)、P101-109（令6.11）
- (32) 青木循：特集リモコン式自走草刈機導入のポイント、全国農業新聞、3333、P4-5（令6.6）
- (33) 青木循：主要機種の開発改良動向－野菜作用機械、機械化農業(新農林社)、3276、P25-27（令6.7）

- (34) 青木循、野田崇啓：メーカー間の垣根を越えたデータ連携の実証結果と最新の農機OpenAPI仕様書を公開ー 農業者のデータ利活用の促進ー、プレスリリース(農研機構)、https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/iam/165012.html (令6.8)
- (35) 川出哲生：都府県におけるエアコーン生産利用を実現するエアコーン収穫スナッパヘッド、農業機械技術クラスター事業HP(農機研)、<https://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/iam/cluster/project/result/index09.html#point> (令6.4)
- (36) 川出哲生：豚舎洗浄ロボットの開発、養豚の友(日本畜産振興会)、2024年6月号、P18-21 (令6.6)
- (37) 川出哲生：主要機種の開発改良動向ー畜産用機械-飼料生産用機械、機械化農業(新農林社)、3276、P28-29 (令6.7)
- (38) 川出哲生、西川純：乳牛のボディコンディションスコアを簡易に判定する手法の開発、畜産技術(畜産技術協会)、832、P23-26 (令6.9)
- (39) 山田祐一：主要機種の開発改良動向ー田植機-両正条田植機の開発状況、機械化農業(新農林社)、3276、P12-14 (令6.7)
- (40) 富田宗樹：かつての父の変化に思う、農作業安全コラム(農機研)、<https://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/anzenweb/column/R7/1.html> (令7.1)
- (41) 積栄：農作業事故を防ぐ #25農機の転落・転倒、ニューカントリー(北海道協同組合通信社)、841、P58-59 (令6.4)
- (42) 積栄：他人事ではない！農作業事故1 トラクターの転落・転倒、農業共済新聞北海道営農版、3499、P7 (令6.4)
- (43) 積栄：ひとごとではない！農作業事故とその対策、柑橘(JA静岡経済連みかん園芸部)、76(6)、P2-4 (令6.6)
- (44) 積栄：農作業事故を防ぐ #30収穫作業、ニューカントリー(北海道協同組合通信社)、846、P62-63 (令6.9)
- (45) 積栄：他人事ではない！農作業事故5 荷役運搬機械、農業共済新聞北海道営農版、3521、P7 (令6.9)
- (46) 積栄：後悔、先に立たず、農作業安全コラム(農機研)、<https://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/Anzenweb/column/R7/2.html> (令7.2)
- (47) 積栄：農作業事故を防ぐ #36整備・清掃、ニューカントリー(北海道協同組合通信社)、852、P60-61 (令7.3)
- (48) 紺屋朋子：農作業事故を防ぐ #26共同作業2、ニューカントリー(北海道協同組合通信社)、842、P58-59 (令6.5)
- (49) 紺屋朋子：他人事ではない！農作業事故2 除草作業関連、農業共済新聞北海道営農版、3509、P7 (令6.6)
- (50) 紺屋朋子：農作業事故を防ぐ #29収穫作業、ニューカントリー(北海道協同組合通信社)、845、P60-61 (令6.8)
- (51) 紺屋朋子、梅野覚、積栄、山崎裕文、和泉崇之(JA共済連)、山崎勝也(JA共済連)、小池美和(JA共済連)：研修担当者向けマニュアル『農作業事故体験VRを活用した学習プログラムの手引き』を作成ーJA共済連と農研機構、双方の知見を活かし農作業安全啓発に向けた更なる取組みの強化ー、プレスリリース(JA共済連・農研機構)、<https://www.ja-kyosai.or.jp/news/2024/20240930.html> (令6.9)
- (52) 紺屋朋子：農作業事故を防ぐ #33転倒、ニューカントリー(北海道協同組合通信社)、851、P66-67 (令6.12)
- (53) 紺屋朋子：他人事ではない！農作業事故9 作業機着脱関連、農業共済新聞北海道営農版、3540、P7 (令7.2)
- (54) 井上秀彦、滝元弘樹、松本将大、原田泰弘、手島司、原田一郎、杉野直輝、高橋弘行、山崎裕文、大根田一馬、紺屋秀之、小林慶彦、深井智子、Tran Thu Thuy：安全装備検査ー農用トラクター(乗用型)、農用トラクター(歩行型)、田植機、野菜移植機、コンバイン(自脱型)、コンバイン(普通型)、乾燥機(穀物用循環型)、安全性検査結果報告書(農機研)、79型式、8型式、11型式、1型式、11型式、5型式、32型式(令6.4-令7.3)
- (55) 井上秀彦：中国における農作業事故について、農作業安全コラム(農機研)、<https://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/anzenweb/column/R6/4.html> (令6.4)
- (56) 井上秀彦：大型乾燥施設の安全装備検査に関する技術指導、技術指導報告書(農機研)、1件(令6.5)
- (57) 井上秀彦、手島司：コンバイン(自脱型)の安全装備に関する技術指導、技術指導報告書(農機研)、1件(令6.6)
- (58) 井上秀彦、滝元弘樹：主要機種の開発改良動向ー穀物乾燥・調製機、機械化農業(新農林社)、3276、P20-22(令6.7)
- (59) 原田一郎、山崎裕文、手島司、井上秀彦、滝元弘樹、杉野直輝、高橋弘行、大根田一馬：一般性能試験ー農用トラクター(乗用型)用ROPS、一般性能試験成績書(農機研)、13型式(令6.4-令7.1)
- (60) 原田一郎、手島司、井上秀彦、滝元弘樹、杉野直輝、高橋弘行、山崎裕文、大根田一馬：安全キャブフレーム検

- 査一農用トラクター（乗用型）用安全キャブ・フレーム、安全性検査結果報告書（農機研）、14型式（令6.4-令7.2）
- (61) 原田一郎、手島司：主要機種の開発改良動向ー穀物収穫機、機械化農業（新農林社）、3276、P18-19（令6.7）
- (62) 原田一郎、杉野直輝：コンバイン（自脱型）の安全装備に関する技術指導、技術指導報告書（農機研）、1件（令6.7）
- (63) 原田一郎：コンバイン事故とヒヤリハット、農作業安全コラム（農機研）、<https://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/anzenweb/column/R6/10.html>（令6.10）
- (64) 滝元弘樹、井上秀彦：コンバイン（自脱型）の令和7年度施行新基準での安全性検査基準適合に関する技術指導、技術指導報告書（農機研）、1件（令6.4）
- (65) 滝元弘樹、手島司：コンバイン（普通型）の安全装備に関する技術指導、技術指導報告書（農機研）、1件（令6.6）
- (66) 梅野覚：農作業事故を防ぐ #28トラクタなどの乗降、ニューカントリー（北海道協同組合通信社）、844、P62-63（令6.7）
- (67) 梅野覚：他人事ではない！農作業事故3 トラクターの路上走行中の追突被害を防ぐ、農業共済新聞北海道営農版、3513、P7（令6.7）
- (68) 梅野覚：農作業事故を防ぐ #31給油・移動時、ニューカントリー（北海道協同組合通信社）、847、P60-61（令6.10）
- (69) 梅野覚：他人事ではない！農作業事故7 脚立・はしごからの転落被害を防ぐ、農業共済新聞北海道営農版、3529、P7（令6.11）
- (70) 梅野覚：農作業事故を防ぐ #34機械からの転落、ニューカントリー（北海道協同組合通信社）、852、P80-81（令7.1）
- (71) 梅野覚：他人事ではない！農作業事故10 植え付け・移植作業時の巻き込まれ事故を防ぐ、農業共済新聞北海道営農版、3544、P7（令7.3）
- (72) 菊池豊：マンガで描かれた農作業事故、農作業安全コラム（農機研）、<https://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/anzenweb/column/R6/12.html>（令6.12）
- (73) 榎原毅（産業医大）、谷直道（産業医大）、瀬尾明彦（都立大）、中西由美花（鳥取県）、菊池豊：JIS Z 8505-1:2025 人間工学ー手作業による取扱いー第1部：持ち上げ、持ち下げ及び運搬、JIS Z 8505-1:2025（日本規格協会）、P1-74（令7.1）
- (74) 紺屋秀之、小林慶彦：主要機種の開発改良動向ー防除機他生育管理用機械、機械化農業（新農林社）、3276、P15-17（令6.7）
- (75) 紺屋秀之：トラクターのシートベルトリマインダー、農作業安全コラム（農機研）、<https://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/anzenweb/column/R6/9.html>（令6.9）
- (76) 紺屋秀之、川瀬芳順、塚本茂善、山崎裕文：農研機構のロボット・自動化農機検査の方法・基準が国際基準に掲載ー安全なロボット農機の国際的な普及促進に貢献ー、プレスリリース（農研機構）、https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/iam/165892.html（令6.10）
- (77) 紺屋秀之：乗用3連リールモアLM331の安全装備検査に準拠した安全装備確認、技術指導報告書（農機研）、1件（令6.4）
- (78) 紺屋秀之：乗用3連ロータリーモアUGM170の安全装備検査に準拠した安全装備確認、技術指導報告書（農機研）、1件（令6.6）
- (79) 紺屋秀之：オフセット作業機の安全性に関する技術指導、技術指導報告書（農機研）、1件（令6.7）
- (80) 紺屋秀之：農用トラクター（乗用型）の構造変更に関する技術指導、技術指導報告書（農機研）、1件（令6.8）
- (81) 紺屋秀之：無人乗用5連リールモアULM272の安全装備検査に準拠した安全装備確認、技術指導報告書（農機研）、1件（令6.10）
- (82) 紺屋秀之：農業機械安全装備検査2018年基準及び自動化農機検査基準に関する技術指導、技術指導報告書（農機研）、1件（令6.12）
- (83) 西川純：かくれ脱水症になっていませんか？、農作業安全コラム（農機研）、<https://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/anzenweb/column/R6/6.html>（令6.6）
- (84) 西川純：乳牛の後方2次元画像を用いたボディコンディションスコア簡易判定手法、技術の窓（日本政策金融公

- 庫)、No.2667 (令6.7)
- (85)西川純、川出哲生：乳牛後方2次元画像を用いたボディコンディションスコア推定技術、臨床獣医(緑書房)、2024年7月号、P24-27 (令6.7)
- (86)松本将大、深井智子：主要機種の開発改良動向—トラクター—自動化農機・ロボット農機検査の実施状況、機械化農業(新農林社)、3276、P8-11 (令6.7)
- (87)松本将大、紺屋秀之、深井智子、原田泰弘、Tran Thu Thuy：農耕作業用自動車等機能確認—農業用薬剤散布車、機能確認報告書(農機研)、1型式(1類別) (令6.5)
- (88)松本将大、紺屋秀之、深井智子：農用トラクター(乗用型)の安全装備に関する技術指導、技術指導報告書(農機研)、1件(令6.6)
- (89)松本将大、紺屋秀之：田植機の安全装備に関する技術指導、技術指導報告書(農機研)、1件(令6.9)
- (90)松本将大、紺屋秀之：農耕トラクタ(フェント F728VARIO)の最高速度試験、急制動試験、駐車制動能力試験(1/5勾配確認)、騒音試験(定常騒音/近接騒音/警音器)、最大安定傾斜角度、重量測定、技術指導報告書(農機研)、1件(令6.9)
- (91)田中正浩：アシストスーツ、ニューカントリー(北海道協同組合通信社)、852、P64-65 (令7.3)
- (92)小林慶彦、紺屋秀之：農用トラクター(歩行型)の安全装備に関する技術指導、技術指導報告書(農機研)、1件(令6.4)
- (93)小林慶彦、深井智子、紺屋秀之、松本将大、原田泰弘、Tran Thu Thuy、大根田一馬：自動化農機検査—農用トラクター(乗用型)、田植機、コンバイン(自脱型)、コンバイン(普通型)、野菜移植機、安全性検査結果報告書(農機研)、38型式、3型式、3型式、3型式、1型式(令6.4-令6.12)
- (94)小林慶彦、紺屋秀之、松本将大、深井智子、原田泰弘、Tran Thu Thuy：農耕作業用自動車等機能確認—農耕トラクタ、機能確認報告書(農機研)、3型式(5類別) (令6.4-令6.8)
- (95)小林慶彦、紺屋秀之、深井智子：農業機械安全装備検査2018年基準及び自動化農機検査基準に関する技術指導、技術指導報告書(農機研)、1件(令7.2)
- (96)向霄涵：第22回国際人間工学学会に参加して、農作業安全コラム(農機研)、<https://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/anzenweb/column/R7/3.html> (令7.3)

[5] 講師・講演

- (1) 臼井善彦：果樹におけるスマート農業機械の開発状況について、令和6年度北信地域スマート農業機械(果樹)検討会(北信農業農村支援セ、長野県農業共済組合北信支所)、(令6.8)
- (2) 野田崇啓：施設園芸分野における営農支援アプリの現状と動向、令和6年度事業アグリテック栽培技術発信拠点事業Working Team(埼玉県)(令6.4)
- (3) 野田崇啓：農業機械作業のデータ共有をめざした標準化の取り組み、地域と大学—本庄PF研究会の協働学習活動(最終回)(本庄精密農業研究会)(令6.7)
- (4) 野田崇啓：農機API共通化の活動と成果、ブラジル国アグリフードチェーンにおけるイノベーション・エコシステム及び持続的可能性強化のための精密・デジタル農業共創プロジェクト講義(JICA)(令6.9)
- (5) 野田崇啓：農機OpenAPI仕様、令和6年度埼玉農技セと農機研の情報交換会(令6.9)
- (6) 志藤博克：農業安全推進の背景・目的と概要、農作業事故を防ぐためには、令和6年度農作業安全研修「農作業安全に関する指導者育成研修(オンラインコース)Ⅰ」(農林水産研修所つくば館)(令6.5)
- (7) 志藤博克：農作業安全と普及指導員の役割、A02-1普及指導員研修(農林水産研修所つくば館)(令6.6)
- (8) 志藤博克：飼養管理作業中に起こる事故とその対策、令和6年度ぐんまの和牛研修会(群馬県)(令6.6)
- (9) 志藤博克：農作業安全について、令和6年度新任者研修Ⅰ・新任者育成型研修(島根県)(令6.6)
- (10) 志藤博克：農業安全推進の背景・目的と概要、農作業事故を防ぐためには、令和6年度農作業安全研修「農作業安全に関する指導者育成研修(オンラインコース)Ⅱ」(農林水産研修所つくば館)(令6.6)
- (11) 志藤博克：農作業安全と普及指導員の役割、A01-1普及指導員研修Ⅰ(農林水産研修所つくば館)(令6.6)
- (12) 志藤博克：安全な機械作業のために、令和6年度岡山県コントラクター協議会研修会(岡山県畜産協会)(令6.7)

- (13) 志藤博克：農作業安全と普及指導員の役割、A04-2新任普及指導員研修Ⅱ（農林水産研修所つくば館）（令6.7）
- (14) 志藤博克：農作業安全と普及指導員の役割、A02-2普及指導員研修（農林水産研修所つくば館）（令6.7）
- (15) 志藤博克：農業安全推進の背景・目的と概要、農作業事故を防ぐためには、令和6年度農作業安全研修「農作業安全に関する指導者育成研修（オンラインコース）Ⅲ」（農林水産研修所つくば館）（令6.7）
- (16) 志藤博克：畜産用機械における農作業事故と安全対策について、令和6年度五島地域肉用牛大学（長崎県五島振興局）（令6.8）
- (17) 志藤博克：農業安全推進の背景・目的と概要、農作業事故を防ぐためには、令和6年度農作業安全研修「農作業安全に関する指導者育成研修（オンラインコース）Ⅳ」（農林水産研修所つくば館）（令6.8）
- (18) 志藤博克：農作業安全と普及指導員の役割、A01-2普及指導員研修（農林水産研修所つくば館）（令6.9）
- (19) 志藤博克：農作業安全と普及指導員の役割、A01-3普及指導員研修（農林水産研修所つくば館）（令6.10）
- (20) 志藤博克：酪農ヘルパーが知っておくべき作業安全、令和6年度中堅酪農ヘルパー指導力向上研修（酪農ヘルパー全国協会）（令6.10）
- (21) 志藤博克：酪農畜産の農作業安全対策について、畜産技術研修会（愛媛県）（令6.10）
- (22) 志藤博克：農業安全推進の背景・目的と概要、農作業事故を防ぐためには、令和6年度農作業安全研修「農作業安全に関する指導者育成研修（オンラインコース）Ⅴ」（農林水産研修所つくば館）（令6.10）
- (23) 志藤博克：農作業安全に対する意識啓発と対話型研修の進め方について、酪農畜産の作業で事故に遭わないために、令和6年度技術・経営高度化研修（畜産）（徳島農林水産総技支援セ）（令6.10）
- (24) 志藤博克：酪農現場における農作業事故の実態と対策、令和6年度北海道酪農ヘルパー研修会（北海道酪農ヘルパー事業推進協議会）（令6.11）
- (25) 志藤博克：農業安全推進の背景・目的と概要、農作業事故を防ぐためには、令和6年度農作業安全研修「農作業安全に関する指導者育成研修（オンラインコース）Ⅵ」（農林水産研修所つくば館）（令6.11）
- (26) 志藤博克：畜産における農作業事故の事例とその対策、令和6年度オホーツク地区農作業安全研修会（畜産）（オホーツク地区農作業安全推進本部）（令6.11）
- (27) 志藤博克：自給飼料生産用機械の最新動向、中央畜産技術研修会（酪農）（農水省）（令6.11）
- (28) 志藤博克：酪農畜産現場における労働安全について、畜産技術研修会（岩手畜産技連）（令6.11）
- (29) 志藤博克：農作業安全と普及指導員の役割、令和6年度GAP研修（ぎふ清流GAP・労働安全）（岐阜県）（令6.11）
- (30) 志藤博克：営農を続けるために必要なこと、令和6年度安足地区農業者懇談会活動発表情報交換会（栃木県）（令6.12）
- (31) 志藤博克：農業安全推進の背景・目的と概要、農作業事故を防ぐためには、令和6年度農作業安全研修「農作業安全に関する指導者育成研修（オンラインコース）Ⅶ」（農林水産研修所つくば館）（令6.12）
- (32) 志藤博克：持続的な営農にとって大事なこと、令和6年度春日部地区青年農業者研究大会（埼玉県）（令7.1）
- (33) 志藤博克：酪農ヘルパーが知っておくべき作業安全、令和6年度中堅酪農ヘルパー指導力向上研修（酪農ヘルパー全国協会）（令7.1）
- (34) 志藤博克：持続的な経営を目指すために一番大事なこと、冬期営農講座（新得町酪農振興会・新得町営農対策協議会）（令7.2）
- (35) 山崎裕文：近年の北海道における農作業事故事例について、令和6年度第2回実行委員会（北海道農作業安全推進本部）（令6.8）
- (36) 農作業における安全について考えよう、令和6年度農業機械実演展示会・講演会（埼玉県農業機械化協会）（令6.12）
- (37) 山崎裕文、積栄：農作業事故を防ぐための考え方と動向－農業機械に関する制度の動き、令和6年度農作業安全に関する研修会（大分県集落営農法人会）（令7.3）
- (38) 八谷満：農業生産の効率化に資するスマート技術の紹介、（岐阜聖徳大学）（令6.8）
- (39) 八谷満：土地利用型農業におけるスマート農業技術の展開、令和6年度スマート農業研修Ⅰ（農林水産研修所）（令6.10）
- (40) 八谷満：土地利用型農業におけるスマート農業技術の展開、（霞ヶ浦農業用水推進協議会）（令6.11）
- (41) 八谷満：土地利用型農業におけるスマート農業技術の展開、（秋田県立大学）（令6.11）

- (42) 八谷満：生産力向上と持続性の両立を実現する、ロボット等を活用したスマート農業、(新潟市農業委員会北区部会) (令6.12)
- (43) 八谷満：ロボット等を活用したスマート農業、オンライン一般公開特別講座(農研機構) (令6.12)
- (44) 八谷満：『ほ場間移動を含む，“遠隔監視”型無人自動走行システム』の社会実装化に向けて、ロボット安全事業検討委員会(日農機協) (令7.1)
- (45) 下元耕太：施設園芸果菜類を対象とした着果モニタリングシステムの開発、植物工場研究会 (令6.6)
- (46) 吉田隆延：農薬の施用技術、第102回植物防疫研修会(日植防) (令6.10)
- (47) 吉田隆延：両正条田植えと直交除草を利用した高能率除草技術について、相双自然栽培懇談会(福島相双復興推進機構) (令6.10)
- (48) 吉田隆延：農薬の施用技術、第103回植物防疫研修会(日植防) (令7.2)
- (49) 青木循：高能率キャベツ収穫機、令和6年度第2回中国四国地域産地向けセミナー(中国四国農政局、西農研) (令6.11)
- (50) 坪田将吾：ドローン等を用いたイチゴの生体観測技術、(株)ヤンマーアグリジャパン・農機研技術交流会 (令6.12)
- (51) 関隼人：NIR-HSIによる白イチゴの糖度分布可視化、第55回近赤外講習会(中・上級コース)(食品研) (令6.11)
- (52) 積栄：事例から見た「生活と経営を支える」事故防止策、JAしれとこ斜里青年部学習会 (令6.4)
- (53) 積栄、紺屋朋子、山崎裕文、梅野覚：指導現場における「対話型農作業安全研修」の効果的な実施方法と「農作業事故体験VR」の活用方法、令和6年度農作業安全指導者向け研修会(青森県) (令6.5)
- (54) 積栄：農作業事故の要因と対策／農作業事故を防ぐためには、令和6年度農作業安全研修「農作業安全に関する指導者育成研修(オンラインコース)Ⅰ」(農林水産研修所つくば館) (令6.5)
- (55) 積栄、紺屋朋子、山崎裕文：農作業安全対策にかかる「対話型農作業安全研修」の進め方と「農作業事故体験VR」の活用方法、令和6年度農作業安全対策推進研修会(鹿児島県) (令6.5)
- (56) 積栄、紺屋朋子、梅野覚：事例から見た「生活と経営を支える」事故防止策、農作業安全勉強会(JAオホーツク網走青年部・女性部) (令6.6)
- (57) 積栄：実効的な農作業安全の考え方とこれに基づく熱中症事故防止、令和6年度神奈川県農作業安全研修会 (令6.6)
- (58) 積栄：これからの経営と生活を支える農作業安全、令和6年度北見地区新規就農者交流研修会(JAきたみらい) (令6.6)
- (59) 積栄、皆川啓子(農水省)：対話型研修について／対話型研修に係る受講体験の注意点／対話型研修に係る受講体験／対話型研修の実施のポイント、令和6年度農作業安全研修「安全指導者スキルアップ研修対話型研修実施手法習得コース(オンライン)Ⅰ」(農林水産研修所つくば館) (令6.6)
- (60) 積栄、紺屋朋子、梅野覚：農作業事故の発生要因と事故調査の進め方、令和6年度農作業安全・農機具盗難防止リーダー研修会(鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会) (令6.7)
- (61) 積栄：近年の北海道内の農作業事故事例と「経営を守る」安全対策を見つける方法、令和6年度農作業事故防止安全対策研修会(更別村農業経営・生産対策推進会議) (令6.7)
- (62) 積栄、紺屋朋子：近年の農作業事故事例と対策の考え方～安全を「自分ごと」にする取組に向けて～、令和6年度第1回農作業事故防止・農業機械化推進会議(群馬県) (令6.7)
- (63) 積栄：事故事例から見た「生活と経営を支える」農作業安全、ひたちなか・東海・那珂ほしほ協議会研修会 (令6.8)
- (64) 積栄：事故事例から見た「生活と経営を支える」農作業安全、栃木県令和6年度農作物等盗難防止及び農作業安全対策研修会 (令6.8)
- (65) 積栄：生産者に届く「効果的な」農作業安全対策、農作業安全研修会(岡山県) (令6.8)
- (66) 積栄：農業機械による農作業中の事故防止と安全な取扱方法、令和6年度農業機械安全取扱研修(岐阜県) (令6.8)
- (67) 積栄、山崎裕文：農作業事故の対話型研修会～なぜ安全対策か？何を改善するか？～、令和6年度農作業安全対話型研修会(大分県集落営農法人会、農事組合法人広瀬台営農組合) (令6.9)
- (68) 積栄：事故事例から見た機械作業での安全対策～安全な除草作業を「なかまとつくる」～、令和6年度東海村多

- 面的機能研修会（令6.10）
- (69) 積栄：事故事例から見た機械作業での安全対策～安全な除草作業を「なかまとつくる」～、令和6年度多面的機能支払交付金研修会(奈良県土地改良事業団体連合会)（令6.10）
- (70) 積栄：農作業事故の要因と対策／農作業事故を防ぐためには、令和6年度農作業安全研修「農作業安全に関する指導者育成研修（オンラインコース）Ⅴ」（農林水産研修所つくば館）（令6.10）
- (71) 積栄、梅野覚：実際の農作業事故事例から見た「経営と生活を支える」安全対策の考え方、令和6年度上北地域いきいきヤングファーマーゼミナール「農作業安全研修」（青森県上北地域県民局）（令6.11）
- (72) 積栄：北海道内の事故事例から見た「本当に効果がある」農作業安全対策、令和6年度フードバレーとかち人材育成事業特別講習「農業関連セミナー第2弾」（帯広市、帯畜大）（令6.11）
- (73) 積栄：畑における農作業事故対策と安全確認～本当に「経営と生活を守る」ための考え方～、令和6年度オホーツク地区農作業安全・応急救護研修会（耕種）（オホーツク地区農作業安全推進本部、オホーツク地域GAP導入推進会議）（令6.11）
- (74) 積栄：生産現場における効果的な安全確保の考え方、令和6年度道産ワイン品質強化研修事業北海道ワインアカデミー新規参入コース(ワインクラスター北海道)（令6.11）
- (75) 積栄、紺屋朋子、山崎裕文、梅野覚：農作業安全VR&対話型研修～「本当に効果のある」事故対策の考え方～、令和6年度第3回農作業安全研修会(山梨県)（令6.12）
- (76) 積栄：農作業事故の要因と対策／農作業事故を防ぐためには、令和6年度農作業安全研修「農作業安全に関する指導者育成研修（オンラインコース）Ⅶ」（農林水産研修所つくば館）（令6.12）
- (77) 積栄、皆川啓子（農水省）：対話型研修について／対話型研修に係る受講体験の注意点／対話型研修に係る受講体験／対話型研修の実施のポイント、令和6年度農作業安全研修「安全指導者スキルアップ研修対話型研修実施手法習得コース（オンライン）Ⅱ」（農林水産研修所つくば館）（令6.12）
- (78) 積栄：畑における農作業事故対策と安全確認、令和6年度営農技術懇談会(JAつべつ)（令6.12）
- (79) 積栄：事故事例から見た「生活と経営を支える」農作業安全、茨城県採種部会協議会農作業安全講習（令7.1）
- (80) 積栄：生産現場に届く新たな農作業安全活動～対話型研修と農作業事故体験VR～、新潟県農作業安全リーダー研修（令7.1）
- (81) 積栄：「生活と経営を支える」農作業安全の考え方、令和6年度高梁地域農業者のつどい(高梁市、晴れの国岡山農業協同組合ひまぐり統括本部、備北広域農業普及指導セ)（令7.2）
- (82) 積栄：農作業事故事例から見た「効果のある」安全対策の考え方、(テクノ・ホルティ園芸専門学校)（令7.2）
- (83) 積栄、紺屋朋子：草刈現場における安全作業事故体験VR&対話型研修会、草刈り現場における安全作業研修会((株)中村緑地建設)（令7.2）
- (84) 積栄：近年の農作業事故事例から見た「経営と生活を守る」安全対策の考え方、農作業安全研修会(JA 鹿追町)（令7.2）
- (85) 積栄：生活と経営を支える」農作業安全の考え方～本当に効果のある取組とは?～、農作業安全講習会(十和田市地域農業再生協議会)（令7.2）
- (86) 積栄：コミュニケーションで実現する「本当に安全な農作業」への取組、令和6年度農作業事故ゼロ運動推進研修会(北海道農作業安全運動推進本部、北海道)（令7.2）
- (87) 積栄：県内の農作業事故の要因と全国の現場レベルでの新たな取組、令和6年度青森県農作業安全推進協議会（令7.2）
- (88) 積栄：近年の農作業事故事例から見た「経営と生活を守る」安全対策の考え方、農作業安全研修会(JAめむろ)（令7.2）
- (89) 積栄：生産現場で始まっている「生活と経営のための農作業安全」、令和6年度農作業安全研修会(福岡県)（令7.2）
- (90) 積栄、山崎裕文：農作業事故を防ぐための考え方と動向―農業機械に関する制度の動き、令和6年度農作業安全に関する研修会(大分県集落営農法人会)（令7.3）
- (91) 積栄：「安全な仕事」づくりの大切さとその方法～「みんなで考え、実践する」をやってみよう～、農作業安全研修(木桶桃源ファーム)（令7.3）

- (92) 積栄：北海道内の農作業事故の実例から見た「効果的な」安全対策と最近の動向、農作業安全講習会(津別町農業法人会) (令7.3)
- (93) 紺屋朋子、梅野覚：農作業安全授業(農作業事故体験VR)、(都立園芸高) (令6.5)
- (94) 紺屋朋子：農作業事故の要因と対策、農作業事故を防ぐためには、令和6年度農作業安全研修「農作業安全に関する指導者育成研修(オンラインコース)Ⅲ」(農林水産研修所つくば館) (令6.7)
- (95) 紺屋朋子、積栄：近年の農作業事故事例と対策の考え方～農作業事故体験VR～、令和6年度第1回農作業事故防止・農業機械化推進会議(群馬県) (令6.7)
- (96) 紺屋朋子、梅野覚：地域に根差した農作業安全推進のための取組～埼玉県との連携事例のご紹介～、埼玉農技セと農機研の情報交換会 (令6.9)
- (97) 紺屋朋子：GAP概論、(岩手農大校) (令6.8)
- (98) 紺屋朋子、梅野覚：令和6年度農業機械実習Ⅲ VR(農産園芸)、(岩手農大校) (令6.8)
- (99) 梅野覚、紺屋朋子：令和6年度農業機械実習Ⅲ VR(畜産)、(岩手農大校) (令6.8)
- (100) 紺屋朋子：農作業事故の要因と対策、農作業事故を防ぐためには、令和6年度農作業安全研修「農作業安全に関する指導者育成研修(オンラインコース)Ⅳ」(農林水産研修所つくば館) (令6.8)
- (101) 紺屋朋子：農作業事故の要因と対策、農作業事故を防ぐためには、令和6年度農作業安全研修「農作業安全に関する指導者育成研修(オンラインコース)Ⅵ」(農林水産研修所つくば館) (令6.11)
- (102) 紺屋朋子：事故事例から見た機械作業での安全対策～安全な除草作業を「なかまどつくる」、令和6年度多面的機能支払交付金 機械の安全使用に関する研修会(茨城県ふるさと多面的機能推進協議会) (令6.11)
- (103) 紺屋朋子、積栄：VRを用いた農作業事故体験、新潟県農作業安全リーダー研修 (令7.1)
- (104) 紺屋朋子：事故事例から見た機械作業での安全対策～安全な除草作業を「なかまどつくる」、多面的機能の維持・発揮活動「第8回いせのつどい」(三重県伊勢農林水産事務所) (令7.2)
- (105) 梅野覚、富田宗樹：農作業事故の実態とVRを活用した農作業安全研修、(JA清里町青年部) (令6.6)
- (106) 梅野覚：農作業事故体験VRを活用した安全啓発の展開事例について、令和6年度第2回実行委員会(北海道農作業安全推進本部) (令6.8)
- (107) 梅野覚：VRによる農作業事故体験、農業機械部会セミナー(農業食料工学会) (令7.3)
- (108) 菊池豊：フィールドロボティクス及び農作業安全、(岩手大学) (令6.6)
- (109) 菊池豊、西川純：農業労働の評価法と分析手法、千葉県普及指導員等研修技術・経営高度化研修 (令6.7)
- (110) 菊池豊：作業者の身になって考える 安全で使いやすい機械作りのヒント、テーマセッション2024『農業機械の安全(設計製造)』(農業食料工学会北海道ブロック) (令6.9)

Ⅱ 収集・刊行・広報・会議・検討会

1. 収集

[1] 情報収集

1) 農業機械カタログ収集・分類・整理

農業機械に関わる開発・改良研究及び各種農業政策を推進する上で参考とするため、農業機械・施設の新機種に関する情報を国内外の会社から収集している。これまで分類・整理したカタログは、機械化情報館1階にて開架している。なお、収集については、平成29年度（2017年度）以降の作業を中止している。

2) 情報の提供

これまでに収集したカタログは、職員及び一般利用者の閲覧用に公開した。

[2] 図書資料

本年度に購入及び寄贈を受けて登録した図書資料は下記のとおりである。

区分	購入	寄贈
和書 図書類	10冊	61冊
雑誌類	44種	37種
洋書 図書類	0冊	3冊
雑誌類	8種	0種

累計（和書：17,629冊 洋書：2,692冊）

2. 刊行・広報

[1] 刊行物

令和6年度の刊行物は以下のとおりで、これらは、①資料交換、②関係研究機関との情報交換、③出資・寄附者に対する活動状況報告等のため配布した。

1) 年報（Web刊行）

令和5年度農業機械研究部門年報（令6.12）

2) 研究報告会（Web刊行）

令和6年度農業機械研究部門研究報告会（令7.3）

3) 事業報告（Web刊行）

令和5年度事業報告（令6.4）

4) 海外技術調査報告 (Web 刊行)

令和5年度海外技術調査報告 (令6.10)

[2] イベント・展示会

1) つくばサイエンスツアーバス 2024

開催日：令和6年7月20日(土)～8月25日(日)

会場：国立科学博物館筑波実験植物園 (茨城県つくば市)

主催：つくばサイエンスツアーオフィス、(一社)茨城県科学技術振興財団、つくば市、つくば観光コンベンション協会

内容：・落花生用自走式脱莢機のパネル展示

2) 施設園芸・植物工場展 (GPEC) 2024

開催日：令和6年7月24日(水)～26日(金)

会場：東京ビッグサイト (東京都江東区)

主催：(一社)日本施設園芸協会

内容：・農機 OpenAPI 仕様のパネル展示
・ドローンを活用するイチゴの生育観測手法の実機及びパネル展示
・施設園芸スマート化に向けた研究の紹介パネル展示

3) アグリビジネス創出フェア 2024

開催日：令和6年11月26日(火)～28日(木)

会場：東京ビッグサイト (東京都江東区)

主催：農林水産省

内容：・両正条疎植と直交除草による超省力除草技術のパネル展示
・両正条田植機の動画放映

4) 農研機構 冬のオンライン一般公開 2024

開催日：令和6年12月21日(土)

会場：インターネット開催

主催：農研機構

内容：・オンライン生配信【列島リレー 各研究所 紹介】

5) 令和6年度 農業機械研究部門一般公開

開催日：令和7年3月29日(土)

会場：農機研 (さいたま)

内容：・農機研業務紹介パネルの展示、DVDの放映
・農業機械の展示(トラクタ、コンバイン、田植機等)
・農業機械等の実演(傾斜台、自動運転田植機、小型自動追従走行台車、縄ない機等)
・スタンプラリー

来場者数：146名

[3] 見学案内

見学者に対して、当部門の研究開発業務及び検査業務等の概要を説明するとともに、ショールーム・資料館の案内を行った。

令和6年度の見学受付件数は国内106件、外国14件、合計120件であった。また見学者数は974名であり、うち海外からの見学者は143名であった。令和5年度と比べて生産者の見学者数は約15%増となったが、全体では8.5%減であった。ショールーム入場者数は前年度から微増し、新型コロナウイルス流行前の令和元年度実績の約65%まで回復した。

見学者には業務紹介動画や開発機の動画、要覧（農研機構及び農機研）等を用いて、概要説明を行った。

また、見学者の申込み時の希望に応じて、「開発実機」の見学や「農業機械の安全性検査」等の説明及び「農作業安全」に係る座学・実機を用いての講習等も可能な限り実施した。

なお、農業者等に対しては、農作業事故の体験、農業機械盗難及び農業機械に係るニーズについてのアンケートを業務説明の際に実施している。

表2-1 令和5年度見学者一覧

国内	見学者数	海外	見学者数
生産者	626(636)	アジア	103(103)
消費者	0(2)	北米	2(2)
青少年	12(12)	中南米	0(0)
マスコミ	0(1)	欧州	1(1)
行政担当者	27(31)	中東	0(0)
研究機関	121(142)	アフリカ	37(37)
民間	34(66)	オセアニア	0(0)
その他	11(14)		-
計	831(904)	計	143(143)
総計 974名（ショールーム入場者数：1,047名）			

注1. ()内はショールーム入場者数。

2. 集計項目区分は機関評価データに準ずる。

[4] 情報発信

1) プレスリリース

研究成果等の広報活動を強化する目的で、報道機関に向けてプレスリリースを行った。令和6年度のプレスリリースは次のとおりである。

表2-2 令和6年度プレスリリース一覧

発表日	プレスリリース内容
令6.4.17	(安全性検査) 令和5年度農業機械安全性検査合格機(第6次分)についてー基準をクリアした安全性の高い農業機械ー
令6.5.17	(安全性検査) 令和5年度農業機械安全性検査合格機(第7次分)についてー基準をクリアした安全性の高い農業機械ー
令6.6.25	(安全性検査) 令和5年度農業機械安全性検査合格機(第8次分)についてー基準をクリアした安全性の高い農業機械ー
令6.7.16	(研究成果) ドローンを活用するイチゴの生育観測手法を開発ー生長点の時系列観測により生育診断を高度化ー
令6.7.30	(お知らせ) 安全性検査のロボット農機検査の対象機種に「コンバイン」を新たに追加します
令6.8.7	(研究成果) メーカー間の垣根を越えたデータ連携の実証結果と最新の農機OpenAPI仕様書を公開ー農業者のデータ利活用の促進ー
令5.8.21	(安全性検査) 令和6年度農業機械安全性検査合格機(第1次分)についてー基準をクリアした安全性の高い農業機械ー
令6.9.18	(安全性検査) 令和5年度農業機械安全性検査合格機(第9次分)についてー基準をクリアした安全性の高い農業機械ー
令6.9.18	(安全性検査) 令和6年度農業機械安全性検査合格機(第2次分)についてー基準をクリアした安全性の高い農業機械ー
令6.9.30	(研究成果) 研修担当者向けマニュアル『農作業事故体験VRを活用した学習プログラムの手引き』を作成ーJA共済連と農研機構、双方の知見を活かし農作業安全啓発に向けた更なる取組みの強化ー(外部リンク:全国共済農業協同組合連合会)
令6.10.8	(研究成果) 農研機構のロボット・自動化農機検査の方法・基準が国際基準に掲載ー安全なロボット農機の国際的な普及促進に貢献ー
令6.10.16	(お知らせ) フランス国立農業・食料環境研究所(INRAE)との国際連携研究ラボ(International Associated Laboratory:IAL)設立について
令6.10.30	(安全性検査) 令和6年度農業機械安全性検査合格機(第3次分)についてー基準をクリアした安全性の高い農業機械ー
令6.11.13	(研究成果) 株式会社Agrihubと井関農機株式会社が、農機OpenAPIの初の商業利用を実現ー農業機械データと栽培管理データの一元管理で、農業DXを大きく前進ー(外部リンク:井関農機株式会社)
令6.11.18	(研究成果) 白イチゴの糖度を可視・近赤外光で“見える化”ー果皮の色によらない選別と熟度判定の技術確立に寄与ー(外部リンク:名古屋大学)
令6.12.18	(安全性検査) 令和6年度農業機械安全性検査合格機(第4次分)についてー基準をクリアした安全性の高い農業機械ー
令7.2.18	(安全性検査) 令和6年度農業機械安全性検査合格機(第5次分)の公表ー基準をクリアした安全性の高い農業機械ー
令7.3.28	(安全性検査) 農業機械安全性検査が新たな制度で再スタートー事故低減に向け検査基準を強化しつつ受検しやすさも向上ー

2) ホームページの運営

- (1) 農業機械研究部門農業機械化促進業務の掲載コンテンツを更新するとともに内容の拡充を図った。

農業機械技術クラスター：

<https://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/iam/cluster/>

農機API 共通化：

<https://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/iam/API/>

農業機械試験研究デジタルアーカイブス：

<https://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/iam/DGArchives/>

- (2) 安全検査部が運営する安全性検査合格機の検索システムを更新した。

安全性検査合格機一覧：

<https://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/iam/Test/>

- (3) システム安全工学研究領域が運営する「農作業安全情報センター」の掲載コンテンツを更新した。

農作業安全情報センター：

<https://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/anzenweb/kaizen/kaizen.html>

3 . 会 議 ・ 検 討 会

[1] 農業機械研究部門研究報告会

開 催 日：令和7年3月6日（木）

会 場：農業機械研究部門（さいたま） はなの木ホール

開催方法：対面とオンライン（Teams）の併催

参集範囲：農林水産省関係部局、都道府県関係部局、公立試験研究機関、大学、農業団体、農業者、農業機械関連企業、国立研究開発法人、報道機関 等

議 事：① 挨拶・情勢報告

- (1) 農業機械研究部門
- (2) 農林水産省大臣官房政策課技術政策室
- (3) 農林水産省農産局技術普及課

② 農業機械研究部門の研究概要報告

- (1) 機械化連携推進部
- (2) 安全検査部
- (3) 知能化農機研究領域
- (4) 無人化農作業研究領域
- (5) システム安全工学研究領域

③ トピックス報告

- (1) 令和7年度開始の新たな安全性検査制度
- (2) 両正条田植機と直交機械除草技術の開発動向

④ 個別研究報告

- (1) 籾殻燃焼装置を核とした CO2 ゼロエミッション化への取組
- (2) ドローンを活用するイチゴの生育観測手法
- (3) ロボット農機の安全性に関する研究・検査・国際標準化活動の紹介
- (4) アシストスーツに関する世界動向と評価・設計手法の開発

[2] 農業機械開発改良試験研究打合せ会議

開 催 日：令和7年3月7日（金）

会 場：農業機械研究部門（さいたま） はなの木ホール

開催方法：対面とオンライン（Teams）の併催

参集範囲：農林水産省関係部局、都道府県関係部局、公立試験研究機関、農研機構 等

議 事：① 研究課題報告

- (1) 都道府県からの報告
- (2) 農研機構からの報告

② 今後の開発要望について

※営農・作業技術試験研究推進会議の作業・情報技術部会との合同開催

[3] 営農・作業技術試験研究推進会議

1) 作業・情報技術部会若手研究会

開 催 日：令和6年11月7日（木）

会 場：農業機械研究部門（さいたま） はなの木ホール

参集範囲：農研機構内の作業・情報技術分野若手研究者及びその他の参加希望者

- 議 事：① 話題提供者からの報告及び意見交換
② その他報告事項

2) 作業・情報技術部会（作業・情報技術研究会）

開 催 日：令和7年3月7日（金）

会 場：農業機械研究部門（さいたま） はなの木ホール

開催方法：対面とオンライン（Teams）の併催

参集範囲：農林水産省関係部局、都道府県関係部局、公立試験研究機関、農研機構 等

- 議 事：① 研究課題報告
(1) 都道府県からの報告
(2) 農研機構からの報告
② 今後の開発要望について

※ 農業機械開発改良試験研究打合せ会議との合同開催。

[4] 情報・意見交換会

1) 埼玉県農業技術研究センターと農機研の情報交換会

開 催 日：令和6年9月20日（金）

会 場：農業機械研究部門（さいたま） はなの木ホール

参集範囲：埼玉県農業技術研究センター関係者、埼玉県農林部農業政策課関係者、農業機械研究部門関係者

- 議 事：① 農業機械研究部門の研究紹介
② 農業機械研究部門の開発機の見学
③ 埼玉県農業技術研究センターの研究紹介
④ 意見交換

2) 農作業事故詳細調査・分析アドバイザー会議

開 催 日：令和7年3月4日（火）

会 場：農業機械研究部門（さいたま） 基礎技術研究館4階会議室

参集範囲：農作業事故詳細調査・分析アドバイザー、農林水産省関係者、農業機械研究部門関係者

- 議 事：① 農作業事故調査・分析に基づく各研究課題における今年度の取組状況について
② 農業機械技術クラスターにおける農作業安全関連研究について
③ 次年度以降の研究推進の方向性について
④ その他

[5] 評価関係会議

1) 研究課題検討会及び中課題検討会

開 催 日：令和6年12月17日（火）～19日（木）

開催方法：対面とオンライン（Teams）の併催

会 場：農業機械研究部門（さいたま） はなの木ホール

出席者：農業機械研究部門職員、農研機構本部関係職員、農研機構内部研究所関係職員

議 事：各研究課題における令和6年度実績及び令和7年度計画の発表と検討

[6] 安全性検査業務関係会議

1) 農業機械安全性検査等説明会

- 開催日：令和6年4月24日（水）
会場：農業機械研究部門（さいたま） はなの木ホール
参集範囲：農業機械安全性検査関係者他
内容：① 令和6年度安全性検査等の申込み方法等
② ロボット・自動化農機検査の対象機種追加
③ 令和7年度から適用する安全装備検査の新基準
④ その他

[7] 農業機械技術クラスター関係会議

1) 農業機械技術クラスター総会

- 開催日：令和7年3月7日（金）
会場：農業機械研究部門（さいたま） はなの木ホール
開催方法：対面とオンライン（Teams）の併催
参集範囲：クラスター会員、農林水産省関係部局等
議事：① クラスター活動報告
(1) クラスター活動結果及び次年度活動方針報告
(2) 標準化・共通化推進委員会報告（農機APIに関する取組）
② クラスター事業令和6年度完了課題報告
(1) 雑穀類対応コンバインの開発
(2) 両正条田植機の開発
(3) かんしょの作付け拡大を支援する高能率収穫体系の開発
(4) ヤマトイモ収穫作業機械化体系の開発
③ 開発機の展示・説明

2) 農業機械技術検討委員会

- 開催日：令和7年1月15日（水）
会場：農業機械研究部門（さいたま） 本館第一会議室
開催方法：対面とオンライン（Teams）の併催
参集範囲：農業機械技術検討委員会委員（大学、関係団体等）、農業機械研究部門、実施課題研究代表者等
議事：① 令和6年度活動報告
② 令和6年度クラスター事業実施課題の評価
③ 令和7年度活動計画（案）

Ⅲ 総 務

1. 組 織 図

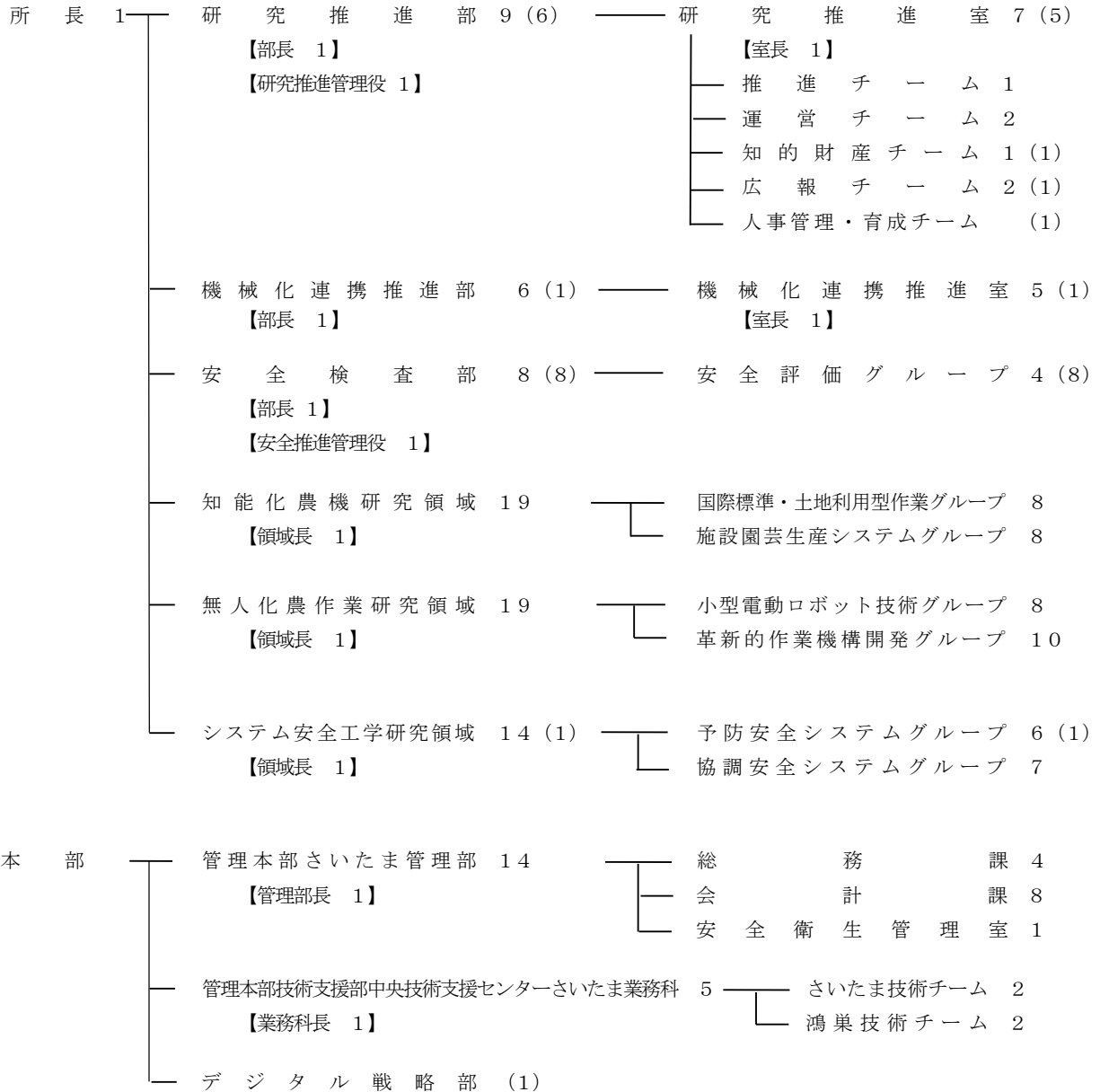
(令7.3.31現在)

理事長 (機構本部)

副理事長 (機構本部)

担当理事 (機構本部)

担当監事 (機構本部)



※括弧内は併任者の数

2. 会 計

令和6年度の収入・支出予算額及び決算額は表3-1のとおりである。

表3-1 令和6年度（2024年度）収入・支出予算額及び決算額

さいたま（機械勘定）		* 機械勘定における決算報告書	
区 分		予算額（千円）	決算額（千円）
収 入	前年度からの繰越金	667,254	667,254
	うち官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）	6,420	6,420
	うち研究開発とSociety5.0との橋渡しプログラム（BRIDGE）	1,810	1,810
	運営費交付金	1,681,757	1,681,757
	うち研究開発とSociety5.0との橋渡しプログラム（BRIDGE）	118,000	118,000
	施設整備費補助金	146,499	148,678
	事業補助金	—	14,603
	受託収入	4,319	37,107
	諸収入	47,299	71,395
	寄附金収入	—	2,500
	計		2,547,128
支 出	業務経費	1,259,617	905,416
	うち官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）	6,420	6,420
	うち研究開発とSociety5.0との橋渡しプログラム（BRIDGE）	119,810	106,455
	施設整備費	146,499	148,678
	事業補助金	—	14,603
	受託経費	4,319	37,107
	一般管理費	69,005	67,385
	寄附金	—	3,516
	人件費	1,067,687	777,560
	翌年度への繰越金	—	666,797
計		2,547,128	2,621,064

つくば（農研勘定）

* 農研勘定における決算報告書の内数

※千円未満を四捨五入しているため、合計とは端数において合致しないものがある。

3. 土地・建物

(令 7. 3. 31 現在)

1) 土地 (単位：m²)

区 分	さいたま	鴻巣	計
庁舎等敷地	149,052	18,359	167,411
ほ 場	35,235	141,039	176,274
計	184,287	159,398	343,685

2) 建物 (単位：m²)

区 分	さいたま	鴻巣	計
事 業 関 係	18,686	3,239	21,925
	25,411	3,347	28,758
宿 舎 関 係	527	—	527
	965	—	965
計	19,213	3,239	22,452
	26,376	3,347	29,723

(注)：上段は建築面積、下段は延床面積

4. 表 彰

令和 6 年度に表彰された者はいなかった。

IV 農業機械化促進業務勘定 出資・寄附者

1. 出資者

[1] 食料食品業界

東京都

全国穀用紙袋協会
全国醤油工業協同組合連合会

[2] 農業界

東京都

全国農業協同組合連合会
全国酪農業協同組合連合会

[3] 農業機械業界

北海道

株式会社IHIスター
株式会社土谷製作所
北農機株式会社
社団法人北海道農業機械工業会
本田農機工業株式会社

青森県

株式会社ササキコーポレーション

山形県

株式会社斎藤農機製作所
株式会社山本製作所

群馬県

澤藤電機株式会社
株式会社野沢製作所
富士機械株式会社

埼玉県

池野産業株式会社
金子農機株式会社
株式会社小松製作所
株式会社吉井製作所

東京都

株式会社青木製作所
井関農機株式会社
井上農具製作所

有限会社岩田兄弟工場
片倉チッカリン株式会社
株式会社ケツト科学研究所
小林無線工業株式会社
株式会社小松製作所
佐野車輛株式会社
三栄鋼業株式会社
トーハツ株式会社
株式会社日本製鋼所
花岡車輛株式会社
ビクターオート株式会社
株式会社SUBARU
ミノワ農機株式会社
株式会社やまびこ

神奈川県

日産車体株式会社

新潟県

大島農機株式会社
白勢農機株式会社
丸与農機株式会社
吉徳農機株式会社

富山県

株式会社高野製作所
マルマス機械株式会社

石川県

古川農機具工業株式会社
株式会社本多製作所

長野県

株式会社IHIアグリテック
オリオン機械株式会社
株式会社デリカ
株式会社ショーシン
松山株式会社
株式会社柳原製作所

岐阜県

安田工業株式会社

静岡県

池上工業株式会社
カワサキ機工株式会社
有限会社佐野製作所
望月噴霧機製作所
ヤマハ発動機株式会社

愛知県

株式会社国益社
名古屋工範株式会社
日本車輛製造株式会社

京都府

ナンモト株式会社

大阪府

有光工業株式会社
株式会社クボタ
株式会社福留製作所

兵庫県

河部農具株式会社
堺農機具株式会社
三徳機械株式会社
柴田工業株式会社
多木化学株式会社
深沢機械工業株式会社

鳥取県

太昭農工機株式会社

岡山県

株式会社ニッカリ
マカベ株式会社
みのる産業株式会社
ヤンマー農機製造株式会社

広島県

株式会社濱田製作所

山口県

水上金属工業株式会社

香川県

上森農機株式会社
株式会社井関松山製造所

福岡県

サンライズキャリ株式会社
株式会社スリーエヌ技術コンサルタント

鹿児島県

有限会社大川農機製作所
野田興業株式会社
文明農機株式会社

[4] 都道府県

千葉県
福井県
滋賀県
愛媛県

愛媛県

株式会社アテックス
兵庫県
奈良県

[5] 個人

個人3名

注1) 出資者は令和7年3月31日時点で出資原簿に登録されている者

2. 寄附者

[1] 一般財界

岩手県

岩手県化製油脂協同組合

千葉県

朋友物産株式会社

東京都

青木あすなろ建設株式会社
株式会社安藤・間
アンリツ株式会社
株式会社荏原製作所
塩安肥料協会
沖電気工業株式会社
小田急電鉄株式会社
海外貨物検査株式会社
佐藤工業株式会社
三洋工業株式会社
JFE技研株式会社
シンフォニアテクノロジー株式会社
新日鐵住金株式会社
住友信託銀行株式会社
社団法人生命保険協会
株式会社誠和
石油連盟
社団法人セメント協会
社団法人全国第二地方銀行協会
社団法人全国地方銀行協会
株式会社東光高岳
電気事業連合会
株式会社電業社機械製作所

デンセイ・ラムダ株式会社
東京急行電鉄株式会社
株式会社東芝
東証正会員協会
東洋エフ・シー・シー株式会社
特殊製鋼株式会社
トピー工業株式会社
西松建設株式会社
株式会社ニチレイ
日新製鋼株式会社
株式会社NIPPO コーポレーション
日本化学繊維協会
社団法人日本自動車工業会
社団法人日本自動車タイヤ協会
日本食糧倉庫株式会社
日本石灰窒素工業会
社団法人日本損害保険協会
日本通運株式会社
日本電気株式会社
日本肥料アンモニア協会
農薬工業会
株式会社日立製作所
富士通株式会社
平成フォーム株式会社
マイクロシステム株式会社
前田建設工業株式会社
株式会社みずほ銀行
株式会社三井住友銀行
三菱電機株式会社

株式会社三菱東京UFJ銀行
三菱UFJ信託銀行株式会社
株式会社明電舎
熔成燐肥協会
株式会社りそな銀行

神奈川県

飛鳥建設株式会社
三菱プレジジョン株式会社

愛知県

大同特殊鋼株式会社
名古屋鉄道株式会社
パナソニック環境エンジニアリング株式会社
フルタ電機株式会社

大阪府

株式会社大林組
株式会社クボタ
株式会社ダイヘン
株式会社西島製作所
日本紡績協会
パナソニック株式会社
株式会社淀川製鋼所

兵庫県

株式会社神戸製鋼所
JFEスチール株式会社

福岡県

株式会社安川電気

[2] 食料食品業界

東京都

味の素株式会社
カゴメ株式会社
財団法人甘味資源振興会
株式会社ケツト科学研究所
飼料小麦専門工学会
製粉協会
社団法人全国食糧保管協会
全国精麦工業協同組合連合会
全国主食集荷協同組合連合会
全国米穀販売事業共済協同組合
全国味噌工業協同組合連合会
全日本菓子協会
日本うま味調味料協会
財団法人日本穀物検定協会
日本酒造組合中央会
社団法人日本植物油協会
社団法人日本ぶどう糖工業会
日本麦類研究会
ビール酒造組合
社団法人米穀安定供給確保支援機構
輸入食糧協議会

山口県

日本水産物輸入協議会

[3] 農業界

北海道

全国共済農業協同組合連合会北海道本部
ホクレン農業協同組合連合会
北海道信用農業協同組合連合会

青森県

青森県信用農業協同組合連合会
全国農業協同組合連合会青森県本部

岩手県

岩手県信用農業協同組合連合会
全国農業協同組合連合会岩手県本部

宮城県

全国農業協同組合連合会宮城県本部
宮城県信用農業協同組合連合会

秋田県

秋田県信用農業協同組合連合会
全国農業協同組合連合会秋田県本部

山形県

全国農業協同組合連合会山形県本部

全国農業協同組合連合会山形県本部(庄内)
山形県信用農業協同組合連合会

福島県

全国農業協同組合連合会福島県本部
福島県信用農業協同組合連合会

茨城県

茨城県信用農業協同組合連合会
全国農業協同組合連合会茨城県本部

栃木県

全国農業協同組合連合会栃木県本部
栃木県信用農業協同組合連合会

群馬県

群馬県信用農業協同組合連合会
全国農業協同組合連合会群馬県本部

埼玉県

埼玉県信用農業協同組合連合会
全国農業協同組合連合会埼玉県本部

千葉県

全国農業協同組合連合会千葉県本部

東京都

協同組合日本飼料工業会
全国共済農業協同組合連合会全国本部
全国農業会議所
全国農業共済協会
全国農業協同組合連合会
全国農業協同組合連合会東京都本部
全国養蚕農業協同組合連合会
東京都信用農業協同組合連合会
社団法人日本農業機械工業会
財団法人日本農業研究所
日本農民新聞社
農林中央金庫

神奈川県

神奈川県信用農業協同組合連合会
全国農業協同組合連合会神奈川県本部

新潟県

全国農業協同組合連合会新潟県本部
新潟県信用農業協同組合連合会

富山県

全国農業協同組合連合会富山県本部
富山県信用農業協同組合連合会

石川県

全国農業協同組合連合会石川県本部

福井県

福井県経済農業協同組合連合会
福井県信用農業協同組合連合会

山梨県

全国農業協同組合連合会山梨県本部

長野県

全国農業協同組合連合会長野県本部
長野県信用農業協同組合連合会

岐阜県

岐阜県信用農業協同組合連合会
全国農業協同組合連合会岐阜県本部

静岡県

静岡県経済農業協同組合連合会
静岡県信用農業協同組合連合会

愛知県

愛知県経済農業協同組合連合会
愛知県信用農業協同組合連合会

三重県

全国農業協同組合連合会三重県本部
三重県信用農業協同組合連合会

滋賀県

滋賀県信用農業協同組合連合会
全国農業協同組合連合会滋賀県本部

京都府

京都府信用農業協同組合連合会
全国農業協同組合連合会京都府本部

大阪府

大阪府信用農業協同組合連合会
全国農業協同組合連合会大阪府本部

兵庫県

全国農業協同組合連合会兵庫県本部
兵庫県信用農業協同組合連合会

奈良県

奈良県農業協同組合

和歌山県

和歌山県農業協同組合連合会
和歌山県信用農業協同組合連合会

鳥取県

全国農業協同組合連合会鳥取県本部
鳥取県信用農業協同組合連合会

島根県

島根県信用農業協同組合連合会
全国農業協同組合連合会島根県本部

岡山県

岡山県信用農業協同組合連合会
全国農業協同組合連合会岡山県本部

広島県

全国農業協同組合連合会広島県本部
広島県信用農業協同組合連合会

山口県

全国農業協同組合連合会山口県本部
山口県信用農業協同組合連合会

徳島県

全国農業協同組合連合会徳島県本部
徳島県信用農業協同組合連合会

香川県

香川県信用農業協同組合連合会
香川県農業協同組合

愛媛県

愛媛県信用農業協同組合連合会
全国農業協同組合連合会愛媛県本部

高知県

高知県信用農業協同組合連合会
全国農業協同組合連合会高知県本部

福岡県

全国農業協同組合連合会福岡県本部
福岡県信用農業協同組合連合会

佐賀県

佐賀県信用農業協同組合連合会
佐賀県農業協同組合

長崎県

全国農業協同組合連合会長崎県本部
長崎県信用農業協同組合連合会

熊本県

熊本県経済農業協同組合連合会
熊本県信用農業協同組合連合会

大分県

大分県信用農業協同組合連合会
全国農業協同組合連合会大分県本部

宮崎県

宮崎県経済農業協同組合連合会

鹿児島県

鹿児島県経済農業協同組合連合会
鹿児島県信用農業協同組合連合会

[4] 農業機械業界

北海道

エム・エス・ケー農業機械株式会社
有限会社川崎鉄鋼所
日本ニューホランド株式会社

岩手県

有限会社濱田製作所
和同産業株式会社

宮城県

東北ゴム株式会社

山形県

株式会社カルイ
株式会社山本製作所

茨城県

晃和物産株式会社
株式会社タイショー

栃木県

株式会社小野農機製作所

群馬県

株式会社岡田製作所
澤藤電機株式会社
株式会社タイガーカワシマ
有限会社デー・エヌ・エス・テクノ・セールス

埼玉県

イイノ商事株式会社
株式会社片山製作所
金子農機株式会社
株式会社木屋製作所
株式会社田原製作所
デーゼル機器株式会社
株式会社中村製作所
日環エンジニアリング株式会社
マメトラ農機株式会社

千葉県

大機ゴム工業株式会社
株式会社日エタナカエンジニアリング

東京都

株式会社 I H I シバウラ
株式会社青木製作所
有限会社牛田噴霧機工場
株式会社ウチナミ
株式会社エルタ
株式会社小松製作所
合名会社坂井鉄工所

株式会社産機エンジニアリング
株式会社サンコーシヤ
株式会社重松製作所
ジャパングリエート株式会社
全国農機商業協同組合連合会
東急くろがね工業株式会社
東洋通信機株式会社
日南産業株式会社
日産エンジニアリング株式会社
株式会社日本製鋼所
社団法人日本農業機械化協会
日本ピストンリング株式会社
本田技研工業株式会社
株式会社丸山製作所
瑞穂資材株式会社
三菱重工業株式会社
株式会社ユーシン
株式会社リケン

神奈川県

株式会社シクタニ
横浜植木株式会社

新潟県

株式会社伊藤機械製作所
大島農機株式会社
株式会社佐藤製作所
株式会社シノミヤ
株式会社野水機械製作所
株式会社富士トレーラー製作所
合資会社宮本製作所
吉徳農機株式会社

富山県

金岡工業株式会社
マルマス機械株式会社

石川県

富士フルパー発動機株式会社
北国農機株式会社

長野県

カンリウ工業株式会社
株式会社細川製作所
松山株式会社

静岡県

旭化成クリーン化学株式会社
株式会社大川原製作所

国産電機株式会社
静岡シブヤ精機株式会社
静岡製機株式会社
新興和産業株式会社
ニューデルタ工業株式会社

愛知県

愛知機械工業株式会社
株式会社大竹製作所
株式会社共栄社
株式会社澤久
鋤柄農機株式会社
株式会社デンソー
新興商事株式会社
株式会社ニッコー
日本車輛製造株式会社
日本特殊陶業株式会社
株式会社マキタ
株式会社吉田鉄工所

三重県

株式会社タカキタ
日本ホーク株式会社
山中農機店

京都府

株式会社マルナカ製作所

大阪府

有光工業株式会社
オリンピック工業株式会社
株式会社加地鉄工所
クラレプラスチック株式会社
株式会社小宮製作所
田中産業株式会社
ダイキン工業株式会社
株式会社日東製作所
初田工業株式会社
株式会社日立建機ティエラ
ヤンマー株式会社
ヤンマーディーゼル株式会社

兵庫県

株式会社小川農具製作所
三徳機械株式会社

山陽鋼業株式会社
新明和工業株式会社
多木農工具株式会社
東洋プレス工業株式会社
内外ゴム株式会社
バンドー化学株式会社
深沢機械工業株式会社
株式会社フジイ
株式会社メイケン
ユウキ産業株式会社
八鹿鉄工株式会社

奈良県

文明精機工業株式会社

島根県

三菱農機株式会社

岡山県

東岡山高周波工業株式会社
協同精工株式会社
小橋工業株式会社
株式会社スピー
株式会社水内ゴム
みのる産業株式会社
ヤンマー農機製造株式会社

広島県

株式会社サタケ
豊国工業株式会社

山口県

株式会社長府製作所

香川県

上森農機株式会社
大同ゴム株式会社
野田産業株式会社

高知県

株式会社スズエ製作所
株式会社太陽

福岡県

株式会社ニチボー
松本建設株式会社

北海道
青森県
岩手県
宮城県
秋田県
福島県
茨城県
栃木県
群馬県
埼玉県
神奈川県
新潟県
長岡市
静岡県
富山県
石川県
福井県
山梨県
長野県
岐阜県
愛知県
三重県
大阪府
和歌山県
鳥取県
島根県
岡山県
広島県
山口県
徳島県
香川県
高知県
福岡県
熊本県
鹿児島県
沖縄県

[6] 個人

個人 2名

[5] 都道府県他

注 2) 寄附者は平成 15 年 10 月 1 日以前に寄附者等台帳に登録されていた者

V 主要諸規程

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構業務方法書（抜粋）

目次

- 第1章 総則（第1条－第3条）
 - 第2章 業務の方法に関する事項
 - 第1節 中長期計画（第4条）
 - 第2節 農業・食品産業技術研究等業務
 - 第1款 試験研究及び調査等（第5条－第12条）－略－
 - 第2款 種苗管理業務（第13条－第18条）－略－
 - 第3節 基礎的研究業務（第19条－第22条）－略－
 - 第4節 農業機械関連業務（第23条－第33条）
 - 第5節 民間研究に係る特例業務（第34条）－略－
 - 第6節 共通事項（第35条－第40条）
 - 第3章 業務委託の基準（第41条－第42条）
 - 第4章 競争入札その他契約に関する基本的事項（第43条－第45条）
 - 第5章 内部統制システムの整備に関する事項（第46条－第62条）－略－
 - 第6章 雑則（第63条－第64条）
- 附則

第1章 総則

（目的）

第1条 この業務方法書は、独立行政法人通則法（平成11年法律第103号。以下「通則法」という。）第25条の2第4項並びに第28条第1項及び第2項並びに国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の業務運営に関する省令（平成15年財務省・農林水産省令第2号）第1条（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の業務運営及び人事管理に関する省令及び国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の基礎的研究業務及び民間研究促進業務に係る財務及び会計に関する省令の一部を改正する省令（平成28年財務省・農林水産省令第1号）附則第2条の規定により読み替えて適用する場合を含む。）の規定に基づき、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構法（平成11年法律第192号。以下「研究機構法」という。）第14条及び独立行政法人に係る改革を推進するための農林水産省関係法律の整備に関する法律（平成27年法律第70号。以下「整備法」という。）附則第6条第1項に規定する国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（以下「研究機構」という。）の行う業務の方法について基本的な事項を定め、もってその業務の適正な運営に資することを目的とする。

（業務運営の基本的方針）

第2条 研究機構は、研究機構法に定められたその設置の目的及び業務内容の重要性にかんがみ、関係機関と緊密な連携を図り、その業務の適正かつ効率的な運営を期するものとする。

(定義)

第3条 この業務方法書における用語の意義は、研究機構法、種苗法（平成10年法律第83号）及び遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律（平成15年法律第97号）に定めるところによる。

第2章 業務の方法に関する事項

第1節 中長期計画

(中長期計画)

第4条 研究機構は、研究機構法第14条に規定する業務を主務大臣の認可を受けた中長期計画に従って実施するものとする。

第4節 農業機械関連業務

(試験研究及び調査)

第23条 研究機構は、農業機械の高度化に資するために農機具及び農機具を使用した農作業を効率的に行うのに必要な性状を有する農業資材の開発に関する試験研究及び調査を行う。

2 研究機構は、前項の試験研究及び調査の実施に当たっては、研究機構が有する各種の研究資源の効率的な活用を図るとともに、他の独立行政法人、都道府県、大学や民間の試験研究機関その他関係機関との連携の確保に留意するものとする。

第24条・第25条 削除

(農機具の検査等)

第26条 研究機構は、農作業の安全性確保のため、研究機構法第14条第1項第1号に掲げる農機具の安全性検査等を行う。

2 研究機構は、前項の業務を実施するときは、委託者と受託契約を締結した上で別に定めるところにより、所要の対価を徴収することができるものとする。

第27条～第33条 削除

第6節 共通事項

(受託による業務の実施)

第35条 研究機構は、研究機構法第14条第1項第1号に掲げる試験及び研究並びに調査の業務、同条第2項第1号から第3号までに掲げる業務に係る技術に関する調査研究の業務（以下「試験及び研究並びに調査等の業務」という。）につき、これらの業務の実施に支障のない範囲内で、依頼に応じて、受託による業務を実施することができる。

(受託契約)

第36条 研究機構は、前条の規定により受託による業務を実施しようとするときは、当該受託により実施する業務（以下「受託業務」という。）に関し、委託しようとする者と受託に関する契約を締結するものとする。

2 前項の契約においては、次に掲げる事項を定める。

- (1) 受託業務の課題
- (2) 受託業務の内容に関する事項
- (3) 受託業務を実施する場所及び方法に関する事項
- (4) 受託業務の実施期間及びその解除に関する事項
- (5) 受託業務の結果の報告に関する事項
- (6) 受託業務の実施に要する費用並びに支払の時期及び方法に関する事項
- (7) 受託業務の実施の結果の取扱方法及びその結果が知的財産権の対象となったときのその帰属に関する事項
- (8) その他受託業務の実施に関し必要な事項

(共同研究)

第37条 研究機構は、試験及び研究並びに調査等の業務を効率的に実施するために必要な場合には、研究機構以外の者と試験及び研究並びに調査等の業務を分担し、技術及び知識を交換し、並びにその費用を分担して行う試験及び研究並びに調査（以下「共同研究」という。）を行うことができる。

(共同研究契約)

第38条 研究機構は、前条の規定により共同研究を実施しようとするときは、当該共同研究に関し、共同研究を行おうとする者と共同研究に関する契約を締結するものとする。

2 前項の契約においては、次に掲げる事項を定める。

- (1) 共同研究の課題
- (2) 共同研究の内容に関する事項
- (3) 共同研究を実施する場所及び方法に関する事項
- (4) 共同研究の実施期間及びその解除に関する事項
- (5) 共同研究に要する費用の分担に関する事項
- (6) 共同研究の結果の取扱方法に関する事項
- (7) 共同研究の結果が知的財産権の対象となったときのその帰属に関する事項
- (8) その他共同研究の実施に関し必要な事項

(成果の普及等)

第39条 研究機構は、次に掲げる方法により、成果を公表するとともに、その普及を図るものとする。

- (1) 成果に関する発表会を開催すること。
- (2) 成果に関する報告書等を作成し、及びこれを頒布すること。
- (3) 成果に関する技術指導を行うこと。
- (4) 成果をホームページに掲載する等により、提供すること。
- (5) その他事例に応じて最も適当と認められる方法

2 研究機構は、研究機構法第14条第1項第6号に掲げる出資並びに人的及び技術的援助を行うに当たっては、「研究開発法人による出資等に係るガイドライン」（平成31年1月17日内閣府政策統括官（科学技

術・イノベーション担当）・文部科学省科学技術・学術政策局決定）及び当該ガイドラインを踏まえ整備した関連規程に基づき、実施するものとする。

（知的財産権）

第40条 研究機構は、重要な研究成果については、積極的に国内外において知的財産権を取得するとともに、民間等に対し、その実施を許諾する等により、研究成果の普及を推進するものとする。

2 研究機構は、知的財産権の実施の許諾等については、我が国の農林水産業等の振興に配慮の上、決定するものとする。

第3章 業務委託の基準

（業務の委託）

第41条 研究機構は、その業務の効率的かつ効果的な運営に資すると認めるときは、研究機構法第14条に規定する業務（同条第1項第5号に掲げるものに係るものを除く。）について、研究機構以外の者に委託することができる。

（委託契約）

第42条 研究機構は、前条の規定により業務を委託しようとするときは、当該委託により実施させる業務（以下「委託業務」という。）に関し、受託者と委託に関する契約を締結するものとする。

2 前項の契約においては、次に掲げる事項を定める。

- （1）委託業務の課題
- （2）委託業務の内容に関する事項
- （3）委託業務を実施する場所及び方法に関する事項
- （4）委託業務の実施期間及びその解除に関する事項
- （5）委託業務の結果の報告に関する事項
- （6）委託業務の実施に要する費用並びに支払の時期及び方法に関する事項
- （7）委託業務の実施の結果の取扱方法及びその結果が知的財産権の対象となったときのその帰属に関する事項
- （8）その他委託業務の実施に関し必要な事項

第4章 競争入札その他契約に関する基本的事項

（契約の方法）

第43条 研究機構における売買、賃貸、請負その他の契約は、すべて一般競争（公告をして不特定多数の間で行う競争をいう。以下同じ。）に付してこれを行うものとし、当該契約の目的に従い、最高又は最低の価格による入札者と契約を締結するものとする。ただし、次に掲げる場合には、指名競争（入札者を指名して行う契約をいう。）に付し、又は随意契約（契約の相手方を競争の方法によらず、適当と思われる相手方から選択して締結する契約をいう。）に付してこれを行うことができるものとする。

- （1）契約の性質又は目的から一般競争に付することが適当でないとき又は一般競争に付し得ないとき。
- （2）災害その他緊急を要するために一般競争に付し得ないとき。
- （3）予定価格が少額であるとき。
- （4）その他一般競争に付することが不利と認められるとき。

(政府調達に関する協定等の適用を受ける物品等の調達契約)

第44条 1994年4月15日マラケシュで作成された政府調達に関する協定その他の国際約束（以下「協定等」という。）の適用を受ける物品等の調達契約については、協定等の規定に則してこれを行うものとする。

(会計規程への委任)

第45条 この章に定めるもののほか、研究機構が行う契約に関して必要な事項は、通則法第49条の規定に基づき別に定める会計に関する規程において、これを定める。

第6章 雑則

(施設等の貸与)

第63条 研究機構は、研究機構の業務運営に支障のない範囲において、研究機構の施設又は設備の一部を他の者に貸与することができるものとする。

2 研究機構は、前項の貸与を実施するときは、別に定めるところにより、所要の対価を徴収することができるものとする。

(その他業務の方法)

第64条 この業務方法書に定めるもののほか、業務に関し必要な事項については、理事長がこれを定める。

附 則

この業務方法書は、農林水産大臣の認可のあった日から施行する。

附 則

- 1 この業務方法書の変更は、主務大臣の認可のあった日（平成15年10月3日）から施行する。
- 2 推進機構が定めた生物系特定産業技術研究推進機構民間研究促進業務関係業務方法書（昭和61年12月27日付け61生研規第8号）、生物系特定産業技術研究推進機構基礎的研究業務関係業務方法書（平成8年9月26日付け8生研規第17号）及び生物系特定産業技術研究推進機構農業機械化促進業務関係業務方法書（昭和62年1月7日付け61生研規第6号）の規定によりした手続その他の行為は、この業務方法書の相当規定によりしたものとみなす。

附 則

この業務方法書の変更は、主務大臣の認可のあった日（平成17年4月1日）から施行する。

附 則

(施行期日)

第1条 この業務方法書の変更は、主務大臣の認可のあった日（平成18年4月1日）から施行する。

附 則

この業務方法書の変更は、主務大臣の認可のあった日（平成23年4月1日）から施行する。

附 則

この業務方法書の変更は、主務大臣の認可のあった日（平成24年4月1日）から施行する。

附 則

この業務方法書の変更は、主務大臣の認可のあった日（平成27年4月1日）から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 この業務方法書の変更は、主務大臣の認可のあった日（平成28年4月1日。以下「施行日」という。）から施行する。

（経過措置）

- 2 この業務方法書の変更に伴い施行日以後に研究機構が行う業務のうち、独立行政法人に係る改革を推進するための農林水産省関係法律の整備に関する法律（平成27年法律第70号）附則第2条第1項の規定により解散した独立行政法人種苗管理センター、国立研究開発法人農業生物資源研究所及び国立研究開発法人農業環境技術研究所が実施していた業務については、当該業務に関する規程を整備するまでの間は、なお従前の例により行うことができる。

附 則

この業務方法書の変更は、主務大臣の認可のあった日（平成30年4月1日）から施行する。

附 則

この業務方法書の変更は、主務大臣の認可のあった日（平成31年3月20日）から施行する。

附 則

この業務方法書の変更は、主務大臣の認可のあった日（令和2年3月10日）から施行する。

附 則

この業務方法書の変更は、主務大臣の認可のあった日（令和3年3月26日）から施行する。

附 則

この業務方法書の変更は、主務大臣の認可のあった日（令和4年4月1日）から施行する。

VI 農業機械研究部門職員録

(令 7.3.31 現在)

< 担当役員 (機構本部) >

理事 (基盤技術担当) 中川路哲男
監事 中根宏行

所長 長崎裕司

< 研究推進部 >

部長 梅田直円

研究推進管理役 川名健雄

(併任) 八谷満

研究推進室長 塚本茂善

(併任) 吉田颯汰

(併任) 水野雄介

推進チーム推進チーム長 後藤裕

運営チーム運営チーム長 高橋精寿

チーム員 守田有里

知的財産チーム 知的財産チーム長(併任) 古山隆司

専門職 猿谷政義

広報チーム 広報チーム長 高山敏之

上級研究員 岡田守弘

(併任) 藤井桃子

人事管理・育成
チーム 人事管理・育成チーム
長 (併任) 高山敏之

< 安全検査部 >

部長 志藤博克

安全推進管理役 清水一史

任期付職員 Tran Thu Thuy

任期付職員 杉野直輝

< 機械化連携推進部 >

部長 太田孝弘

機械化連携室長 大森弘美

機械化連携推進室

機械化連携調整役 古山隆司

機械化連携調整役 大西正洋

機械化連携調整役 臼井善彦

上級研究員 野田崇啓

(併任) 青木 循

< 知能化農機研究領域 >

領域長 林和信

主席研究員 八谷満

任期付職員 長田享

国際標準・グループ長 田中慶

安全評価グループ長 手島 司
 グループ 上級研究員 原田 泰弘
 主任研究員 山崎 裕文
 研究員 深井 智子
 (併任) 紺屋 秀之
 (併任) 井上 秀彦
 (併任) 原田 一郎
 (併任) 滝元 弘樹
 (併任) 松本 将大
 (併任) 紺屋 朋子
 (併任) 小林 慶彦
 (併任) 川瀬 芳順

土地利用型作業グループ 主席研究員 竹崎 あかね
 上級研究員 NGUYEN Van Nang
 主任研究員 山下 貴史
 主任研究員 趙 元在
 研究員 土川 寛崇
 研究員 倉鋪 圭太
 研究員 TOKHI ARAB SARA
 施設園芸生産システムグループ グループ長 深津 時広
 上級研究員 黒崎 秀仁
 上級研究員 嶋津 光辰
 主任研究員 中山 夏希
 研究員 下元 耕太
 研究員 樫野 雅和
 研究員 吉田 颯汰
 研究員 太田 望

< 無人化農作業研究領域 >

領域長 深山大介
 小型電動ロボット技術グループ グループ長 吉田 隆延
 グループ長補佐 吉永 慶太
 上級研究員 塚本 隆行
 主任研究員 千葉 大基
 主任研究員 坪田 将吾
 研究員 関 隼人
 研究員 坂田 遼太
 研究員 Pham Thi Quynh Anh
 革新的作業機構開発グループ グループ長 西脇 健太郎
 グループ長補佐 栗原 英治
 上級研究員 重松 健太
 主任研究員 青木 循

< システム安全工学研究領域 >

領域長 富田 宗樹
 予防安全システムグループ グループ長 積 栄
 グループ長補佐 紺屋 朋子
 主任研究員 井上 秀彦
 研究員 原田 一郎
 研究員 滝元 弘樹
 研究員 梅野 覚
 (併任) 山崎 裕文
 協調安全システムグループ グループ長 菊池 豊
 グループ長補佐 紺屋 秀之
 主任研究員 西川 純
 研究員 松本 将大
 研究員 田中正浩

主任研究員 山田 祐一
 主任研究員 川出 哲生
 主任研究員 土師 健
 主任研究員 荒井 圭介
 研究員 津田 直人
 研究員 水野 雄介

研究員 小林 慶彦
 研究員 向 霄涵

< 管理本部 さいたま管理部 >

部長 石川 貞紀
 総務課 長 鈴木 一志
 総務チーム 長 坂爪 良樹
 総務チーム 主査 赤石 忍
 総務チーム 主査 保阪 健
 会計課 長 齋藤 繁
 経理チーム 長 小林 一善
 経理チーム 主査 林 寛
 経理チーム 主査 荻原 省吾
 資産管理チーム 長 坂上 仁
 資産管理チーム 主査 藤沼 悠
 資産管理チーム 主査 片岡 宏征
 資産管理チーム 員 野村 恵
 安全衛生管理室 長 馬場 政広

< 管理本部技術支援部中央技術支援センターさいたま業務科 >

業務科 長 藤井 桃子
 さいたま専門職 井上 利明
 技術チーム チーム 員 小山 貴晟
 鴻巣技術チーム 長 濱田 重彦
 チーム チーム 員 藤田 耕一

< デジタル戦略部 >

情報化推進マネージャー(併任) 岡田 守弘

Ⅶ 主要刊行物目録

(令 7.3.31 現在)

1. 農業機械化研究所 (昭和 37 年 4 月～平成 28 年 3 月)

*印は品切れですが、複写 (有料) で対応できます。

[1] 研究所報告

15 号～27 号 ISSN 0387-8139
28 号～42 号 ISSN 1341-0148

*研究所報告第 1 号 (S39. 4)

- ・刈取機とコンバインの試作研究

研究所報告第 2 号 (S39. 10)

- ・施肥播種機の試作研究

研究所報告第 3 号 (S40. 10)

- ・粒状農薬とくに除草剤の散布機に関する研究

研究所報告第 4 号 (S41. 9)

- ・乗用トラクタの走行・牽引および耕転性能に関する研究

研究所報告第 5 号 (S42. 4)

- ・トラクタ・サイズの経済的考察

研究所報告第 6 号 (S43. 4)

- ・コンバインの性能向上に関する研究

研究所報告第 7 号 (S46. 3)

- ・トラクタ性能の向上に関する研究

*研究所報告第 8 号 (S46. 10)

- ・人工乾燥における米の胴割れに関する実験的研究

研究所報告第 9 号 (S47. 10)

- ・自脱型コンバインの高性能化に関する研究

研究所報告第 10 号 (S51. 3)

- ・自動くん煙機に関する研究

研究所報告第 11 号 (S52. 4)

- ・人工乾燥における穀物含水率の電氣的検出に関する研究

研究所報告第 12 号 (S53. 3)

- ・微量・少量散布機に関する研究 (I)

研究所報告第 13 号 (S53. 5)

- ・微量・少量散布機に関する研究 (II)

研究所報告第 14 号 (S54. 6)

- ・リンゴの省力的収穫技術の開発研究

農業機械化研究所報告第 15 号 (S56. 3)

- ・農業粉塵の研究
- ・半自動搾乳装置の試作研究
- ・乳量計の試作研究
- ・トラクタ用幹周草刈機の開発研究

農業機械化研究所報告第 16 号 (S56. 10)

- ・耕うん・砕土・施肥・播種同時作業機の開発、改良研究 (第 1 報)
- ・大豆刈取機の開発研究 (第 2 報)
- ・温室における生産環境改善用機械・装置の開発改良に関する研究

農業機械化研究所報告第 17 号 (S57. 3)

- ・リンゴ用大型箱果実収容装置の試作研究
- ・水平循環式栽培装置の開発研究
- ・真空冷却施設の調査研究

農業機械化研究所報告第 18 号 (S59. 11)

- ・乗用農機座席の振動に関する安全工学的研究

農業機械化研究所報告第 19 号 (S60. 3)

- ・振動耕うんの自動制御に関する基礎研究 (英文)
- ・レコーダジャーでの乳量計測の研究
- ・簡易草地更新用機械の試作研究 (第 1 報)
- ・わい性リンゴを対象とした果樹園用中耕装置の試作研究 (第 1 報)

農業機械化研究所報告第 20 号 (S61. 3)

- ・作物可動式栽培装置の試作とこれを利用した作業の研究
- ・分光反射特性の農業機械用光電識別センサへの応用に関する研究

農業機械化研究所報告第 21 号 (S62. 3)

- ・トラクター用安全フレームの研究

農業機械化研究所報告第 22 号 (S62. 12)

- ・細断粗飼料・藁稈類用排出・供給装置の開発研究
- ・藁稈類の見掛け密度

農業機械化研究所報告第 23 号 (H1. 2)

- ・耕うん砕土・施肥播種同時作業機の開発改良研究 (第 2 報)
- ・簡易草地更新用機械の試作研究 (第 2 報)
- ・果樹園用有機物施用機の試作研究

農業機械化研究所報告第 24 号 (H1. 12)

- ・高速田植機の開発研究

農業機械化研究所報告第 25 号 (H2. 7)

- ・野菜残査収集機の開発研究
- ・籾殻加熱ガス利用システムの開発に関する研究

農業機械化研究所報告第 26 号 (H3. 3)

- ・農用トラクタの性能試験システム開発に関する研究

農業機械化研究所報告第 27 号 (H3. 10)

- ・可搬型農業機械の手腕系振動軽減に関する研究

農業機械化研究所報告第 28 号 (H6. 12)

- ・ハクサイ収穫機の開発研究
- ・カンキツ栽培用機械の開発研究(第 1 報)
- ・乳苗の田植機適応性に関する研究

農業機械化研究所報告第 29 号 (H7. 10)

- ・能動制御による作業者耳元騒音の低減に関する研究

農業機械化研究所報告第 30 号 (H10. 3)

- ・けん引式作業機のトラクタへの追従制御法の開発研究

農業機械化研究所報告第 31 号 (H10. 3)

- ・ウリ科野菜用接ぎ木装置の開発に関する研究

農業機械化研究所報告第 32 号 (H13. 9)

- ・耕うん作業を行う自律移動ロボットに関する研究
- ・周波数可変方式による乳量計測法の開発

農業機械化研究所報告第 33 号 (H17. 1)

- ・繋ぎ飼いや搾乳ロボットシステムに関する研究

農業機械化研究所報告第 34 号 (H18. 1)

- ・水田耕うん整地用機械の高速化に関する開発研究

農業機械化研究所報告第 35 号 (H19. 2)

- ・長大型飼料作物に対応したロールベアラの開発研究

農業機械化研究所報告第 36 号 (H19. 3)

- ・高精度水稻湛水条播技術に関する研究

農業機械化研究所報告第 37 号 (H21. 3)

- ・収量測定機能付きコンバインの開発

農業機械化研究所報告第 38 号 (H21. 3)

- ・搾乳ユニット自動搬送システムに関する研究

農業機械化研究所報告第 39 号 (H22. 3)

- ・大豆のコンバイン収穫における穀粒損失および汚粒低減技術の開発

農業機械化研究所報告第 40 号 (H23. 2)

- ・青果物の非破壊品質評価技術に関する開発研究

農業機械化研究所報告第 41 号 (H24. 3)

- ・ロボットトラクタの開発

農業機械化研究所報告第 42 号 (H24. 11)

- ・下側接近を特徴とする定置型イチゴ収穫ロボットの開発

[2] 鑑定

*昭和 40 年度普通型コンバイン (S41. 2)

—鑑定試験結果とその解説

*スピードスプレーヤー (S41. 7)

—鑑定試験結果とその解説(昭和 40 年度)

*昭和 41 年度穀物乾燥機の鑑定結果について(揚排穀機付通風型) (S42. 3)

*乗用トラクタ鑑定試験成績の見方と乗用トラクタの選びかた (S44. 3)

—一般利用者のために

*背負動力散布機 (S44. 3)

—鑑定試験結果とその解説(昭和 42 年度)

*乗用トラクタ (S44. 11)

—鑑定結果とその解説(昭和 40～43 年度)

*コンバイン(No. 39-1～8)昭和 40 年度 (S40. 12)

*コンバイン(No. 44-1～4)昭和 41 年度 (S42. 2)

*乗用トラクタ(No. 45-1～18)昭和 42 年度 (S42. 7)

*動力散粉機(No. 47-1～11)昭和 41 年度 (S42. 7)

*スピードスプレーヤー(No. 46-1～7)昭和 42 年度 (S42. 8)

*背負動力散布機(No. 48-1～22)昭和 42 年度 (S43. 2)

*動力散粉機(No. 49)昭和 42 年度 (S43. 2)

*動力刈取機(No. 51-1～11)昭和 42 年度 (S43. 2)

*乗用トラクタ(No. 50-1～9)昭和 42 年度 (S43. 5)

*乗用トラクタ(No. 52-1～5)昭和 43 年度 (S44. 3)

*動力刈取機(No. 53-1～19)昭和 43 年度 (S44. 3)

*動力散粉機(No. 54-1～3)昭和 43 年度 (S44. 6)

*動力散粉機(No. 55-1～2)昭和 44 年度 (S45. 1)

*土付苗用動力田植機(No. 56-1~8)昭和47年度 (S47. 10)

*土付苗用動力田植機(No. 57-1~3)昭和48年度 (S48. 8)

*ビートハーベスター(No. 58-1~5)昭和49年度 (S49. 12)

*バルククーラー(No. 59-1~17)昭和49年度 (S50. 2)

*バルククーラー(No. 61-1~9)昭和50年度 (S50. 9)

*モノレール(No. 60-1~12)昭和50年度 (S50. 10)

ポテトハーベスター(No. 62-1~5)昭和50年度 (S51. 3)

バルククーラー(No. 63-1~21)昭和51年度 (S51. 11)

ポテトハーベスター(No. 64-1~6)昭和51年度 (S52. 3)

ポテトハーベスター(No. 65-1~2)昭和52年 (S53. 3)

ビーンハーベスター(No. 66-1~4)昭和52年度 (S53. 3)

バルククーラー(No. 67-1~5)昭和53年度 (S53. 8)

バルククーラー(No. 68-1~2)昭和54年度 (S55. 3)

フォーレージハーベスター(No. 69-1~7)昭和55年度(S56. 3)

農業機械の安全性はこんなに向上した (S56. 12)
 - 農業機械安全鑑定5カ年の成果

温風暖房機(No. 1-1983) (S58. 11)

大豆選別機(No. 2~6-1983) (S59. 3)

ハウス用少量散布機(No. 7~15-1983) (S59. 3)

豆用脱粒機(No. 16~21-1983) (S59. 3)

自脱コンバイン(種子用)(No. 22~27-1983) (S59. 3)

ハウス用少量散布機(No. 3~6-1984) (S60. 3)

自脱コンバイン(種子用)(No. 1~2-1984) (S60. 3)

プラウ(駆動ディスクハロー型)(No. 7~10-1984) (S60. 10)

温風暖房機(No. 1-1985) (S60. 10)

プラウ(駆動ディスクハロー型)(No. 2~5-1985) (S61. 1)

ハウス用少量散布機(No. 13-1985) (S61. 2)

自脱コンバイン(種子用)(No. 6~12-1985) (S61. 3)

堆肥散布機(自走式)(No. 14~18-1985) (S61. 3)

ハウス用少量散布機(No. 1-1986) (S61. 12)

自脱コンバイン(種子用)(No. 2~5-1986) (S62. 3)

豆用脱粒機(連続排稈型)(No. 6-1986) (S62. 3)

温風暖房機(No. 7-1986) (S62. 3)

側条施肥機(No. 1~4-1987) (S62. 9)

大豆選別機(No. 5-1987) (S63. 3)

コンバイン(普通型)(No. 6~7-1987) (S63. 3)

*コンバイン(普通型)(No. 8-1987) (S63. 3)

温風暖房機(No. 9-1987) (S63. 8)

自脱コンバイン(種子用)(No. 1~2-1988) (H1. 5)

豆用脱粒機(連続排稈型)(No. 3~5-1988) (H1. 5)

コンバイン(普通型)(No. 6-1988) (H1. 7)

温風暖房機(No. 7~8-1988) (H1. 10)

スピードスプレヤー(わい性台樹仕様)(No. 1~2-1989) (H2. 2)

コンバイン(普通型)(No. 3~4-1989) (H2. 3)

自脱コンバイン(種子用)(No. 5~11-1989) (H2. 4)

自脱コンバイン(種子用)(No. 1~3-1990) (H3. 4)

*コンバイン(普通型)(No. 4-1990) (H3. 8)

コンバイン(普通型)(No. 5-1990) (H3. 8)

自脱コンバイン(種子用)(No. 1~3-1991) (H4. 3)

温風暖房機(No. 4-1991) (H4. 4)

自脱コンバイン(種子用)(No. 1~9-1992) (H5. 6)

コンバイン(普通型)(No. 10-1992) (H5. 6)

自脱コンバイン(種子用)(No. 1~2-1993) (H6. 4)

自脱コンバイン(種子用)(No. 1~2-1994) (H7. 3)

自脱コンバイン(種子用)(No. 1~9-1995) (H8. 3)

自脱コンバイン(種子用) (No. 1~2-1996) (H9. 3)	* ISEKI T5000 (S55. 3)
自脱コンバイン(種子用) (No. 1~6-1997) (H10. 5)	* ISEKI T6500 (S55. 3)
自脱コンバイン(種子用) (No. 1~5-1998) (H11. 2)	* MF 220-4 (S55. 3)
温風暖房機 (No. 6-1998) (H11. 2)	KUBOTA B8200D (S57. 4)
自脱コンバイン(種子用) (No. 1~2-1999) (H12. 4)	KUBOTA B8200E (S57. 4)
自脱コンバイン(種子用) (No. 1~2-2000) (H13. 3)	KUBOTA L235 (S57. 12)
自脱コンバイン(種子用) (No. 1~2-2001) (H14. 4)	KUBOTA L235 4WD (S57. 12)
温風暖房機 (No. 1~2-2006) (H19. 4)	KUBOTA L275 (S57. 12)
[O. E. C. D. テスト関連]	KUBOTA L275 4WD (S57. 12)
* 農業および園芸用小形エンジン O. E. C. D. 標準テストコード(仮訳) (S44. 6)	MITSUBISHI MT 4501D (S58. 6)
* 農用トラクタ O. E. C. D. 標準テストコード (S45. 8)	KUBOTA L345-11DT (S60. 5)
* 農用トラクタ O. E. C. D. 標準テストコード (S49. 8)	KUBOTA L4150D (S61. 5)
農用トラクタ用安全キャブ及びフレームの公式試験に関する O. E. C. D. 標準コード (S53. 11)	KUBOTA L3750D (S61. 10)
農用トラクタ O. E. C. D. 標準テストコード (S55. 9)	FORD 1520-9×3 Manual (2WD) (S63. 4)
農用トラクタ性能の限定 O. E. C. D. 標準テストコード (S60. 3)	FORD 1520-H. S. T (2WD) (S63. 4)
農用トラクタ用安全キャブ及び安全フレームの公式試験に関する O. E. C. D. 標準コード (S60. 9)	FORD 1720-12×4 Manual (S63. 4)
農用トラクタの公式試験のための O. E. C. D. 標準コード (H1. 11)	FORD 1720-12×12 Synchro (4WD) (S63. 4)
[農用トラクタ O. E. C. D. テスト成績書 ([Test Reports in accordance with O. E. C. D. Standard Codes for the Official Testing of Agricultural and Forestry Tractors]]	FORD 1920-12×4 Manual (4WD) (S63. 5)
トラクタ性能試験	FORD 1920-12×12 Synchro (4WD) (S63. 5)
* SATOH TRACTORS S-650G (S45. 3)	FORD 2120-12×4 Manual (4WD) (S63. 9)
* サトートラクター S-650G (S45. 5)	FORD 2120-12×12 Hydraulic (S63. 9)
MITSUBISHI FARM TRACTOR D2500 (S50. 4)	KUBOTA M8580DT (4WD) (H4. 3)
MITSUBISHI FARM TRACTOR D1800 (S50. 4)	* KUBOTA M7580DT (4WD) (H5. 6)
MITSUBISHI FARM TRACTOR D2000 (S50. 9)	* KUBOTA M1-100S-DT (4WD) (H5. 7)
	KUBOTA M9580DT (4WD) (H5. 7)
	KUBOTA M4700DT (4WD) (H8. 10)
	KUBOTA M5400DT (4WD) (H8. 10)

KUBOTA L2500DT(4WD) (H10. 3)	*ISEKI SF134 (H5. 1)
KUBOTA M6800DT(4WD) (H11. 1)	*ISEKI SF141 (H5. 11)
KUBOTA M8200DT(4WD) (H11. 1)	*ISEKI SF140 (H5. 11)
KUBOTA M9000DT(4WD) (H11. 1)	*ISEKI SF136 (H5. 11)
KUBOTA M-110DT(4WD) (H11. 8)	*ISEKI SF135 (H5. 11)
KUBOTA M-120DT(4WD) (H11. 9)	*ISEKI SC106 (H5. 11)
KUBOTA M6800SDT(4WD) (H12. 5)	*ISEKI SF134 (H8. 6)
KUBOTA M4900DT(4WD) (H12. 5)	*ISEKI SF159 (H8. 6)
KUBOTA M5700DT(4WD) (H12. 5)	*ISEKI SC105 (H8. 6)
KUBOTA L3000DT(4WD) (H13. 2)	*ISEKI SC106 (H8. 6)
安全キャブ・フレーム強度試験	*KUBOTA SFM-54 (H8. 8)
ISEKI SF-104 (S54. 7)	*ISEKI SF136 (H9. 2)
ISEKI SF-105 (S54. 7)	*ISEKI SF141 (H9. 2)
ISEKI SC-101 (S55. 2)	*KUBOTA SFM-F90 (H11. 2)
FORD 19SA 1720 (S63. 11)	*KUBOTA SFM-F68 (H11. 2)
FORD 19SA 1920 (S63. 11)	*KUBOTA IC90 (H11. 5)
FORD 19SA 2120 (S63. 11)	*KUBOTA SFM-F68 (H11. 6)
ISEKI SC-105 (S63. 11)	*KUBOTA SFM-F90 (H11. 8)
ISEKI SC-106 (S63. 11)	*KUBOTA IC120 (H11. 9)
ISEKI SC-107 (S63. 11)	*KUBOTA SFM-F68 (H12. 4)
HONDA 554040 (H3. 6)	*KUBOTA SFM-54 (H12. 4)
MITSUBISHI 2F270 (H3. 9)	*KUBOTA IC68Cab (H12. 4)
*MITSUBISHI 2F190 (H3. 9)	*KUBOTA IC120 (H14. 6)
*KUBOTA IC89 (H3. 9)	*KUBOTA IC90GM Cab (H15. 2)
*KUBOTA SF85 (H3. 10)	*YANMAR KQ442 Cab (H16. 6)
*KUBOTA IC85 (H3. 10)	YANMAR SF422 Rear roll bar (H16. 6)
*KUBOTA IC85 (H4. 8)	YANMAR KQ500K Cab (H17. 9)

KUBOTA IC125 Cab (H17.11)
KUBOTA IC75MZ Cab (H19.1)
YANMAR KQ882 Cab (H19.9)
YANMAR KQ500K Cab (H19.10)
YANMAR FM009 Rear roll bar (H19.11)
YANMAR SF662K Rear roll bar (H19.11)
ISEKI SC139 Cab (H20.2)
ISEKI SC148 Cab (H20.2)
ISEKI SC149 Cab (H20.2)
YANMAR FM009 Rear roll bar (H20.4)
ISEKI SC139 Cab (H20.10)
ISEKI SC148 Cab (H20.10)
ISEKI SC149 Cab (H20.10)
ISEKI SC156 Cab (H21.2)
IHI SHIBAURA ST2 Rear roll bar (H21.10)
IHI SHIBAURA ST1 Rear roll bar (H21.11)
IHI SHIBAURA ST05 Rear roll bar (H21.11)
IHI SHIBAURA ST3 Rear roll bar (H22.3)
KUBOTA IC125A Cab (H22.5)
IHI SHIBAURA ST05 Rear roll bar (H22.7)
YANMAR FM014 Rear roll bar (H23.3)
KUBOTA IC97MR Cab (H27.5)

[3] 検査

*農機具国営検査 (S39.3)
—検査の主要な実施方法及び基準並びに検査成績表の様式、
農機具検査関係法規(抜粋)

*農機具国営検査 (S42.3)
—検査の主要な実施方法及び基準並びに検査成績表の様式、
農機具検査関係法規(抜粋)

*農機具国営検査 (S44.1)
—検査の主要な実施方法及び基準並びに検査成績表の様式、
農機具検査関係法規(抜粋)

*農機具国営検査 (S46.5)
—検査の主要な実施方法及び基準並びに検査成績表の様式

農機具型式検査 (S59.3)
—検査の主要な実施方法及び基準ならびに検査成績の様式

[国営検査成績とその解説]

*乾燥機(穀物用通風型)検査結果について(昭和39～40年度) (S41.3)

*動力噴霧機の動向と検査成績の利用のしかた (S41.5)

*尿散布機 (S41.6)
—検査結果とその解説

*施肥播種機(稲麦用) (S41.12)
—検査結果とその解説

*国営検査成績(昭和44年度) (S46.3)
—一般利用者のために
—乗用トラクタ(国検解説44-1～10)

*昭和45年度乗用トラクタの国営検査成績とその解説(国検解説45-1) (S46.12)
—一般利用者のために

*昭和44・45年度動力噴霧機(走行式)の国営検査成績とその解説(国検解説45-2) (S47.2)
—一般利用者のために

*昭和45年度国動力散粉機(走行式)の国営検査成績とその解説(国検解説45-3) (S47.3)
—一般利用者のために

*昭和45年度乾燥機(穀物用循環型)の国営検査成績とその解説(国検解説45-4) (S47.3)
—一般利用者のために

*昭和45年度動力刈取機(結束型)の国営検査成績とその解説(国検解説45-5) (S47.3)
—一般利用者のために

*昭和46年度乗用トラクタの国営検査成績とその解説(国検解説46-1) (S48.1)
—一般利用者のために

*昭和46年度動力刈取機(結束型)の国営検査成績とその解説(国検解説46-2) (S48.1)
—一般利用者のために

*乗用トラクタの国営検査成績とその解説(昭和 44~47 年度) (S48. 10)

*昭和 47・48 年度スピードスプレーヤスプレーヤーの国営検査成績とその解説(国検解説 48-1) (S49. 3)
—一般利用者のために

*昭和 47・48 年度コンバイン(自脱型)の国営検査成績とその解説(国検解説 48-2) (S49. 3)
—一般利用者のために

[農機具国営検査合格機名及び仕様一覧]

昭和 37~38 年度農機具国営検査合格機名および仕様一覧(検査合格機資料 No. 1) (S39. 3)

*昭和 39~40 年度農機具国営検査合格機名および仕様一覧(検査合格機資料 No. 2) (S42. 3)

*昭和 41~42 年度農機具国営検査合格機名および仕様一覧(検査合格機資料 No. 3) (S44. 1)

*昭和 43~45 年度農機具国営検査合格機名および仕様一覧(検査合格機資料 No. 4) (S46. 5)

昭和 46~49 年度農機具国営検査合格機名および仕様一覧(検査合格機資料 No. 5) (S50. 7)

[その他]

*検査における農業機械の計測法 (S41. 7)

*諸外国における最近の乗用トラクタの傾向 (S44. 6)

*諸外国における最近の乗用トラクタの傾向(その 2) (S48. 5)

農用車輪型トラクタ用転倒時運転者防護構造物及び農用トラクタ用運転者頭上部防護構造物試験方法及び性能要件(基準) (S53. 12)

*諸外国における最近の乗用トラクタの傾向(その 3) (S57. 3)

諸外国における最近の乗用トラクタの傾向(その 4) (H1. 5)

諸外国における最近の乗用トラクタの傾向(その 5) (H16. 3)

(注) この他に、検査合格機成績表のコピーを有償頒布しております。図書室にお問い合わせください。

[4] 年報・年次報告等

[農業機械化研究所年報]

平成 16~25 年度 ISSN 1880-3695

*昭和 37 年度農業機械化研究所年報 (S38. 9)

*昭和 38 年度農業機械化研究所年報 (S39. 10)

*昭和 39 年度農業機械化研究所年報 (S40. 10)

*昭和 40 年度農業機械化研究所年報 (S41. 10)

*昭和 41 年度農業機械化研究所年報 (S42. 10)

*昭和 42 年度農業機械化研究所年報 (S43. 10)

*昭和 43 年度農業機械化研究所年報 (S44. 10)

*昭和 44 年度農業機械化研究所年報 (S45. 10)

*昭和 45 年度農業機械化研究所年報 (S46. 10)

*昭和 46 年度農業機械化研究所年報 (S47. 10)

*昭和 47 年度農業機械化研究所年報 (S48. 10)

*昭和 48 年度農業機械化研究所年報 (S49. 10)

*昭和 49 年度農業機械化研究所年報 (S50. 10)

昭和 50 年度農業機械化研究所年報 (S51. 10)

*昭和 51 年度農業機械化研究所年報 (S52. 10)

昭和 52 年度農業機械化研究所年報 (S53. 10)

*昭和 53 年度農業機械化研究所年報 (S54. 10)

昭和 54 年度農業機械化研究所年報 (S55. 10)

昭和 55 年度農業機械化研究所年報 (S56. 10)

昭和 56 年度農業機械化研究所年報 (S57. 10)

昭和 57 年度農業機械化研究所年報 (S58. 10)

昭和 58 年度農業機械化研究所年報 (S59. 10)

昭和 59 年度農業機械化研究所年報 (S60. 10)

昭和 60 年度農業機械化研究所年報 (S61. 9)

昭和 61 年度農業機械化研究所年報 (S62. 2)

昭和 62 年度農業機械化研究所年報 (S63. 9)

昭和 63 年度農業機械化研究所年報 (H1. 9)
平成元年度農業機械化研究所年報 (H2. 7)
平成 2 年度農業機械化研究所年報 (H3. 7)
平成 3 年度農業機械化研究所年報 (H4. 7)
平成 4 年度農業機械化研究所年報 (H5. 7)
平成 5 年度農業機械化研究所年報 (H6. 11)
平成 6 年度農業機械化研究所年報 (H7. 10)
平成 7 年度農業機械化研究所年報 (H8. 9)
平成 8 年度農業機械化研究所年報 (H9. 10)
平成 9 年度農業機械化研究所年報 (H10. 10)
平成 10 年度農業機械化研究所年報 (H11. 12)
平成 11 年度農業機械化研究所年報 (H12. 12)
平成 12 年度農業機械化研究所年報 (H13. 9)
平成 13 年度農業機械化研究所年報 (H14. 8)
平成 14 年度農業機械化研究所年報 (H15. 6)
平成 15 年度農業機械化研究所年報 (H16. 9)
平成 16 年度農業機械化研究所年報 (H17. 6)
平成 17 年度農業機械化研究所年報 (H18. 6)
平成 18 年度農業機械化研究所年報 (H19. 10)
平成 19 年度農業機械化研究所年報 (H20. 10)
平成 20 年度農業機械化研究所年報 (H21. 10)
平成 21 年度農業機械化研究所年報 (H22. 10)
平成 22 年度農業機械化研究所年報 (H23. 10)
平成 23 年度農業機械化研究所年報 (H24. 9)
平成 24 年度農業機械化研究所年報 (H25. 9)
*平成 25 年度農業機械化研究所年報 (H26. 9)
平成 26 年度農業機械化研究所年報 (H27. 9)

平成 27 年度農業機械化研究所年報 (H28. 7)

[事業報告]

平成 17～24 年度 ISSN 1880-3709

昭和 40 年度事業報告 (S41. 2)
*昭和 41 年度事業報告 (S42. 2)
*昭和 42 年度事業報告 (S43. 2)
*昭和 43 年度事業報告 (S44. 2)
昭和 44 年度事業報告 (S45. 2)
*昭和 45 年度事業報告 (S46. 2)
*昭和 46 年度事業報告 (S47. 2)
*昭和 47 年度事業報告 (S48. 2)
昭和 48 年度事業報告 (S49. 2)
昭和 49 年度事業報告 (S50. 2)
*昭和 50 年度事業報告 (S51. 2)
*昭和 51 年度事業報告 (S52. 3)
昭和 52 年度事業報告 (S53. 3)
昭和 53 年度事業報告 (S54. 3)
昭和 54 年度事業報告 (S55. 3)
昭和 55 年度事業報告 (S55. 3)
昭和 56 年度事業報告 (S57. 2)
昭和 57 年度事業報告 (S58. 2)
*昭和 58 年度事業報告 (S59. 2)
昭和 59 年度事業報告 (S60. 2)
昭和 60 年度事業報告 (S61. 2)
昭和 61 年度事業報告 (S62. 2)
*昭和 62 年度事業報告 (S63. 2)
*昭和 63 年度事業報告 (H1. 2)

平成元年度事業報告 (H2. 2)

平成2年度事業報告 (H3. 2)

平成3年度事業報告 (H4. 2)

平成4年度事業報告 (H5. 2)

平成5年度事業報告 (H6. 2)

平成6年度事業報告 (H7. 2)

平成7年度事業報告 (H8. 2)

平成8年度事業報告 (H9. 2)

平成9年度事業報告 (H10. 2)

平成10年度事業報告 (H11. 2)

平成11年度事業報告 (H12. 2)

平成12年度事業報告 (H13. 2)

平成13年度事業報告 (H14. 2)

平成14年度事業報告 (H15. 2)

平成15年度事業報告 (H16. 2)

平成16年度事業報告 (H17. 3)

平成17年度事業報告 (H18. 3)

平成18年度事業報告 (H19. 3)

平成19年度事業報告 (H20. 3)

平成20年度事業報告 (H21. 3)

平成21年度事業報告 (H22. 3)

平成22年度事業報告 (H23. 3)

平成23年度事業報告 (H24. 3)

平成23年度事業報告(別冊) (H24. 8)

平成24年度事業報告 (H25. 3)

平成25年度事業報告 (H26. 3)

[事業計画]

ISSN 2185-4955

平成22年度事業計画 (H22. 8)

平成23年度事業計画 (H23. 8)

平成24年度事業計画 (H24. 8)

[年 史]

*農機研10年史 (S49. 9)

農機研20年史 (S57. 9)

生研機構30年史 (H4. 10)

生研機構40年史 (H15. 9)

生研センター50年史 (H24. 10)

[海外技術調査報告]

ISSN 1880-0645

平成16年度海外技術調査報告 (H17. 3)

平成17年度海外技術調査報告 (H18. 3)

平成18年度海外技術調査報告 (H19. 3)

平成19年度海外技術調査報告 (H20. 3)

平成20年度海外技術調査報告 (H21. 3)

平成21年度海外技術調査報告 (H22. 3)

平成22年度海外技術調査報告 (H23. 3)

平成23年度海外技術調査報告 (H24. 3)

平成24年度海外技術調査報告 (H25. 3)

平成25年度海外技術調査報告 (H26. 3)

平成26年度海外技術調査報告 (H27. 3)

平成27年度海外技術調査報告 (H28. 2)

[研究報告会資料]

ISSN 1880-0637

平成18年度研究報告会 (H19. 3)

平成19年度研究報告会 (H20. 3)

平成20年度研究報告会 (H21. 3)

平成 21 年度研究報告会 (H22. 3)
平成 22 年度研究報告会 (H23. 3)
平成 23 年度研究報告会 (H24. 3)
平成 24 年度研究報告会 (H25. 3)
*平成 25 年度研究報告会 (H26. 3)
*平成 26 年度研究報告会 (H27. 3)
平成 27 年度研究報告会 (H28. 3)

- ・収穫・脱穀用機械に関する研究
- ・乾燥・貯蔵用機械に関する研究
- ・搬送・調製用機械に関する研究
- ・収穫から乾燥調製までの調査研究

*研究第Ⅲ部 (S43. 3)

- ・小型ロータリモータによる転集草の研究
- ・小型ロードワゴンの試作研究
- ・鶏糞乾燥機の排ガスの脱臭に関する試験
- ・りんご収穫作業の調査研究
- ・収穫用移動梯子車(HA-1型)の試作研究
- ・収穫用移動脚立車(HA-2型)の試作研究
- ・収穫用移動脚立車(HA-3型)の試作研究
- ・温室栽培の機械化に関する研究

*検査部 (S43. 3)

- ・わら処理カッタの試験方法に関する研究

[5] 試験研究成績 (研究成績)

平成 17~25 年度 ISSN 1880-0890

*昭和 38 年度研究成績 (S39. 3)

研究第Ⅰ部

- ・トラクター及び耕耘整地用機械に関する研究
- ・施肥播種用機械に関する研究
- ・移植用機械に関する研究
- ・防除灌排水用機械に関する研究

研究第Ⅱ部

- ・収穫脱穀用機械に関する研究
- ・乾燥貯蔵輸送加工用機械に関する研究
- ・飼料作物収穫用機械に関する研究
- ・家畜飼養管理用機械に関する研究
- ・果樹用蔬菜用機械に関する研究

*昭和 39 年度研究成績 (S40. 3)

研究第Ⅰ部

- ・原動機、トラクタおよび耕耘整地用機械に関する研究
- ・施肥播種用機械に関する研究
- ・移植用機械に関する研究
- ・防除灌排水用機械に関する研究

研究第Ⅱ部

- ・収穫・脱穀用機械に関する研究
- ・輸送・調製・加工用機械に関する研究
- ・乾燥・貯蔵用機械に関する研究

研究第Ⅲ部

- ・飼料作物用機械に関する研究
- ・家畜飼養管理用機械に関する研究
- ・果樹用機械に関する研究
- ・蔬菜用機械に関する研究

昭和 42 年度研究成績

*研究第Ⅰ部 (S43. 3)

- ・走行性に関する研究
- ・トラクタの耐久性に関する研究
- ・航空散布に関する研究

*研究第Ⅱ部 (S43. 3)

昭和 43 年度研究成績

*研究第Ⅰ部 (S44. 3)

- ・走行性に関する研究
- ・トラクタの耐久性に関する研究
- ・耕耘整地用機械に関する研究
- ・苗の物理性に関する研究
- ・土壤抵抗測定器の試作
- ・ロール式植付方式に関する研究
- ・土付苗用田植機に関する研究(成苗用)
- ・土付苗用田植機(成苗用)に適した苗取機および育苗法に関する研究

*研究第Ⅱ部 (S44. 3)

- ・収穫・脱穀用機械に関する研究
- ・刈取・結束・さい断用機械に関する研究
- ・乾燥・貯蔵用機械に関する研究
- ・搬送・調製用機械に関する研究

*研究第Ⅲ部 (S44. 3)

- ・鶏糞乾燥機の排ガスの脱臭に関する試験(第2報)
- ・振動収穫機の試作研究

*検査部 (S44. 3)

- ・乾燥機(たて型)の試験方法に関する研究

昭和 44 年度研究成績

研究第Ⅰ部 (S45. 3)

- ・微量散布機に関する研究
- ・多口ホース噴頭に関する研究

*研究第Ⅱ部 (S45. 2)

- ・コンバインの研究
- ・刈取・結束・さい断用機械に関する研究
- ・乾燥・貯蔵用機械に関する研究
- ・粉精選機の処理性能向上に関する研究

研究第Ⅲ部 (S45. 3)

- ・温室栽培の機械化に関する研究

*研究第Ⅲ部 (S45. 3)

- ・畜産汚水の土壌浸透法に関する研究

*検査部 (S45. 3)

- ・動力散布機の試験方法に関する研究
- ・動力噴霧機に使用される金属材料の農薬に対する耐食

性に関する試験

昭和45年度研究成績

研究第I部

(その1)トラクタの作業時変動負荷の頻度解析、走行性能の向上に関する研究(S46.3)

* (その2)防鳥機に関する研究(S46.4)

* 農業粉塵に関する研究(第1報)(S46.2)

研究第II部

* (その1)収穫用機械に関する研究(S46.2)

(その2)乾燥調製搬送用機械に関する研究(S46.2)

* (その3)移植用機械に関する研究(S46.4)

自脱コンバイン用走行装置に関する研究(S46.2)

* 収穫用機械に関する研究(S46.2)

* 循環式乾燥機の性能向上に関する研究(S46.2)

* 籾精選機の性能向上に関する研究(S46.2)

*46成績一研I(1)(S47.2)

一畑作における雑草の省力防除技術の確立に関する研究

*46成績一研I(2)(S47.3)

一走行性能の向上に関する研究

*46成績一研I(3)(S47.3)

一農業粉塵に関する研究(第2報)

*46成績一研I(4)(S47.5)

一圃場作業の無人化

*46成績一研II(1)(S47.2)

一乾燥調製用機械に関する研究

*46成績一研II(2)(S47.3)

一移植用機械に関する研究

*46成績一研III(1)(S47.3)

一果樹栽培における収穫、運搬の機械化に関する研究

*46成績一研III(2)(S47.3)

一ビニールハウス洗浄機に関する研究

*46成績一研III(3)(S47.3)

一園芸用温風暖房機の利用実態調査

*46成績一研III(4)(S47.5)

一米国における家畜飼養管理作業の機械化に関する調査報告(主として酪農に関して)

*46成績一検査(S47.3)

一乗用トラクタの取扱い性

*46成績一調査(1)(S47.2)

一野菜機械化の現状

*47成績一研I(1)(S48.2)

一畑作における雑草の省力防除技術の確立に関する研究

*47成績一研I(2)(S48.6)

一ハウス内作業の安全に関する研究(第1報)

*47成績一研II(1)(S47.12)

一コンバイン収穫籾の選別程度が乾燥・調製機の性能に及ぼす影響について

47成績一研II(2)(S48.2)

一いぐさの収穫作業に関する研究

47成績一研II(3)(S48.3)

一高温通風による穀物の超高速乾燥に関する研究(第2報)

*47成績一研II(4)(S48.4)

一超高速乾燥が大麥、グレインソルガムの消化率に及ぼす影響

47成績一研II(5)(S48.5)

一苗取機各部の解析的研究

*47成績一研III(1)(S48.2)

一そ菜調製貯蔵用機械に関する研究

*47成績一研III(2)(S48.2)

一施設栽培の機械化に関する研究

47成績一研III(3)(S48.2)

一フォレンジハーベスタに関する研究

47成績一研III(4)(S48.2)

一牧草の物理性に関する研究

*47成績一研III(5)(S48.3)

一微細断カッタに関する研究

*47成績一研III(6)(S48.6)

一果実・野菜の貯蔵に関する研究成果の概観

47成績一検査(1)(S48.3)

一自脱コンバイン試験方法に関する研究

47成績一検査(2)(S48.3)

一農業従事者の人体計測

*47成績一検査(3)(S48.7)

一西独・スウェーデンを主とした農業機械テストの概況

*47成績一調査(1)(S47.12)

一果樹機械化の現状

*48成績一研I(1)(S49.2)

－畑作における雑草の省力防除技術の確立に関する研究

*48 成績－研Ⅱ(1) (S49.4)

－コンバインの自動化に関する研究

*48 成績－研Ⅱ(2) (S49.6)

－超高速度乾燥が大麥、グレインソルガムの消化率に及ぼす影響

48 成績－研Ⅱ(3) (S49.11)

－いぐさの植付作業に関する調査研究

*48 成績－研Ⅲ(1) (S49.4)

－イネ科の乾草および稲わらの成形性に及ぼす粘結剤の効果

*48 成績－研Ⅲ(2) (S49.5)

－りんごの振動収穫に関する研究

*48 成績－研Ⅲ(3) (S49.5)

－熱風利用土壌消毒に関する研究

*48 成績－研Ⅲ(4) (S49.10)

－西独における施設園芸用機械および装置に関する調査報告

49 成績－研Ⅰ(1) (S50.12)

－農用トラクタの安全フレームに関する研究

*49 成績－研Ⅲ(1) (S50.4)

－サイレーン添加剤混入装置の試作研究

*49 成績－研Ⅲ(2) (S50.9)

－りんご用収穫作業台(HA-4X型)の試作研究

51 成績－研Ⅰ(1) (S52.2)

－農業機械・装置の耐久性に関する研究

－農薬に対する少量散布機材の耐食性の研究

51 成績－研Ⅰ(2) (S52.3)

－農業機械・装置の耐久性に関する研究

－追肥用粒状肥料に対する散粒機の耐久性

51 成績－研Ⅰ(3) (S52.7)

－西欧諸国における農業機械安全機能確認の制度と技術的諸問題に関する調査報告

*研究成績 52-1 (S52.10)

－飼料用作物の機械的脱水に関する研究(第1報)

研究成績 52-2 (S52.11)

－農業機械の修理・保守の費用と加速試験法に関する調査

研究成績 52-3 (S53.1)

－ハウス内作業の安全に関する研究(第2報)

－ハウス内温熱条件、作業分析工学的対策、炭酸ガス発生装

置の労働衛生的調査等について

研究成績 52-4 (S53.3)

－農業機械・装置の耐久性に関する研究

－農薬に対する少量散布機材の耐食性の研究(2)

研究成績 52-5 (S53.3)

－農業機械・装置の耐久性に関する研究

－追肥用粒状肥料に対する散粒機の耐久性(2)

*研究成績 53-1 (S53.7)

－農業機械の安全性に関する研究(中間報告)

研究成績 53-2 (S53.8)

－傾斜草地管理用機械の研究

研究成績 53-3 (S53.10)

－超高速度乾燥穀類の飼料価値に関する研究

研究成績 53-4 (S53.10)

－乗用トラクターPTO軸カバーに関する文献的調査

研究成績 53-5 (S54.2)

－堆肥製造の機械化に関する研究

*研究成績 53-6 (S54.3)

－農用トラクタけん引性能測定装置に関する研究

研究成績 53-7 (S54.3)

－傾斜草地用機械の研究

*研究成績 53-8 (S54.3)

－農業機械・装置の耐久性に関する研究(第1報)

*研究成績 54-1 (S54.7)

－農業機械の安全性に関する研究(第2報)

研究成績 54-2 (S54.8)

－果樹園草生管理の能率化に関する研究

研究成績 54-3 (S54.9)

－農作物残稈類の飼料化用機械に関する研究

*研究成績 54-4 (S55.2)

－水田利用再編対策に係る畑作物用機械の開発改良に関する研究(第1報) ッッッッッッッ c

研究成績 54-5 (S55.3)

－農業機械・装置の耐久性に関する研究(第2報)

研究成績 54-6 (S55.3)

－農業機械の取扱性評価に関する計量心理学的接近

研究成績 55-1 (S55.6)

－農業機械の安全性に関する研究(第3報)

研究成績 55-2 (S56. 2)

－水田利用再編対策に係る畑作物用機械の開発改良に関する研究(第2報)

研究成績 55-3 (S56. 3)

－農業機械・装置の耐久性に関する研究(第3報)

研究成績 55-4 (S56. 3)

－農業機械の安全性に関する研究(第4報)

研究成績 56-1 (S57. 2)

－水田利用再編対策に係る畑作物用機械の開発改良に関する研究(第3報)

研究成績 56-2 (S57. 3)

－農業機械の安全性に関する研究(第5報)

研究成績 56-3 (S57. 3)

－農業機械・装置の耐久性に関する研究(第4報)

研究成績 57-1 (S58. 2)

－水田利用再編対策に係る畑作物用機械の開発改良に関する研究(第4報)

研究成績 57-2 (S58. 3)

－農業機械の安全性に関する研究(第6報)

*研究成績 58-1 (S59. 3)

－土壌脱臭法の研究と応用

研究成績 58-2 (S59. 3)

－農業機械の安全性に関する研究(第7報)

研究成績 58-3 (S59. 3)

－水田転換畑における畑作物用機械の開発改良に関する研究

研究成績 58-5 (S59. 3)

－簡易草地更新用機械に関する調査研究

研究成績 59-1 (S59. 11)

－サイレーン用角型サイロの研究調査

研究成績 59-2 (S60. 3)

－農業機械の安全性に関する研究(第8報)

研究成績 59-3 (S60. 3)

－水田転換畑における畑作物用機械の開発改良に関する研究(第2報)

研究成績 59-4 (S60. 3)

－有機性廃棄物の嫌気性消化の研究

－メタン発酵によるローカルエネルギー変換技術の調査研究

研究成績 60-1 (S61. 3)

－農業機械の安全性に関する研究(第9報)

研究成績 60-2 (S61. 3)

－測定・データ処理システム開発に関する研究(第1報)

研究成績 60-3 (S61. 3)

－水田転換畑における畑作物用機械の開発改良に関する研究(第3報)

研究成績 61-1 (S62. 3)

－農業機械の安全性に関する研究(第10報)

研究成績 62-1 (S63. 3)

－農業機械の安全性に関する研究(第11報)

研究成績 63-1 (H1. 3)

－農業機械の安全性に関する研究(第12報)

研究成績 1-1 (H2. 3)

－農業機械の安全性に関する研究(第13報)

研究成績 1-2 (H2. 3)

－農村排水処理のための高効率バイオリアクタの研究(第1報)

研究成績 2-1 (H2. 6)

－接木苗の大量生産に関する研究(第1報)

研究成績 2-2 (H3. 3)

－農業機械の安全性に関する研究(第14報)

*研究成績 2-3 (H3. 3)

－農村排水処理のための高効率バイオリアクタの研究(第2報)

研究成績 2-4 (H3. 3)

－汎用型ロードワゴン機械収穫体系の開発

研究成績 3-1 (H4. 3)

－農業機械の安全性に関する研究(第15報)

*研究成績 3-2 (H4. 3)

－農村排水処理のための高効率バイオリアクタの研究(終報)

研究成績 4-1 (H5. 3)

－農業機械の安全性に関する研究(第16報)

研究成績 4-2 (H5. 3)

－農村排水処理技術の開発(第1報)

研究成績 4-3 (H5. 3)

－地下角型サイロ用トップアンローダの研究

- 研究成績 5-1 (H6. 3)
－接木苗の大量生産に関する研究(第 2 報)
- 研究成績 5-2 (H6. 3)
－農業機械の安全性に関する研究(第 17 報)
- 研究成績 5-3 (H6. 3)
－農村排水処理技術の開発(第 2 報)
- 研究成績 6-2 (H7. 3)
－搾乳の自動化に関する調査資料
- 研究成績 7-1 (H8. 3)
－搾乳の自動化に関する調査資料II
- 研究成績 8-1 (H8. 7)
－穴播き式不耕起施肥播種機の開発
- 研究成績 9-1 (H10. 3)
－農業機械の安全性に関する研究(第 18 報)
- 研究成績 10-1 (H11. 3)
－農業機械の安全性に関する研究(第 19 報)
- 研究成績 11-1 (H11. 7)
－太陽熱利用の穀物乾燥貯留施設に関する調査報告書
- 研究成績 11-2 (H12. 3)
－農業機械の安全性に関する研究(第 20 報)
- 研究成績 12-1 (H12. 5)
－農業機械の耐久性調査研究
- 研究成績 12-2 (H13. 3)
－農業機械の安全性に関する研究(第 21 報)
- 研究成績 13-1 (H14. 3)
－農業機械の安全性に関する研究(第 22 報)
- 研究成績 14-1 (H15. 3)
－農業機械の安全性に関する研究(第 23 報)
- 研究成績 14-2 (H15. 3)
－農業資材のリサイクル化に関する研究(第 1 報)
－農業機械等の廃棄処理に関するアンケート調査
- 研究成績 15-1 (H16. 3)
－農業資材のリサイクル化に関する研究(第 2 報)
－農業機械等の廃棄処理の現状と課題
- 研究成績 15-2 (H16. 3)
－農業機械の安全性に関する研究(第 24 報)
- 研究成績 16-1 (H16. 6)
－イチゴの収穫・選果ロボットに関する調査結果概要
- 研究成績 16-2 (H16. 8)
－野菜類の斉一育苗技術の開発(第 1 報)
- 研究成績 16-3 (H17. 3)
－農業資材のリサイクル化に関する研究(第 3 報)
－使用済み農用ゴムクローラの切断技術(その 1)
－産業廃棄物処理業者を対象とした使用済みゴムクローラ等の廃棄処理に関する調査結果概要
- 研究成績 16-4 (H17. 3)
－農業機械の安全性に関する研究(第 25 報)
- 試験研究成績 17-1 (H18. 3)
－農業資材のリサイクル化に関する研究(第 4 報)
- 試験研究成績 17-2 (H18. 3)
－農業機械コストの多面的分析(第 1 報)
- 試験研究成績 17-3 (H18. 3)
－農業機械の安全性に関する研究(第 26 報)
- 試験研究成績 17-4 (H18. 3)
－自走式細断型ロールベアラの開発(第 4 報)
- 試験研究成績 18-1 (H18. 8)
－野菜類の斉一育苗技術の開発(第 2 報)
- 試験研究成績 18-3 (H19. 3)
－農業機械の安全性に関する研究(第 27 報)
- 試験研究成績 19-1 (H19. 5)
－農業機械のユニバーサルデザイン指針－ 1
- 試験研究成績 19-2 (H20. 3)
－農業機械の安全性に関する研究(第 28 報)
- 試験研究成績 20-1 (H20. 10)
－農業機械の圃場間移動に関する現状調査結果
- 試験研究成績 20-2 (H21. 3)
－農業機械の安全性に関する研究 (第 29 報)
- 試験研究成績 21-1 (H22. 6)
－農業機械の安全性に関する研究 (第 30 報)
- 試験研究成績 22-1 (H22. 7)
－農業機械における省エネルギー化と温室効果ガス抑制に関する研究成果と研究方向
- 試験研究成績 22-2 (H22. 7)
－TMR センターの混合飼料調製・出荷作業に関するアンケート

ト調査結果概要

試験研究成績 22-3 (H23. 5)
－農業機械の安全性に関する研究 (第 31 報)

試験研究成績 23-1 (H24. 5)
－農業機械の安全性に関する研究 (第 32 報)

試験研究成績 24-1 (H25. 7)
－農業機械の安全性に関する研究 (第 33 報)

試験研究成績 25-1 (H26. 6)
－農業機械の安全性に関する研究 (第 34 報)

試験研究成績 26-1 (H27. 6)
－農業機械の安全性に関する研究 (第 35 報)

[6] その他の資料

- * 蔬菜生産の機械化に関する研究課題 (S39. 7)
- * 果樹作の機械化に関する研究課題 (S39. 7)
- * 養畜の機械化に関する研究課題 (S39. 7)
- * コンバイン・スレッシャの脱穀機構およびストローラックに関する研究 (S40. 2)
- * 検査結果からみた自動脱穀機の性能 (S40. 6)
- * 施肥播種機の研究 (S40. 7)
- * 農業機械への人間工学適用に関する研究 (S40. 9)
- * トラクタ・サイズの経済的考察 (S40. 9)
- * 小型収穫機 (S40. 10)
- * 土付苗用田植機に関する研究(中間報告) (S40. 11)
- * アメリカ合衆国における果樹栽培の機械化、特に収穫の機械化について (S40. 11)
- * 施肥播種機の試作研究 (S41. 2)
- * フォレージハーベスタに関する研究 (S41. 2)
- * 軟弱地盤における装軌式トラクタの接地圧並びにその分布と牽引性能に関する基礎的研究 (S41. 5)
- * 米国における米の乾燥機及び乾燥施設 (S41. 7)
- * ドイツ DLG 農業機械試験関係資料および英・独・瑞の農業

機械試験成績 (S42. 3)

- * 土地利用と機械化・機械化と栽培技術に関する調査研究 (S42. 7)
 - * 米国における稲・麦等の収穫・調製・加工・輸送用機械に関する研究調査報告 (S42. 9)
 - * 農機工業と農業機械化 (S42. 11)
 - * 機械化営農の一事例に関する資料 (S42. 11)
－新潟県北魚沼郡湯の谷村
 - * 稲作機械化の方向 (S42. 12)
 - * 機械化に積極的な農家の機械化への要望 (S42. 12)
－農業機械に関するアンケート調査概要
 - * 共同催芽施設に関する調査 (S42. 12)
 - * タマネギの貯蔵と選別に関する調査 (S42. 12)
 - * 飼料作物用機械における刃物、爪類に関する調査 (S43. 1)
 - * トラクタの利用及び故障調査 (S43. 3)
 - * 主要農業機械に関する問題点の調査 (S43. 3)
 - * ハクサイ貯蔵の現況と貯蔵施設の問題点 (S43. 7)
 - * アメリカ・イギリス・オランダにおける蔬菜栽培の機械化について (S43. 11)
 - * 水稻湛水直播機の利用実態と問題点 (S43. 12)
－暖地 4 県下における
 - * 主要農業機械に関する問題点(背負動力散布機、穀物用通風乾燥機、カッター) (S43. 12)
 - * 水稻の収穫機械化に関する研究 (S44. 2)
 - * バインダおよび自脱コンバイン収穫と乾燥・調製作業についての農家における実態調査 (S44. 3)
 - * 普通型コンバインとライスセンタによる収穫から乾燥調製までの諸機械の調査研究 (S44. 5)
 - * 田植機と収穫機に関する調査概要 (S44. 6)
- 資料館陳列品目録 (S44. 8)
- * 米国における防除機械について (S44. 9)
 - * トラクタによる人身事故 (S45. 1)

- * 水稲湛水直播機の利用実態と問題点 (S45. 1)
ー北海道上川地区における
- * 水稲の収穫・乾燥条件が籾摺・精白に及ぼす影響 (S45. 2)
- * 水稲の1株内の稈長の変異について (S45. 2)
- * 通気貯蔵・貯蔵乾燥に関する研究 (S45. 3)
- * 小形収穫・乾燥・調製機の農家における利用実態 (S45. 4)
- * 飼料作物用小型収穫機の試作研究 (S45. 5)
- * バインダ・自脱コンバインの耐久性向上に関する研究 (S45. 5)
- * 園芸用機械の開発方向 (S45. 7)
- * 甘蔗収穫機の試作と沖縄における改良研究 (S45. 10)
- * トラクタの耐久性に関する研究 (S45. 12)
- * 酪農機械化の方向 (S45. 11)
- * 酪農機械化に関するアンケート結果概要 (S45. 12)
- * 戦後農業機械化の概要 (S45. 12)
- * 農業粉塵に関する研究(第1報) (S46. 2)
- * 輸入畜産用機械の性能試験(中間報告) (S46. 2)
- 研究・検査等の主要な狙いと成果 (S49. 7)
- 農業機械化研究拡充の方向 (S50. 1)
- * 農業機械化に関するモニタ・アンケート調査 (S52. 3)
ー田植機・歩行型トラクタの故障実態調査
- * 傾斜地用農業機械・施設に関する現状と問題点 (S54. 3)
- * 大豆刈取り機と大豆脱穀機の性能 (S54. 5)
- * 大豆作用機械の開発と実用化 (S59. 2)
- 農業機械化研究所の成果 (S61. 9)
- BRAIN 国際シンポジウム 2000 (21 世紀の農業・環境を活かす革新技術) (H11. 11)
- 農作業現場改善チェックリストと解説 (H12. 3)
- * 農業労働の計測・評価ガイドー 1 (H14. 3)
- 改善事例集 I (農作業の安全・快適性向上に向けた) (H14. 8)
- 農業労働の計測・評価ガイドー 2 (H15. 3)
- 改善事例集 II (農作業の安全・快適性向上に向けた) (H15. 9)
- トラクター、作業機を選ぶときは機械のマッチングを確認しましょう (H15. 11)
- 改善事例集 III (農作業の安全・快適性向上に向けた) (H16. 8)
- 改善事例集 IV (農作業の安全・快適性向上に向けた) (H17. 3)
- 農業機械のコスト、満足度等に関する意識調査 (H17. 3)
ー農家アンケート調査結果概要
- ゲーム感覚で学ぶ農作業安全～トラクタ編～(改訂版) Windows 用 CD-ROM (H20. 4)
- 農業機械の事故実態に関する農業者調査結果(第2報)
ー自脱型コンバイン及び運搬車両 (H20. 5)
- 細断型ロールペーラ利用マニュアル (H20. 7)
- 資料館陳列品目録(改訂版) (H23. 12)
- [各種委員会報告]**
- 耐久性委員会報告 (S52. 3)
- 新機種開発目標設定委員会報告 (S52. 9)
- 資源委員会報告 (S52. 9)
- * 土・機械系研究委員会資料 No. 1 (S59. 2)
ー機械利用から見た土壌の評価および土・機械系の問題点に関する調査
- 土・機械系研究委員会資料 No. 2 (S60. 1)
ー農業機械の開発・製造・販売から見た土壌の評価および土・機械系の問題点に関する調査
- * 土・機械系研究委員会資料 No. 3 (S60. 3)
ー土壌に関連する農業機械の文献要録 1976～1983 年版
- 先端技術活用研究委員会検討資料 No. 1～6 (S60. 10)
ーセラミックセンサ、セラミックエンジン、新素材、センシング、農業用ロボット、バイオテクノロジー・化学
- 先端技術活用研究委員会検討資料 No. 7 (S61. 3)
ー農業機械化研究所における自動制御装置等先行的技術開発事例集

土・機械系研究委員会資料No. 4 (S61.5)
—土一機械系に関する測定・研究手法の調査

土・機械系研究委員会資料No. 5 (S61.7)
—土一機械系研究委員会現地研究会の成果とりまとめ報告

土・機械系研究委員会資料No. 6 (S61.8)
—土壌槽実験施設設計上の問題点に関する調査

情報処理技術研究委員会検討資料No. 1 (H1.3)
—コンピュータによる計測データ処理システム

情報処理技術研究委員会検討資料No. 2 (H2.3)
—データベースによる情報の収集・利用

情報処理技術研究委員会検討資料No. 3 (H2.3)
—コンピュータによる農業機械の設計支援技術

基礎的・先導的技術研究委員会活動報告書(H3.3)
—農業機械・施設のハイテク化に関する調査
①基礎的・先導的技術委員会報告書
②農業機械・施設のハイテク化に関する調査(バイオテク
ノロジー編)
③農業機械・施設のハイテク化に関する調査(メカトロニ
クス編)

環境保全技術研究委員会報告書 (H5.3)
—農業機械化に関連する環境保全対応技術と展望

農業機械安全等情報委員会活動報告書 (H13.5)
—農業機械安全情報システムの構築

所内特研(大型)平成12～16年度総括報告書 (H17.3)
—次世代農業機械開発のための基礎技術開発

[農機研の動き]

- *研究・検査・鑑定の歩み(農機研の動き1) (S43.5)
- *振動収穫に関する研究の現状と今後の課題(農機研の動き2) (S44.2)
- *畜産公害と脱臭(農機研の動き3) (S46.4)
- *省力防除と微量散布機(農機研の動き4) (S47.3)
- *さとうきび小形刈取機(農機研の動き5) (S50.3)

[測定法テキスト]

- *農用トラクター(乗用型)検査の主要な実施方法及び基準(測定法テキストNo.1) (S45.7)
- *回転速度の測定(測定法テキストNo.2) (S45.7)

*トルク・所要動力の測定と変動負荷データのまとめ方(測定法テキストNo.3) (S45.7)

*土と動的性質と農業機械(測定法テキストNo.4) (S45.7)

*風量と風圧の測定法(測定法テキストNo.5) (S45.7)

*穀物に関する測定法(測定法テキストNo.6) (S45.7)

*飼料作物用機械試験法(測定法テキストNo.7) (S45.7)

[モニター農家]

*モニター農家事業中間報告書 (S62.10)
—自脱コンバインを利用した専業農家の経営と意見

モニター農家事業(10年のあゆみ) (H5.3)

—モニター農家の機械化経営と意見

[7] 翻訳等

*EEC諸国における機械化のための農業投資(翻訳) (S39.11)

*農業における作業能率と労働計算(翻訳) (S39.11)

*西ドイツの農業賃機械業(翻訳) (S42.3)

*米国における農業建築物の発展と研究動向 (S44.3)

*農業施設内の作業効率向上への接近 (S44.7)

*ドイツ農業事故防止規程抜萃(仮訳) (S44.8)

*トラクタ安全キャブおよび安全フレーム (S45.5)

*農業におけるシステムズ・エンジニアリング (S45.11)
—概説

*西ドイツにおける草地 (S46.9)
—酪農の経営的研究

*西ドイツにおける草地 (S47.3)
—肉牛飼養の諸形態

*タイ国とマレーシアにおけるトラクタ賃作業の調査(翻訳) (S47.9)

*開発途上国の農業機械化と農機具工業(翻訳) (S49.2)

*アイオワ大学における農作業事故に関する研究(翻訳) (S50.1)

*農業と燃料(仮訳) (S50.6)

- *農業機械に関する米国特許(1950~1966年) (S43. 3)
- *農業機械に関するフランス特許(1956~1966年) (S43. 10)
- *農業機械に関する英国特許(1947~1962年) (S44. 1)
- *農業機械に関する西独特許(1955~1966年) (S44. 4)
- *農業機械に関するイタリア特許(1959~1962年) (S44. 11)
- *農業機械に関する米国特許(1967~1970年) (S48. 5)
- *農業機械に関する英国特許(1967~1970年) (S48. 5)
- *農業機械に関するフランス特許(1967~1970年) (S48. 5)
- *農業機械に関する西独特許(1967~1970年) (S48. 5)
- *農業機械に関する米国特許(1970~1972年) (S48. 8)
- *農業機械に関する英国特許(1970~1972年) (S48. 8)
- *農業機械に関するフランス特許(1970~1972年) (S48. 8)
- *農業機械に関する西独特許(1970~1972年) (S48. 8)

[8] 文献目録

- *国内逐次刊行物目録 (S41. 1)
—昭和40年12月末現在
- *農業機械の安全性に関する文献目録 (S44. 11)
- 農業機械の安全性に関する文献目録(1976年版) (S51. 4)
- 耕耘整地用機械の研究に関する文献目録 (S51. 4)
- 穀物乾燥技術に関する最近の主な国内文献紹介 (S51. 7)
—米麦を中心として
- 防除機に関する文献目録 (S52. 3)
- [農業機械化研究所蔵書目録—外国農業機械関係(寄贈分)]**
- *昭和40年7月~41年3月 (S41. 8)
- *昭和45年2月~45年9月 (S45. 11)
- *昭和45年10月~46年12月 (S47. 3)
- *昭和47年1月~48年3月 (S48. 5)
- *昭和48年4月~49年3月 (S49. 9)

- *昭和49年4月~50年3月 (S50. 7)
- *昭和50年4月~51年3月 (S51. 5)
- 昭和51年4月~52年3月 (S52. 5)
- 昭和52年4月~53年3月 (S53. 6)
- 昭和53年4月~54年3月 (S54. 6)
- 昭和54年4月~55年3月 (S55. 6)
- 昭和55年4月~56年3月 (S56. 6)
- 昭和56年4月~57年3月 (S57. 10)

[農業機械化研究所蔵書目録—和書]

- *昭和37年10月~40年12月 (S47. 11)
- *昭和41年1月~48年12月 (S49. 7)
- *昭和49年1月~50年3月 (S50. 5)
- *昭和50年4月~51年3月 (S51. 5)
- 昭和51年4月~52年3月 (S52. 5)
- *昭和52年4月~53年3月 (S53. 5)

[農業機械化研究所蔵書目録—洋書]

- *昭和37年~38年 (S51. 12)
- *昭和39年~40年 (S52. 10)
- *昭和41年~50年 (S53. 5)

[農業機械化研究所蔵書目録—和書・洋書]

- 二瓶文庫目録 (S54. 2)
- 農業機械化研究所蔵書目録 (S54. 6)
—和書(昭和53年4月~54年3月)
—洋書(昭和51年1月~54年3月)
- 昭和54年4月~55年3月 (S55. 5)
- *昭和55年4月~56年3月 (S56. 5)
- *昭和56年4月~57年3月 (S57. 5)
- *昭和57年4月~58年3月 (S58. 5)

* 棕本文庫目録 (S59. 2)

* 昭和 58 年 4 月～59 年 3 月 (S59. 4)

昭和 59 年 4 月～60 年 3 月 (S60. 4)

昭和 60 年 4 月～61 年 3 月 (S61. 4)

昭和 61 年 4 月～62 年 3 月 (S63. 3)

昭和 62 年 4 月～63 年 3 月 (H1. 3)

昭和 63 年 4 月～元年 3 月 (H1. 12)

平成元年 4 月～2 年 3 月 (H3. 3)

平成 2 年 4 月～3 年 3 月 (H4. 3)

[9] 機械化情報関係

[海外における有意製品]

* 海外における農業機械・施設の有意製品 (No. 1) (S50. 2)

* 海外における農業機械・施設の有意製品 (No. 2) (S51. 1)

海外における農業機械・施設の有意製品 (No. 3) (S51. 8)

海外における農業機械・施設の有意製品 (No. 4) (S52. 6)

海外における農業機械・施設の有意製品 (No. 5) (S53. 8)

海外における農業機械・施設の有意製品 (No. 6) (S56. 4)

海外における農業機械・施設の有意製品 (No. 7) (S58. 4)

海外における農業機械・施設の有意製品 (No. 8) (S60. 4)

[海外における農業機械・施設製造会社一覧]

* アメリカ合衆国編 (S51. 1)

* イギリス編 (S52. 10)

* フランス編 (S52. 12)

* 西ドイツ編 (S53. 11)

* イタリア編 (S54. 10)

* 北欧編 (S55. 1)

アメリカ合衆国編(改訂版) (S55. 9)

イギリス編(改訂版) (S56. 9)

フランス編(改訂版) (S57. 8)

* その他西欧編 (S57. 11)

西ドイツ編(改訂版) (S58. 9)

* イタリア編(改訂版) (S59. 4)

* カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、イスラエル編 (S59. 10)

北欧編(改訂版) (S60. 4)

農業機械・施設機種別製造会社一覧 (S58. 1)

— 農用トラクタ編

* 農業機械・施設機種別製造会社一覧 (S58. 5)

— 栽培管理用機械施設編

農業用特殊トラクタ(製品情報室の収集カタログより見た乗用特殊トラクタ) (S58. 3)

農業機械・施設機種別製造会社一覧 (S58. 7)

— 防除用機械編

* 農業機械・施設機種別製造会社一覧 (S59. 6)

— 穀菽類収穫・乾燥・貯蔵・調製・加工機械施設編

農業機械・施設機種別製造会社一覧 (S59. 12)

— 果樹用機械・特用作物用機械編

* 農業機械・施設機種別製造会社一覧 (S60. 6)

— 野菜用機械編

農業機械・施設機種別製造会社一覧 (S60. 12)

— 飼料生産・調製用機械施設編

2. 農業技術革新工学研究センター (平成28年4月～令和3年3月)

[1] 年報・年次報告等

[事業報告]

平成28年度事業報告 (H29.3)

平成29年度事業報告 (H30.3)

平成30年度事業報告 (H31.3)

令和元年度事業報告 (R2.3)

令和2年度事業報告 (R3.3)

[研究報告会資料]

平成28年度革新工学センター研究報告会 (H29.3)

平成29年度革新工学センター研究報告会 (H30.3)

平成30年+6.9+度革新工学センター研究報告会 (H31.3)

令和元年度革新工学センター研究報告会 (R2.3)

令和2年度革新工学センター研究報告会 (R3.3)

[2] 試験研究成績

試験研究成績 (H28.6)

-農業機械の安全性に関する研究(第36報)

試験研究成績 (H29.3)

-農作業ロボットの安全性確保に関する研究(第3報)

[3] 検査

[O. E. C. D. 関連]

Report on test in accordance with
O. E. C. D. Standard Code for the Official Testing of
Protective Structures on Agricultural and Forestry
Tractors (Code4, Static Test)

KUBOTA IC1000MR Cab (R1.9)

KUBOTA SFMU-55 Rear roll bar (R2.3)

ISEKI SC186 Cab (R2.7)

KUBOTA IC1000MR Cab (R2.10)

※研究所年報、海外技術調査報告はweb刊行のみ

3. 農業機械研究部門 (令和3年4月～)

[1] 年報・年次報告等

[農業機械研究部門年報] (web刊行)

令和3年度農業機械研究部門年報 (R5.2)

令和4年度農業機械研究部門年報 (R5.11)

令和5年度農業機械研究部門年報 (R6.12)

[事業報告]

令和3年度事業報告 (R4.3)

令和4年度事業報告(web刊行) (R5.4)

令和5年度事業報告(web刊行) (R6.4)

[研究報告会資料] (web刊行)

令和3年度農業機械研究部門研究報告会 (R4.3)

令和4年度農業機械研究部門研究報告会 (R5.3)

令和5年度農業機械研究部門研究報告会 (R6.3)

令和6年度農業機械研究部門研究報告会 (R7.3)

[海外技術調査報告] (web刊行)

令和4年度海外技術調査報告 (R6.3)

令和5年度海外技術調査報告 (R6.10)

[年史]

農研機構農業機械研究部門60年史 (R5.10)

[2] 検査

[O. E. C. D. 関連]

Report on test in accordance with
O. E. C. D. Standard Code for the Official Testing of
Protective Structures on Agricultural and Forestry
Tractors(Code4,Static Test)

KUBOTA SFMU-45 Rear roll bar (R4.2)

KUBOTA SFL-45 Rear roll bar (R4.2)

KUBOTA IC1000HMR Cab (R4.3)

KUBOTA IC1000MR Cab (R4.9)

KUBOTA SFMU-55A Rear roll bar (R5.4)

Ⅷ 案内図

さいたま研究拠点

周辺図

埼玉県さいたま市北区日進町1-40-2

- JR「大宮駅」から東武バス：大宮駅西口6、7番乗場より、「三進自動車」・「シティハイツ三橋」行き乗車、「自衛隊入り口」下車



つくば研究拠点

周辺図

茨城県つくば市観音台1-31-1

- JR常磐線「牛久駅」から関東鉄道バス：牛久駅(西口)つくばセンター方面行き「谷田部車庫・生物研大わしキャンパス・筑波大学病院」行き乗車、「農林団地中央」下車、徒歩15分
- つくばエクスプレス (TX)「みどりの駅」から関東鉄道バス「牛久駅」行き乗車、「中宿」下車、徒歩7分
- つくばエクスプレス (TX)「つくば駅」からつくばバス「荃崎老人福祉センター」行き乗車、「農林団地中央」下車、徒歩15分



附属農場

周辺図

埼玉県鴻巣市境1389

- JR高崎線「鴻巣駅」から鴻巣市コミュニティバス：フラワー号「共和コース」乗車、「県央みずほ斎場」下車



本報告の取扱いについて

本報告の全部又は一部を無断で転載・複製（コピー）することを禁じます。
転載・複製に当たっては、必ず当部門の許諾を得てください。

問い合わせ先：

農研機構農業機械研究部門 研究推進部 研究推進室（広報チーム）

TEL：048-654-7030

メール：iam-koho@ml.affrc.go.jp

農業機械研究部門年報（令和6年度(2024年度)）

令和7年11月6日 発行

〒331-8537 埼玉県さいたま市北区日進町1-40-2

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
農業機械研究部門
